

# 琵琶湖博物館 年報

**12号** 平成19(2007)年度



LAKE BIWA MUSEUM  
琵琶湖博物館

---

## ごあいさつ

---

日ごろから私は、「琵琶湖博物館は<ずるい>博物館だ」と申しています。資料収集・研究・展示・交流のすべてについて、館外のさまざまな方々のご支援・ご協力に多くのことを負っているからです。その琵琶湖博物館も2007年10月には、公開してから満11年を迎えました。

2007年度は、10周年記念事業の1つとしてまず、第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話 -東アジアの中の湖と人-」を開きました。これは開館以来約10年にわたって進めてきた総合研究「東アジアの中の琵琶湖 -コイ科魚類を展開の軸とした環境史に関する研究-」に基づくもので、前年度の今森さんの写真を素材とするものと合わせて、その集大成を試みたものです。従って、企画においても内容においても、この総合研究に共同研究者として参加して貰った館外の多くの方々に、その多くを負っています。また、この企画展示の関連行事として行われた交流事業の多くは、琵琶湖博物館「はしかけ」の「びわたん」・「うおの会」など、館の職員以外の方々に運営して貰いました。

これに合わせた水族企画展示では、「東アジアのタナゴたち」と題して、日本列島のみならず、中国大陸や朝鮮半島の生きた個体を、延べ30種展示することが出来ました。これについてもまた、国内国外の多くの機関や個人のご協力を頂き、その結果としてこの展示が可能になったのです。

また、3つのギャラリー展示を行ないましたが、これまたすべて、館外の多くの皆さんの協力を得たものです。まず、「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」は、滋賀県とその周辺で鉱物・化石の採集を行っている「湖国もぐらの会」の人々の集めたものが、多彩に展示されました。次の「漁業・環境ミュージアム -注文の多い湖魚の料理店」は、「第27回全国豊かな海づくり大会」にかかわった滋賀県内の多くの人々が参加して作り上げたものです。最後の「淡海の博物館」は、滋賀県博物館協議会を構成している87館の皆さんが、共同して作り上げたものです。

2006年度に試験的に進めていた「集う・使う・創る 新空間」も、年度内に16団体によって出展・利用が行なわれました。これは、地域の人々が自らが行っている活動や考えなどを、他の利用者知らせ、意見を交換し、互いの交流を深めて行くための空間です。

「はしかけ」・「フィールドレポーター」の皆さんの活動も、進んできています。琵琶湖博物館に深くかかわり、ともに博物館をつくりあげていく方々の存在は、交流・展示ばかりではなく、資料収集や研究を進めるうえでも、ますます重要になってきています。

このような、積極的に琵琶湖博物館を支えて下さっている多くの方々に、ここで改めて深く感謝の意を表します。琵琶湖地域の方々を中心とする世界中の多くの皆さんによって、琵琶湖博物館はあるのです。そして、このように多くの方々といっしょに博物館事業を進めていくことが、中長期目標「地域だれでも、どこでも博物館」の目的なのです。こう申せば、「ずるい博物館」と自ら呼称していることの意味が、いっそう判って頂けるでしょうか。しかしそのためには、博物館の職員はさらにいっそうプロとしての役割を果たさなければなりません。

私どもへの厳しくも建設的なご批判とともに、いっしょに琵琶湖博物館を作り上げていくためのご意見・ご協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

2008年八朔の日に

滋賀県立琵琶湖博物館  
館長 川那部 浩哉

# 目 次

ごあいさつ	1
<b>I 博物館機能の強化</b>	
<b>1 資料が活用できる博物館</b>	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 寄贈者および提供者一覧	7
(3) 購入資料一覧	8
(4) 水族繁殖生物	8
(5) 資料情報の公開	9
(6) 資料の利用	12
(7) 資料保管	18
(8) 燻蒸	18
(9) 資料評価委員	19
<b>2 研究を進めて活かせる博物館</b>	
研究調査活動	
(1) 総合研究	20
(2) 共同研究	20
(3) 専門研究	21
(4) 公表された主な研究業績	22
(5) 研究助成を受けた研究	24
(6) 琵琶湖博物館研究発表会	26
(7) 特別研究セミナー	26
(8) 研究セミナー	26
(9) 特別研究員の受け入れ	28
(10) 海外交流活動	28
<b>3 新たな参加と発見ができる博物館</b>	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	30
(2) 企画展示	31
(3) 水族企画展示	35
(4) ギャラリー展示	37
(5) トピックス展示	40
(6) 集う、使う、創る 新空間	40
展示交流事業	
(1) 水族展示の交流	41
(2) 展示交流員と話そう	43
<b>4 体験と交流を促す博物館</b>	
一般利用者へのサービス事業	
(1) 観察会・見学会等	45
(2) 講座	46
(3) 体験教室	49
学校連携事業および体験学習	
(1) 教職員等研修	50
(2) 視察対応	51
(3) 学校団体向け体験学習	51
(4) 一般団体向け体験学習	52

(5) 学校サテライト博物館事業	52
(6) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」の活動	53
(7) 職場体験実習	54
(8) 博物館実習	54
国際交流活動	
(1) 「JICA 博物館集中コース」の実施	55
(2) 海外からの視察	57
<b>5 対話と応援ができる博物館</b>	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	59
(2) はしかけ制度	60
地域交流活動への支援事業	
(1) 地域活動の支援（博物館内）	70
(2) 地域活動の支援（博物館外対応）	72
(3) 博物館ガイダンス	73
(4) 質問コーナー・フロアトーク	74
情報発信活動	
(1) 通信網を利用した館外への情報提供	74
(2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス	75
(3) 印刷物	77
<b>II 環境の整備</b>	
<b>1 拠点としての施設整備</b>	
(1) 利用者用施設の整備	78
(2) 情報システムの整備	78
(3) 来館者アンケート調査結果	78
<b>2 柔軟な運営組織</b>	
(1) 組織	83
(2) 職員	84
<b>3 社会的支援と新しい経営</b>	
(1) 利用状況（2007年度入館者数）	88
(2) 新聞掲載記録	90
(3) 雑誌等掲載記録	100
(4) テレビ放映・ラジオ放送記録	103
(5) 予算	106
<b>4 存在基盤の確立</b>	
(1) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	107
(2) 企画・計画	107
<b>III 2006年度をふり返って</b>	
1 研究部	108
2 事業部	108
3 総務部	109
<b>IV 博物館利用のご案内</b>	112
<b>2007年度 職員紹介</b>	113

# I 博物館機能の強化

## 1 資料が活用できる博物館

### 資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域におよぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。

以下に2007年度の資料整備状況を示す。

### (1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、植物標本、動物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2007年度末現在で、博物館登録資料は415,164で、収蔵概数は740,241となった。

これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

### 【収蔵資料のまとめ】

2008年3月現在

	登録資料数	収蔵概数	2007年度登録数	2007年度受入総数
地学	31,963	38,450	4,139	5,484
植物	83,951	163,579	4,425	179
動物	97,163	247,600	3,221	3,585
微生物	0	57,602	0	489
水族（生体）	26,222	26,222	22,791	22,791
考古	0	1,346箱と334点	0	0
歴史	0	199	0	1
民俗	5,138	6,992	2,554	33
環境	0	45箱と739点	0	9
図書	92,729と 2,232タイトル	109,557	4,316と 438タイトル	3,010と 438タイトル
映像	75,766	87,576	0	5,350
合計	415,164	740,241	41,884	41,369

【各分野別の詳細】

地学標本	2007年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	2,692	43	4,774	0	0	4,817	標本の整理(容器の入替・保存処理など)、登録、配架 プレパラート作製、化石プレパレーション	21,354	27,497
岩石・鉱物	681	0	574	0	0	574		7,560	7,654
堆積物	673	0	0	0	0	0		2,458	2,221
プレパラート	93	14	0	0	0	93		591	1,078
小 計	4,139	57	5,348	0	0	5,484		31,963	38,450

植物標本	2007年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	4,425	15	0	0	160	175	標本受入・登録・ラベル貼付け・収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	83,951	163,401
菌類乾燥標本	0	0	0	0	4	4		0	120
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	4,425	15	0	0	164	179			83,951

動物標本	2007年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物(魚類除く)	170	0	1	0	1,139	1,140	標本の受入、計測、製作、データの修正	932	1,972	
内 訳	哺乳類骨格標本	0	0	1	0	0		1	192	194
	哺乳類剥製標本	0	0	0	0	0		0	8	8
	哺乳類(その他)	0	0	0	0	737		737	100	837
	鳥類骨格標本	0	0	0	0	28		28	110	157
	鳥類乾燥標本 (巣、卵、レプリカ等含む)	0	0	0	0	47		47	313	409
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0		0	34	35
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0		0	3	3
	爬虫類液浸標本	23	0	0	0	40		40	23	40
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0		0	2	2
	両生類液浸標本	147	0	0	0	287		287	147	287
魚類(淡水魚類)	654	1	0	0	653	654		47,809	81,741	
内 訳	乾燥骨格標本	1	1	0	0	0		1	2,591	2,591
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0		0	3,672	3,672
	液浸標本	653	0	0	0	653	653	41,546	75,478	
昆虫	328	264	439	0	642	1,345	34,598	143,204		
内 訳	昆虫液浸標本	249	130	11	0	250	391	データベース公開12,483件、ソーティング(小分け)、同定、ラベル添付及び修正、トビケラ類タイプ標本を含む収納整理作業1,189本、アルコール液点検31,000本、	12,483	30,991
	昆虫乾燥標本	79	134	428	0	392	954	タイプ標本のDB登録79件、村山コレクション整理8,406件、標本作成368件	22,115	112,213
貝類	2,069	0	0	0	138	138	データベース公開13,824件、ソーティング(小分け)、同定、ラベル添付、収納整理作業1,825本、アルコール液点検13,900本、	13,824	13,838	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物(甲殻類、寄生虫など)	0	32	0	0	276	308		0	6,845	
小 計	3,221	297	440	0	2,848	3,585		97,163	247,600	

微生物標本	2007年度						累 積		
	登録数	作成・撮像数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	430	430	仮データベース構築完了、今後はここにデータが整理された時点で受入と見なす	0	2,902
微小生物プレパラート	0	0	0	0	31	31		0	31
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	22,905
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	24,064
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	25	0	0	0	25		0	6,291
微小生物動画ファイル	0	3	0	0	0	3		0	22
小 計	0	28	0	0	461	489	0	57,602	

水族資料 (生体)		2007年度						累 積		
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物		19,993	990	2,005	3,210	13,788	19,993		24,084	24,084
内 訳	魚類	19,969	967	2004	3,210	13,788	19,969		24,045	24,045
	両生類	6	6	0	0	0	6		10	10
	爬虫類	12	11	1	0	0	12		22	22
	鳥類	6	6	0	0	0	6		7	7
無脊椎動物		2,798	1,110	228	1,308	152	2,798		2,138	2,138
内 訳	昆虫類	152	0	0	0	152	152		166	166
	貝類	973	161	0	812	0	973	855	855	
	甲殻類	1673	949	228	496	0	1,673	1117	1117	
小 計		22,791	2,100	2,233	4,518	13,940	22,791	26,222	26,222	

考古資料		2007年度			累 積	
		登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
遺跡遺物(舟、瓦を除く)		0	0		0	1,313 (箱) と 320
丸木船		0	0		0	5
瓦		0	0		0	22 (箱)
灯籠		0	0		0	3
貝塚剥ぎ取り資料		0	0		0	6
展示関係(ガリラヤ湖関係含む)		0	0		0	11 (箱)
小 計		0	0		0	1,346 箱と 334 点

歴史資料		2007年度					累 積 (件 数)		
		登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等		0	0	0	0	0	小牧家旧蔵資料調書作成整理約 800 点、修理保存処理 30 点	0	159
二次資料 (レプリカ、模写、模造)		0	1	0	0	1		0	33
その他		0	0	0	0	0		0	7
小 計		0	1	0	0	1		0	199

民俗資料		2007年度			累 積		
		登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具		2,554	33	33		2,554	4,351
漁撈用具(船関係用具を含む)		0	0	0		2,584	2,600
二次資料(木造船模型)		0	0	0		0	41
小 計		2,554	33	33		5,138	6,992

環境資料	2007年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	0	0		0	72
生活用具類	0	0	0		0	25
民具類	0	9	9	生活実験工房用民具の収集	0	22 (箱) と 613
二次資料 (レプリカなど)	0	0	0		0	23 (箱) と 25
海外の湖沼船	0	0	0		0	4
小 計	0	9	9		0	45 箱と 739 点

図書資料	2007年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容など	登録資料数	収蔵概数
書籍	3,214	802	1,106	1,908	開架図書 9,600 冊, 雑誌 57 件の整備, 書籍レファレンス, コピーサービス (有料), 蔵書点検 55,500 点, 学術雑誌製本 411 冊, ニュースレターの整理, 図書装備 3,200 冊	55,568	68,054
文献	1,102	0	1,102	1,102		34,929	41,503
雑誌	438 タイトル	161 タイトル	277 タイトル	438 タイトル		2,232 タイトル	
小 計	4,316 と 438 タイトル	963 と 161 タイトル	2,208 と 277 タイトル	3,010 と 438 タイトル		92,729 と 2,232 タイトル	109,557

映像資料	2007年度						累 積		
	登録数	撮影数	寄贈数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	4,968	0	0	382	5,350		75,766	87,576
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	0
小 計	0	4,968	0	0	382	5,350		75,766	87,576

(2) 寄贈者および提供者一覧 (水族資料の譲与を含む)

敬称省略 (点数)

【地学資料】

化石標本: 大賀吉祐(1) 大西浩吉(15) 岡村喜明(3,960) 北田 稔(4) 野嶋宏二(8) 丸本高祥(1) 南澤 修(240)

化石・鉱物標本: 岡村喜明(890) 清水大吉郎(200)

岩石・鉱物標本: 石田志朗(1) 大西浩吉(9) 富田克敏(5) 平井安弘(14)

【植物標本】

さく葉標本: 石田未基(156) 楠岡 泰(2) 村瀬忠義(2)

菌類乾燥標本: 石田未基(1) 小原寿子(3)

【動物標本】

哺乳類標本: 岡村喜明(737)

鳥類骨格標本: 上田英一(3)

鳥類乾燥標本: 上田英一(3)

爬虫類液浸標本: 前畑政善(3)

魚類標本: うおの会(2) 金尾滋史(32) 桑原雅之(265) 佐々木 剛・前畑政善(3) 佐藤智之(77) 水族飼育管理(46)

鈴木規慈(4) 武田 繁(1) 出口武洋(114) 中尾博行(1) 中園健治(2) 野嶋宏二(99) 乗田宗法(1)

芳賀裕樹(1) 前畑政善(1) 松田征也(1) 水野敏明(2) 山田康幸(1)

昆虫液浸標本: 朽木生きものふれあいの里(250) 西本浩之(11)



昆虫乾燥標本：石田末基(53) 植西一稀(1) 遠藤眞樹(4) 小幡 暖(1) 佐々木 剛(12) 柴栄康雄(31)  
高石清治(2) 高橋 央(9) 中川 優(66) 西本浩之(2) 藤本勝行(2) 向原 勝(1) 山内英治(189)  
山本真彩子(1)

貝類標本：石田末基(11) Matthias Glaubrecht (23) 出口武洋・杉野由佳(12) 出口武洋ほか(7) 成田哲也(43)  
西野麻知子ほか(42)

昆虫と貝類以外の無脊椎動物標本（甲殻類・寄生虫など）：

秋田愛子(246) 石田末基(2) 浦部美佐子(3) 大高明史(7) 片山満秋(1) 関 慎太郎(1) 福田富美子(1)  
森田光治(2) 村上 裕(4) 山田 薫(1) 和田太一(8)

【微生物標本】

微小生物液浸標本：大谷修司(7) たんさいぼうの会(48) 中井末松(375)

【水族資料】

脊椎動物（魚類）：韓国国立水産科学院内水面生態研究所(100) 滋賀県水産試験場(600) 島根県立宍道湖自然館(37)  
(独)水産総合研究センター中央水産研究所内水面研究部(250) 宮島水族館(5)

無脊椎動物（昆虫類）：島根県立宍道湖自然館(2)

【民俗資料】

生活生業用具：西郡与志延(7) 堀 信子(1件) 松田明美(9)

【環境資料】

その他：松島信義(13)

【図書資料】

書籍：青木伸子(5) 石田志朗(96) 印南敏秀(1) 大西靖彦(2) 金澤良彦(1) 河瀬直幹(1) 川並稔男(1) 木戸弘之(1)  
久保田信(1) 黒川勝巳(3) 古賀ひとみ(3) 駒井正一(2) 滋賀植物同好会(1) 支笏湖のみずとチップの会(1)  
竹村恵(1) 田中貞之(19) 壇上利雄(1) 筒井正男(1) 富田克敏(4) 野村 一(2) 橋本素子(1) 戸次鋭男(1)  
増井金典(1) 松野孝一(1) 村瀬忠義(2) 森 健(10) 山岸良二(1)

雑誌：藤澤惇子(1, 024)

【映像資料】

静止画資料：石井正臣(230) 久保明彦(46) 長濱 修(48) 野村昭夫(50)

(3) 購入資料一覧

資料分野	資料名	点数	資料形態	内容等
歴史資料	「花園院宸記 巻25（第十六回配本）」1巻	1点	古文書 (レプリカ)	

(4) 水族繁殖生物

No.	種 名	繁殖方法	担 当 者	繁殖状況
1	ローデウス・ファンギ	人 工	布施	150点生残
2	ムサシトミヨ	自 然	布施	100点生残
3	ランブリクティス・タンガニカヌス	自 然	柴山	74点生残
4	アウロノクラヌス・デウィンドティ	自 然	大西	12点生残
5	カラヒガイ	人 工	右川	105点生残
6	スイゲンゼニタナゴ	人 工	藤井	200点生残
7	トンキントゲタナゴ	人 工	柴山	95点生残
8	イタセンパラ	自 然	藤井	172点生残
9	ウエキゼニタナゴ	人 工	岡田隆	150点生残

No.	種 名	繁 殖 方 法	担 当 者	繁 殖 状 況
10	オオタナゴ	人 工	布施	100 点生残
11	ゼニタナゴ	自 然	柴山	54 点生残
12	チャイニーズ・ワンラインペンシル	人 工	岡田勇	116 点生残
13	イチモンジタナゴ	自 然	布施	800 点生残
14	ホンモロコ	自 然	吉川	390 点生残
15	アブラボテ	人 工	大西	270 点生残
16	ヤリタナゴ	人 工	尾崎	96 点生残
17	シロヒレタビラ	人 工	池田	311 点生残
18	カゼトゲタナゴ	人 工	池田	175 点生残
19	カネヒラ	自 然	池田	24 点生残
20	カネヒラ	人 工	池田	96 点生残
21	ペトロクロミス・トレワバサエ	自 然	岡田勇	13 点生残
22	ネオランプロログス・オケラータス	自 然	池田	97 点生残
23	ミヤコタナゴ	人 工	佐藤	165 点生残
24	タナゴ	人 工	佐藤	60 点生残
25	アカヒレタビラ	人 工	佐藤	140 点生残
25	ニッポンバラタナゴ	人 工	右川	363 点生残
26	ニッポンバラタナゴ	自 然	右川	147 点生残
27	メダカ	自 然	右川	350 点生残
28	アオバラヨシノボリ	自 然	右川	320 点生残
29	スジシマドジョウ大型種	人 工	藤井	70 点生残
30	タモロコ	自 然	尾崎	110 点生残
31	ランプロログス・アテヌアータス	自 然	岡田勇	100 点生残
32	ホトケドジョウ	自 然	佐藤	55 点生残
33	ジュリドロミス・オルナータス	自 然	岡田勇	8 点生残
34	カワバタモロコ	自 然	布施	200 点生残
35	スゴモロコ	自 然	岡田勇	87 点生残
36	ヒナモロコ	自 然	岡田隆	260 点生残
37	ウシモツゴ	自 然	岡田隆	240 点生残
38	ヘミクルダー・レウシスクルス	自 然	右川	260 点生残
39	パンプキンシード	自 然	藤井	55 点生残
40	タガメ	自 然	岡田隆	105 点生残
41	クロゲンゴロウ	自 然	吉川	41 点生残
42	モツゴ	自 然	岡田勇	200 点生残
43	ネオランプロログス・モーリー	自 然	大西	180 点生残
43	スジシマドジョウ小型種	人 工	藤井	200 点生残
44	クセノテラピア・フラビピンニス	自 然	岡田勇	29 点生残
45	ビワマス	人 工	右川	2851 点生残
46	ハリヨ	自 然	布施	150 点生残

## (5) 資料情報の公開

### 1) データベースの公開

・「鳥類標本データベース」および「哺乳類標本データベース」の公開（2008年3月19日）

琵琶湖博物館が所蔵する鳥類および哺乳類関連の標本情報を検索できるデータベースを公開した。琵琶湖博物館の資料データベースとしては15および16分野目、生物標本データベースとしては6および7分野目の公開である。

鳥類標本データベースでは、滋賀県に生息する鳥類や日本国内の淡水域に生息する水鳥類の、剥製・骨格標本・模型・鳥の巣の標本など437件（公開当初）の資料情報を検索・閲覧できる。

哺乳類標本データベースでは、哺乳類の剥製、骨格標本、模型、足跡の型など484件（公開当初）の資料情報を検索・閲覧できる。

## 2) 電子図鑑の公開

- ・電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」の公開（2007年9月12日）

琵琶湖博物館の5分野目の電子図鑑として、「琵琶湖地域の火山灰」を公開した。火山が近くくない琵琶湖地域でも、400万年という長い時間の中では、偏西風によって西日本各地から飛んできた火山灰がたびたび堆積してきた。こうした火山灰は、西日本の火山噴火活動の記録であるだけでなく、地層がどのように積み重なってきたかを知るための有力な手がかりになる。今回公開した火山灰図鑑は、福島大学の長橋良隆准教授ほかと共同で作成したものである。現在の琵琶湖湖底でみることができる75層の火山灰を対象として、光学顕微鏡写真・電子顕微鏡写真などの画像、性質（含まれる鉱物の種類や化学組成など）、噴出した年代、わかっている場合はその火山灰を噴出した火山といった詳細な情報を示した。あるカテゴリーにそって網羅的にまとめた火山灰図鑑のインターネット上での公開は、日本初の試みである。

滋賀県立琵琶湖博物館 - Windows Internet Explorer

http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/tephra/index.html

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

Google 里口保文 層序学 検索

資料データベース 電子図鑑 気象観測データ 琵琶湖の概要 Q and A Link集 HOME

### 琵琶湖博物館電子図鑑

HOME > 電子図鑑TOP > 琵琶湖地域の火山灰図鑑

## 琵琶湖地域の火山灰

※この図鑑に含まれる写真・文章・図表の無断転載を禁止します。

琵琶湖の湖底や琵琶湖の周りには、昔の自然環境の状態を保存している地層が分布しています。また、その地層には、地層の成り立ちを考える事と、昔の日本列島周辺で起こっていた火山活動を考える上で重要な火山灰層が多く見られます。陸上の崖などで観察されてきた火山灰層は100以上あり、現在の琵琶湖の湖底にたまっている泥にも70以上の火山灰層がある事がわかっています。

これらの火山灰層は、火山の爆発的な噴火活動でもたらされたものですが、その噴出した火山は現在の琵琶湖周辺にあった訳ではなく、日本のいろんな所から飛んできています。日本には偏西風という東向きの風が卓越しているので、琵琶湖に火山灰を降らす火山は九州や山陰地方などと考えられますが、実際にはそれ以外の地域からも飛んできているようです。

また火山“灰”という名前から、紙などの燃えかすのようなイメージを持たれるかもしれませんが、火山から噴出する岩石の一つです。ただ、溶岩のようにかたまりではなく、粉々にびった状態で噴出するので、粉々になった溶岩のようなものと考えるとイメージしやすいでしょう。ですから、火山灰は岩石としての性質もっています。

この図鑑では、そういった火山灰の岩石という側面も併せて調べることができるようにつくっています。

まだ、陸上で見られる火山灰については整理できていませんが、順次公開しようとしています。

### 琵琶湖湖底にこまった火山灰(高島沖ボーリングコア)

ページTOPへ

インターネット 100%

電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」のトップページ

- ・電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」の公開（2008年3月24日）

琵琶湖博物館の6分野目の電子図鑑として、「日本&滋賀県のオサムシ」を公開した。この図鑑は第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」のウェブページで公開していたコンテンツ「オサムシ入門」「オサムシの調査方法」「滋賀県のオサムシ」に、新たに「日本のオサムシ」を加えて再構成したものである。「日本のオサムシ」では、日本に生息している40種すべてについて、体の特徴や分布などを標本写真入りで解説している。またアイウエオ順の写真つき和名索引によって容易に検索することができる。



電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」のトップページ

- ・電子図鑑「滋賀のさかな」の増補改訂（2008年3月24日）

電子図鑑「滋賀のさかな」に、新たに13種を追加するとともに、既に公開している種の解説や写真の増補、索引の改造を行い、より利用しやすいものとした。琵琶湖博物館は初めての電子図鑑として、「滋賀のさかな」を2000年1月に公開した。しかしその後、新たに認められた新種（ヌママツ、ビワヨシノボリ）や新たに定着した外来種（コクチバス、ジルティラピアなど）などがあつたため、滋賀県の現在の魚類相に対応できなくなってきた。そこで新たに13種を加え、掲載種を計80種とした。また、既に公開されている種についても、研究成果に基づいた解説の増補改訂を行うとともに、写真を再選定して多くを変更あるいは増補した。さらに索引にも改造を加え、種名だけでなく形も手がかりにして検索できるようにした。

### 3) 目録の出版

- ・琵琶湖博物館資料目録17号「民俗資料3 衣食住」および18号「民俗資料4 生産生業」の発行（2008年3月）

琵琶湖博物館が収蔵する有形民俗文化財資料のうち、漁撈関係資料については、2005年度に琵琶湖博物館資料目録13号「民俗資料1 琵琶湖水系漁撈習俗資料(1)」、14号「民俗資料2 琵琶湖水系漁撈習俗資料(2)」として既に刊行して

いた。今回は、目録17号で「衣食住」に関する民具1455件、18号で農業や養蚕、手細工など「生産生業」に関わる民具1099件を掲載した。この資料目録では、民具の地域での呼び名と標準名、収集場所、法量、重量などとともに資料の特徴、調査当時に聞き取りした使用方法などを詳細に記述した。また、従来の資料目録は資料情報の一覧表のみであったのに対して、今回の目録ではすべての資料の写真を数年かけて撮影し、資料情報とともに掲載している。

## (6) 資料の利用

### 1) 資料の貸出

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
5	8	滋賀県立琵琶湖文化館・長浜市長浜城歴史博物館	東寺文書（滋賀県所有本）176点	指定候補文化財調査および新指定文化財展の展示
6	1	滋賀県立図書館	魚類資料（ホンモロコ 10個体）	図書館受付での展示
6	8	みなくち子どもの森自然館	昆虫資料（ゲンゴロウ・タガメ乾燥標本計2点）	夏季特別展「守ろう！！甲賀の自然と生き物」での展示
6	8	群馬県立自然史博物館	地学資料（ワニ類フン化石（実物）・ゾウ類化石レプリカ計7点）	第27回企画展「アイスエイジ 氷河時代を生きた動物たち」での展示
7	12	高知大学海洋生物教育研究センター	甲殻類資料（カイアシ類液浸標本 16点）	研究依頼（分類学的な研究のため）
7	12	高知大学海洋生物教育研究センター	甲殻類資料（カイアシ類液浸標本 5点）	研究依頼（分類学的な研究のため）
8	14	広島大学大学院教育研究科	甲殻類資料（ヨコエビ類液浸標本 4点）	研究依頼（琵琶湖博物館総合研究「分類学」の一環として）
8	15	滋賀県立琵琶湖文化館	歴史資料（尼妙蓮地議状（『東寺文書』〈滋賀県所有本〉）1点）	特別展「女性と祈り -信仰の姿-」での展示
8	17	滋賀県立図書館	水族資料（アメリカザリガニ・クロゲンゴロウ 計15個体）	図書館受付での展示
8	31	滋賀県農政水産部	魚類・食品資料（ビワマスのバター焼き等樹脂レプリカ 計10点）	「料理展示会 料理コンクール」における県水産物のPRに使用
8	31	(株)西武百貨店大津店	動物資料（トンボ標本 ドイツ箱3箱）	大津西武の「夏休みイベント」での展示使用
10	5	多賀の自然と文化館	メガネサナエ成虫・幼虫模型 計2点	企画展「トンボのめがねは何色めがね？」での展示
10	12	全国豊かな海づくり大会 滋賀県実行委員会	植物・動物資料（水草標本・カワウ剥製標本・魚レプリカ 計30点）	豊かな海づくり大会ふれあい交流行事の一部として開催する漁業・環境ミュージアムにおける展示
11	9	北九州市立自然史・歴史博物館	微生物資料（エビノコバン 計344点）	研究依頼（琵琶湖博物館総合研究「分類学」の一環として）
11	16	滋賀の食事文化研究会	湖魚資料（湖魚・湖魚料理レプリカなど 計26点）	豊かな海づくり大会の湖魚料理紹介コーナーにて展示
11	16	滋賀県立図書館	水族資料（シロヒレタビラ 10点）	図書館受付での展示
11	30	千葉県立中央博物館	動物資料（ムラサキトビケラ属昆虫 計6点）	ムラサキトビケラ属の分類学的再検討

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
11	30	嶋津 武	動物資料(二生吸虫スライドプレパラート計132点)	研究依頼(琵琶湖博物館総合研究「分類学」の一環として、二生吸虫類の分類学的なモノグラフの執筆、学術雑誌での出版のため)
12	14	甲賀市教育委員会	考古資料(唐橋遺跡出土 汽車土瓶 1点)	甲賀市土山歴史民俗資料館の企画展 展示資料
12	21	甲賀市教育委員会	考古資料(唐橋遺跡出土 汽車土瓶 1点)	甲賀市土山歴史民俗資料館の企画展 展示資料
12	24	嶋津 武	動物資料(二生吸虫スライドプレパラート計5点)	研究依頼(琵琶湖博物館総合研究「分類学」の一環として、二生吸虫類の分類学的なモノグラフの執筆、学術雑誌での出版のため)
2	1	滋賀県立図書館	水族資料(カワバタモロコ計10点)	図書館受付での展示
3	28	しが県民芸術創造館	バイオリンムシなど昆虫乾燥標本 計38点	「細密画でみる身近な自然」での展示

## 2) 資料の譲与

【水族】	ヒナモロコ	15点	海の中道海洋生態科学館
	イチモンジタナゴ	100点	ぼてじゃこトラスト
	ビワヨシノボリ	6点	日本獣医生命科学大学
	ワタカ	50点	韓国国立水産科学院内水面生態研究所
	ヤリタナゴ	20点	韓国国立水産科学院内水面生態研究所
	アブラボテ	20点	韓国国立水産科学院内水面生態研究所
	カネヒラ	20点	韓国国立水産科学院内水面生態研究所
	デメモロコ	20点	韓国国立水産科学院内水面生態研究所
	ゲンゴロウ	2点	島根県立宍道湖自然館ゴビウス
	パンプキンシード	8点	横浜八景島シーパラダイス
	デメモロコ	20点	水産総合研究センター養殖研究所
	タモロコ	20点	水産総合研究センター養殖研究所
	カワバタモロコ	20点	水産総合研究センター養殖研究所
	ホンモロコ	20点	水産総合研究センター養殖研究所
	ワタカ	20点	滋賀県立大学
	ニゴロブナ	20点	須磨海浜水族園

### 3) 特別観覧

2007年度は、以下のとおり特別観覧を行った。

<映像資料>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
4	6	近畿地方整備局琵琶湖河川事務所	前野コレクション5点	瀬田川水辺協議会発行「瀬田川のあるべき姿」に掲載	静止画
4	6	(社)日本養魚飼料協会	エリ漁、オイサデ漁 計6点	(社)日本養魚飼料協会設立40年史に掲載	静止画
4	11	(有)ホームルーム	前野コレクション2点	NHK教育テレビETV特集「立花和平 獣害列島を行く」(仮)の中で資料映像として使用	静止画
4	11	(株)フジテレビジョン報道センター	ビワコオオナマズ 4点	フジテレビスーパーニュース内の特集ニュースに使用	静止画
4	13	(株)アストロアーツ	プランクトン写真 13点	「マルチメディア図鑑シリーズ」への掲載	静止画
4	13	時事通信社編集局	魚類 計6点	一般消費者を対象にした魚介類専門ニュース、情報を配信するため	静止画
4	25	滋賀県環境こだわり農業課こだわり滋賀ネットワーク事務局	メダカ、カイエビ写真 計2点	「湖国美しい暮らしの人びとこだわりセミナー記録集」への掲載	静止画
5	5	(株)インターブレン	細見新補近江国大繪圖 1点	彦根市彦根城築城400年祭特別展「彦根と北近江の城」に使用(印刷・展示)	静止画
5	11	滋賀県政策調整部広報課	メダカ、トノサマガエル、タイコウチ、ホウネンエビ 計4点	県広報誌「滋賀プラスワン」6月号への掲載	静止画
5	15	京都新聞湖南総局	ハリヨ 1点	絶滅しかけていたハリヨが復活したという話題の紹介写真として使用(守山市浮気町)	静止画
5	22	(株)インターブレン	細見新補近江国大繪圖 1点	彦根市彦根城築城400年祭特別展「彦根と北近江の城」展に使用(印刷・配布)	静止画
5	29	毎日放送報道局ニュースセンター	チャンネルキャットフィッシュ 計2点	ニュース映像「VOICE」(5月29日18:15-)に使用	静止画/動画
5	30	滋賀県政策調整部地域振興課	藤村コレクション 計2点	彦根城築城400年祭記念日経シンポジウムパネルディスカッション知事配付資料作成のため	静止画
6	7	滋賀県農政水産部	琵琶湖&川の魚ポスター図案 1点	全国豊かな海づくり大会ふれあい交流行事の展示・装飾のために利用	静止画
6	7	東京書籍関西支社	ビワマス・メダカ・ニゴロブナ 計3点	中学生向け「理科資料集」の付録(滋賀県版)に使用	静止画
6	20	東京書籍関西支社	イルカ下顎・カキの化石 計2点	中学生向け「理科資料集」の付録(滋賀県版)に使用	静止画
6	23	国立山口徳地青少年自然の家	ウグイ・カマツカ・アユ・ギンブナ 計4点	調査研究事業「環境学習プログラム」の資料に使用	静止画
7	9	滋賀県農政水産部	前野・古谷今昔比較コレクション 計14点	第27回全国豊かな海づくり大会における「漁業・環境ミュージアム」での今昔写真パネルの素材として利用	静止画
7	16	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課	水辺で見られる鳥類 計10点	琵琶湖一周調査隊(県民参加水質・生きもの調査)参考資料に使用	静止画
7	26	(株)朝日学生新聞社大阪支社	ハリヨ、イタセンパラ、ヒナモロコなどの魚類 計10点	朝日小学生新聞連載記事「朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚」に資料として利用	静止画
8	1	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課	ホテイアオイ、ネジレモなどの水生植物 計10点	琵琶湖一周調査隊(県民参加水質・生きもの調査)参考資料として利用	静止画
8	1	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	ヒメタニシ 1点	「水生生物でみるしがの水」に資料写真として掲載	静止画
8	10	びわ湖放送	近江風土記および新近江風土記 計7点	社内レビュー	動画
8	10	(社)日本環境教育フォーラム	ビワコオオナマズ・ゲンゴロウブナ計2点	環境省委託事業の日中韓環境教育ネットワークの教材に使用	静止画
8	10	東近江市五個荘伊野部町区長	ハリヨ 1点	ふるさと伊野部のあゆみ(伊野部町史)第三章河川生物に挿入写真として使用	静止画

月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
8	11	しんぶん赤旗科学部	ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ 計2点	環境省レッドリストに両種が記載されたことの 紹介記事に使用	静止画
8	16	(株)メディアポルタ	前野隆資コレクション 1 点	(株)講談社発行「週刊 昭和の『鉄道模型を作る』 (第21号「昭和の風景」2007年12月発行予定) に使用	静止画
8	25	朝日新聞あいあいAI 滋賀	ホトケドジョウなど 計50 点	あいあいAI 滋賀連載記事に使用	静止画
8	28	(社)土木学会	前野コレクション 1点	土木学会誌 11月号特集に使用	静止画
8	29	(有)オフィスノバ	アユモドキ 1点	「月刊ポプラディア」(ポプラ社発行)12月号 特集記事「絶滅の危機にある動物」に掲載	静止画
9	14	滋賀県土木交通部河 港課	ビワマス 1点	(財)河川情報センター発行「かわの情報誌さら さ」への掲載	静止画
9	14	(株)至文堂	松原内湖遺跡出土鉢 1点	「日本の美術第498号・縄文土器後期」掲載のた め	静止画
9	20	株式会社山川出版社	オイサデ網漁 1点	「日本史リブレット90『資源繁殖の時代』と日 本の漁業」本文挿図として掲載	静止画
10	5	全国豊かな海づくり 大会滋賀県実行委員 会	コクチバス 1点	豊かな海づくり大会ふれあい行事の一環として 開催する漁業・環境ミュージアムにおける展示解 説書に掲載	静止画
10	6	地球環境関西フォー ラム	カワウ 1点	びわ湖環境ビジネスメッセ出典パネルにて活動 紹介	静止画
10	7	滋賀の食事文化研究 会	魚類・湖魚料理 計15点	豊かな海づくり大会交流広場の展示パネルに利 用	静止画
10	19	全国豊かな海づくり 大会滋賀県実行委員 会	前野コレクション 計10点	第27回全国豊かな海づくり大会ふれあい交流行 事の一部として実施する湖づくりコーナーの環 境写真展で使用	静止画
10	24	有限会社オーピーオ ー	琵琶湖岸ヨシ群落 1点	(株)ベネッセコーポレーション チャレンジ5 年生2月号に掲載	静止画
10	25	滋賀県政策調整部企 画調整課	前野コレクション・古谷コレ クション 計2点	豊かな海づくり大会(行幸啓関連)	静止画
10	26	全国豊かな海づくり 大会滋賀県実行委員 会	水族・風景など 計12点	第27回全国豊かな海づくり大会ふれあい交流行 事の一部として実施する湖づくりコーナーの環 境写真展で使用	静止画
11	9	高島市企画部政策調 整課	魚類・貝類 計6点	ラムサール条約登録湿地関係市町村長会議にお ける事例発表に使用	静止画
11	9	甲賀市教育委員会	貝類・植物等化石標本 計9 点	『甲賀市史』第1巻「古代の甲賀」への口絵・本 文写真として掲載	静止画
11	21	(株)JRI あくあすぼ っと	「琵琶湖&川の魚」ポスター 図案 1点	水族館雑誌「アクアスポット5号」での琵琶湖博 物館特集に使用	静止画
11	23	マキノ土に学ぶ里研 修センター	魚類 計4点	マキノ土に学ぶ里利用のしおりに掲載	静止画
12	5	大阪工業大学工学部	珪藻電子顕微鏡内の珪藻の一 種 1点	教科書への掲載(学内で利用、教科書は無償配布)	静止画
12	6	上山田カルタづくり ボランティア	災害写真コレクション、姉川 地震関係 計5点	湖北町上山田の自治会で制作する上山田カルタ および同解説図録「上山田の歴史と文化」に掲載	静止画
12	6	(株)八坂書房	魚類 計7点	川那部浩哉 監修、前畑政善・宮本真二 編「鯰と 人の博物誌 一魚認識と文化の諸相」の挿図として 掲載	静止画
12	6	岐阜の自然と世界の 大昆虫展実行委員会	アキアカネ 1点	展示会に使用するグラフィック、キャプションの 画像として利用	静止画
12	9	岐阜の自然と世界の 大昆虫展実行委員会	キンイロオサムシ 1点	展示会に使用するグラフィック、キャプションの 画像として利用	静止画
12	9	滋賀県土木交通部河 港課	魚類・鳥類 計6点	木の岡ビオトープの普及啓発(案内板への掲載)	静止画



月	日	貸出先	資料内容	使用目的	備考
12	9	(社)関西経済連合会	前野コレクション 1点	(社)関西経済連合会機関誌「経済人」2008年1月号に掲載	静止画
12	9	産経新聞大阪本社	前野コレクション 1点	「新名神高速道路の役割と課題」についてのパンフレットに使用	静止画
12	14	京都新聞湖南総局	カワニナ・コモチカワツボ 計2点	京都新聞掲載	静止画
12	19	成安造形大学 Seian Net TV 委員会	前野・古谷・谷本コレクション・博物館展示風景 計21点	学術利用(嘉田由紀子滋賀県知事による講演にて使用された講演と資料写真を「Seian.tv 成安造形大学インターネットTV」で配信するため)	静止画
12	21	(株)JTBパブリッシング関西編集部	タテボシ・ヨシなど 計4点	情報誌るるぶ地域版「滋賀Life」に使用	静止画
12	26	(有)観和堂	ビワヨシノボリ・イサザ 計20点	滋賀県から天皇家への献上品製作に利用	静止画
12	28	(株)小学館	魚介類 計13点	小学館発行「食材図典 III 地産食材篇」に掲載のため	静止画
12	28	(株)碧水社	細見新保近江国大絵図 1点	碧水社刊 歴史群像シリーズ「縄張りのすべて」に掲載のため	静止画
12	28	NHK 大津放送局	ハリヨ 1点	「ハリヨ生息地保護区指定」のニュースで使用のため	静止画
1	19	毎日新聞社大津支局	ニゴロブナ 1点	毎日新聞紙上でのニゴロブナに関する記事に使用のため	静止画
1	23	(社)滋賀県雇用開発協会	ホンモロコ・アユ 計3点	協会発行「企業ガイド滋賀」の表紙掲載のため	静止画
1	24	(独)環境再生保全機構地球環境基金部	ニゴロブナ 1点	(独)環境再生保全機構 地球環境基金 HP 子供ページ内「野生生物をまもる」動画素材	静止画
2	1	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	ニゴロブナ・琵琶湖&川の魚ポスター図案 計2点	「滋賀の環境2008」への掲載	静止画
2	6	フジテレビ	ヤリタナゴなど魚類 計7点	フジテレビ「あっぱれ!さんま新教授」(関東ローカル)でのTV放映に利用	静止画
2	9	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構	フナズシ・ニゴロブナなど 計6点	「食材を活かす水の妙」コーナーにて湖魚を食材として紹介	静止画
2	15	サンライズ出版	ビワコオオナマズ・アユモドキ 計2点	びわ湖検定実行委員会編集「びわ湖検定公式問題解説集」への掲載	静止画
2	19	東近江地域振興局建設管理部	インターネット公開写真集(災害写真) 計40点	「日野川水害マップ」への掲載および日野川流域の水害記録の収集・整理に利用	静止画
3	1	国土交通省近畿地方整備局	アユモドキ・ビワコオオナマズなどの魚類 計8点	アウトドアフェスティバル国土交通省近畿地方整備局ブース内大阪湾再生プロジェクト及び琵琶湖再生への取組を紹介	静止画
3	4	藤村和夫	藤村コレクション 計15点	著作権者による利用	静止画
3	4	(財)大学コンソーシアム京都	前野・谷本コレクション 計5点	講座報告書に掲載	静止画
3	7	日野川改修期成同盟会	災害写真 計2点	日野川パンフレット作成	静止画
3	9	環境省自然環境局皇居外苑管理事務所	ウナギ・ギンブナなどの魚類 計14点	在来種、外来種の比較展示	静止画
3	9	群馬県立自然史博物館	スナヤツメほか魚類 計67点	第30回企画展「フィッシング〜魚の生態と人の知恵〜」で使用	静止画
3	13	大垣市 市民活動推進課	アジメドジョウなど魚類 計3点	自然保護の啓蒙「第8回環境市民フェスティバル」にて利用	静止画
3	13	近畿地方環境事務所野生生物課	魚類・両生爬虫類・昆虫類・鳥類・貝類 計36点	滋賀県農村振興課が実施している「魚のゆりかご水田」を推進するためのガイドブックに掲載	静止画
3	19	東近江市文化政策課	ハリヨなど魚類 計4点	「東近江市百科」に掲載	静止画
3	21	びわ湖検定実行委員会	鳥類・魚類・昆虫類 計16点	びわ湖検定公式問題解説集への掲載	静止画

<映像資料以外の閲覧>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	11	吉田徹也	動物資料 (村山修一蝶類コレクション 計10点)	コムラサキ属の分類学的研究のため
4	26	松岡長一郎	地学資料 (鮎川層群産化石標本 約200点)	甲賀市市史編纂に係る化石標本の調査のため
5	22	甲賀市教育委員会市史編纂室	地学資料 (鮎川層群出土化石 約80点)	甲賀市史第1巻の編纂のため
6	8	愛荘町立歴史文化博物館	歴史資料 (「近江名所図会」から計2点)	図録『高宮布』の表紙ならびに見返し部分の挿図として活用のため
6	19-26	アインズ株式会社	動物資料 (オオムラサキ・メガネサナエ・オオクワガタなど7種計8点)	社用暑中ハガキに使用
7	3	仏教大学社会学部	水族資料 (展示室魚類 (オオクチバス・ブルーギル・琵琶湖固有種・琵琶湖・小川の希少種) 約10点)	大学のゼミ、研究の一環としてドキュメンタリー番組を制作するため
7	20-31	増田富士雄	地学資料 (烏丸ボーリングコア資料 約1,200点)	研究のため、ボーリングコアの堆積物を観察
8	2	橋本 泉	動物資料 (橋本忠太郎氏寄贈昆虫標本 計10点)	学校でのレポート作成のため、祖父寄贈標本の閲覧
8	27	東京書籍株式会社編集部	地学資料 (古琵琶湖層はぎ取り標本 (展示資料) 1点)	小学校理科教科書への掲載
8	27	東京書籍株式会社編集部	地学資料 (ボーリングコア資料 (展示資料) 1点)	小学校理科教科書への掲載
10	20	多様性生物希少標本ネットワーク	動物資料 (絶滅危惧のトンボ類標本 計11点)	絶滅危惧動物標本アーカイブのため (Web 公開)
3	10	特別非営利活動法人五環生活	民俗資料 (富江家内の桶風呂とその周辺施設)	桶風呂の製作工程の記録映像製作のため
3	17-8/31	京都新聞滋賀本社	民俗資料 (B・C展示室・生活実験工房内に展示する民具 計30点)	新聞紙面掲載

## (7) 資料保管

整理された資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防霉対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理や定期的な清掃とトラップ調査など、総合的有害生物防除管理（IPM）を行っている。

2007年度には、IPM基準値以下の保存環境を保つため、定期清掃や臨時の清掃（トラックヤードなど）を行った。また、害虫の侵入防止を目的として、収蔵庫内の内履きや粘着マットの整備、扉の隙間の防虫対策や排水口に害虫防止用のネットを設置するなどの取り組みを行った。

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
生物環境調査	有害生物調査 ・2007年6月22日～7月6日 空中菌調査5カ所・昆虫トラップ調査 226カ所（設置・回収・分析） ・2007年11月2日～16日 空中菌調査5カ所・昆虫トラップ調査 226カ所（設置・回収・分析） ・2008年2月29日～3月14日 空中菌調査5カ所・昆虫トラップ調査 223カ所（設置・回収・分析） *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が1 ・空中菌：空気衝突法により採取した菌を7日間培養させた場合のコロニー数が20

## (8) 燻蒸・処理

琵琶湖博物館では、資料を安全に長期間保管し活用していくために、年に1回収蔵庫燻蒸を行い、収集した資料や活用後の資料については収蔵庫への搬入の前に、燻蒸庫での燻蒸を随時行っている。琵琶湖博物館には、大型・小型の2台の燻蒸庫がある。大型燻蒸庫では、ヨウ化メチル（アイオガード）と炭酸ガスによる燻蒸、処理を行うことができる。小型燻蒸庫では、炭酸ガスによる処理を行うことができる。併せて、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2007年度の燻蒸実施状況は以下の通りである。

### ○収蔵庫燻蒸

- ・実施期間：2007年9月2日～7日
- ・実施収蔵庫：植物収蔵庫、器材倉庫
- ・使用ガス：酸化エチレン（エキヒュームS）

### ○大型燻蒸庫燻蒸

- ・実施回数：6回
- 内訳 アイオガード3回、炭酸ガス3回

### ○小型燻蒸庫燻蒸

- ・実施回数：4回

### ○冷凍処理 随時

### ○脱酸素処理

- ・実施回数：2回

#### (9) 資料評価委員

博物館として重要な資料の購入や受贈にあたって、博物館資料としての学術的評価と価格評価を行うため、あらかじめ選定しておいた33名からなる資料評価者名簿をもとにしながら資料評価委員を選任し、資料評価を依頼している。

## 2 研究を進めて活かせる博物館

### 研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば有るほど、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしぼった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2007年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。また、それ以外の専門研究については、研究部代表者会議において審査を実施した。

#### (1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の2件であった。

- ・琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学  
代表者：マーク・J. グライガー，研究期間：2006～2010年度
- ・湖に隣接する水田地帯の特性の解明 -ニゴロブナを媒体として-  
代表者：前畑政善，研究期間：2007～2011年度

#### (2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。

- ・珪藻電子図鑑の増補改良  
代表者：大塚泰介，研究期間：2003～2007年度
- ・古琵琶湖出現期の古環境解析  
代表者：里口保文，研究期間：2005～2007年度
- ・河川残留型を含むピワマス地域個体群存在の可能性  
代表者：桑原雅之，研究期間：2006～2008年度
- ・「魚が確認できない」データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明  
代表者：水野敏明，研究期間：2006～2008年度
- ・北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化学的研究  
代表者：榎永一宏，研究期間：2007～2011年度
- ・近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理  
代表者：八尋克郎，研究期間：2007～2009年度
- ・カワウ営巣林における森林衰退 -回復モデル構築のための調査方法の検討  
代表者：亀田佳代子，研究期間：2007～2008年度
- ・「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」研究のための事前準備  
代表者：井内美郎，研究期間：2007年度
- ・日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究  
代表者：高橋啓一，研究期間：2007～2010年度

### (3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとの区別している。

<申請専門研究>

- ・日本中世における内水面の環境史的研究 -その環境と生業- (橋本道範)
- ・2007年度の南湖沈水植物の現存量分布 (芳賀裕樹)

<専門研究>

環境史研究担当

- ・大分県安心院町から発見されたミエゾウ頭骨の形態復元 (高橋啓一)
- ・コイ科魚類の咽頭歯の比較形態学的研究 形態の類型化2 (中島経夫)
- ・鮮新 -更新統の化石林に基づく古植生復元 (山川千代美)
- ・本州の鮮新世火山灰と西太平洋 DSDP コア中の火山灰との対比 (里口保文)
- ・居住・生産域の成立・廃絶の規則性に関わる環境考古学的研究 (宮本真二)
- ・双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究 (梶永一宏)

生態系研究担当

- ・水田利用魚類の生態 (前畑政善)
- ・農村地域の環境保全活動組織の形成手法について (小川雅弘)
- ・博物館収蔵資料の DNA 解析による外国産シジミ侵入時期の推定 (松田征也)
- ・琵琶湖内に生息するピワマスの生態研究手法の検討 (桑原雅之)
- ・食物網構造を含むカワウ宮巢林の森林変遷モデル (亀田佳代子)
- ・河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの構築に関する研究 (臼井 学)
- ・間伐率が下層植生に与える影響 (西村知記)
- ・造成ヨシ群落の産卵繁殖場としての機能評価 (孝橋賢一)
- ・伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求 (草加伸吾)
- ・絨毛虫にとって共生藻類を持つ意義 (楠岡 泰)
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究 (中井克樹)
- ・「環境共存」の可能性についての環境社会学的研究 (牧野厚史)
- ・アンケート調査による展示効果の研究 (大塚泰介)
- ・Darwinulid と Candonid カイミジンコの成長, 生態と系統発生論について (ロビン・J. スミス)

博物館学研究担当

- ・博物館が提供する学びの意味の解明 (布谷知夫)
- ・鰓脚類と顎脚類 (甲殻類) の分類学や形態学および個体発生学に関する研究 (マーク・J. グライガー)
- ・琵琶湖水系における古墳と古墳群の地域性と歴史的特質に関する研究 (用田政晴)
- ・琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録 (写真撮影、録音など) に関する研究ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究 (秋山廣光)
- ・琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究 (八尋克郎)
- ・博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究 (戸田 孝)
- ・イバラモのシュート群動態と雌雄異株性に関する研究 (芦谷美奈子)
- ・博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見 (中藤容子)
- ・博物館と学校との連携による体験的な学習の工夫 (中村公一)
- ・学校サテライト博物館の試行が利用者の問題解決と学び意欲に与える影響 (中野正俊)

## 琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
鳥越 皓之	早稲田大学人間科学学術院 教授
原田 英司	京都大学名誉教授
三田村 緒佐武	滋賀県立大学環境科学部 教授
藤井 譲治	京都大学大学院文学研究科 教授
篠原 徹	国立歴史民俗博物館民俗研究部 教授
宮崎 信之	東京大学海洋研究所海洋科学国際研究センター 教授
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設長 教授
西川 朗	滋賀県教育委員会学校教育課指導主事
川那部 浩哉	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
寺田 治雄	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

## (4) 公表された主な研究業績

学芸職員が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/kenkyu/>) に掲載した。

- Amin, O.M., Nagasawa, K. and Grygier, M.J. (2007) Host and seasonal distribution of fish acanthocephalans from the Lake Biwa Basin, Japan. *Comparative Parasitology*, 74: 244-253.
- Grygier, M.J. and Ohtsuka, S. (2008) A new genus of monstrolloid copepods (Crustacea) with anteriorly pointing ovigerous spines and related adaptations for subthoracic broodin. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 152: 459-506.
- Kolbasov, G.A., Grygier, M.J., Ivanenko, V.N. and Vagelli, A.A. (2007) A new species of the y-larva genus *Hansenocaris* Itô, 1985 (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta) from Indonesia, with a review of y-cyprids and a key to all their described species. *The Raffles Bulletin of Zoology*, 55: 343-353.
- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M.J. (2007) Parasites may be useful biological tags for identifying ayu (*Plecoglossus altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) of Lake Biwa origin stocked into rivers. *Aquaculture Science*, 55: 477-481.
- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M.J. (2008) A checklist of the parasites of ayu (*Plecoglossus altivelis altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) in Japan (1912-2007). *Journal of the Graduate School of Biosphere Science*, Hiroshima University, 46 : 59-89.
- Haga, H., Ohtsuka, T., Matsuda, M. and Ashiya, M. (2007) Echosounding observations of coverage, height, PVI, and biomass of submerged macrophytes in the southern basin of Lake Biwa, Japan. *Limnology*, 8: 95-102.
- Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and gene sequence of *Levicoleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a proposed endemic from the ancient Lake Biwa, Japan. *Journal of Eukaryotic Microbiology*, 55: 185-200.
- Kikko, T., Kuwahara, M., Iguchi, K., Kurumi, S., Yamamoto, S., Kai, Y. and Nakayama, K. (2007) Mitochondrial DNA Population Structure of the White-Spotted Charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa Water System. *Zoological Science*, 25: 146-153.
- 桑原雅之・井口恵一朗 (2007) ビワマスにおける早期遡上群の存在. *魚類学雑誌*, 54 : 15-20.
- 藤村美穂・武田 淳・牧野厚史 (2007) 琵琶湖と有明海における水族資源の伝統的利用と変容 ーその2 内水面漁撈と干潟漁撈 (琵琶湖). *低平地研究*, 16 : 25-30.
- 藤村美穂・武田 淳・牧野厚史 (2007) 琵琶湖と有明海における水族資源の伝統的利用と変容 ーその3 内水面漁撈と干潟漁撈 (有明海). *低平地研究*, 16 : 31-42.

- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) New data on *Asyndetus* (Diptera: Dolichopodidae) from China, with description of a new species. *Entomological News*, 118: 149-153.
- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) Notes on *Nepalomyia* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan. *Transactions of the American Entomological Society*, 133: 123-127.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) The *Hercostomus* ulrich group Palearctic China (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological Fennica*, 18: 32-35.
- Zhu, Y., Masunaga, K. and Yang, D. (2007) Two new *Plagiozopelma* species with a key to Chinese species (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 133: 161-166.
- Zhu, Y., Masunaga, K. and Yang, D. (2007) New species of *Diostracus* from Yunnan, China (Diptera: Dolichopodidae). *Aquatic Insects*, 29: 219-224.
- Zhu, Y., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) Two new species of *Diostracus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 133: 133-142.
- 米山和良・山根 猛・光永 靖・松田征也 (2007) 琵琶湖湖南湖エリ周辺における漁場水温の変化がコイの行動に与える影響. *水産工学*, 44 : 113-118.
- 宮本真二 (2008) ヒマラヤ地域, 高所山岳地域の自然災害問題. *ヒマラヤ学誌*, 9 : 39-53.
- 佐藤千夏・向井貴彦・淀 太我・佐久間徹・中井克樹・沢田裕一 (2007) 日本国内におけるコクチバスの mtDNA ハプロタイプの分布. *魚類学雑誌*, 54 : 225-229.
- 水野敏明・中尾博行・琵琶湖博物館うおの会・中島経夫 (2007) 琵琶湖流域におけるブルーギル (*Lepomis macrochirus*) の生息リスク評価. *保全生態学研究*, 12 : 1-9.
- 木下裕也・中村公一・中野正俊・木下孝弘・鈴木真理子 (2007) 琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの開発と評価. *滋賀大学教育学部紀要*, 57 : 177-190.
- 中野正俊・千原孝司 (2007) 環境配慮行動を規定する要因の検討. *滋賀大学教育学部紀要*, 57 : 153-160.
- 金山喜昭・布谷知夫・北村美香 (2007) 博物館と市民のキャリア形成「ボランティア」から「はしかけ」へ. *キャリアデザイン学会誌*, 3 : 163-170.
- 布谷知夫 (2007) 行政(地方自治体)による運営館. *新しい博物館学*, 芙蓉書房出版, 東京 : 196-198.
- Kihara, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2007) Diatoms of Yakumogahara Moor in the Hira Mountain Range, west-central Japan. *Diatom*, 23: 83-90.
- Ohtsuka, T., Nakamura, Y., Nakano, S. and Miyake, Y. (2007) Diatoms of Ishite Stream, near the Komenono Forest Research Center of Ehime University, Japan. *Diatom*, 23: 29-48.
- 大塚泰介・打越崇子・甲津久生 (2007) 農業排水路で DAIPo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) は何を指標するか? -構造方程式モデリングによる検討-. *陸水学雑誌*, 68 : 229-240.
- Takahashi, T., Ohtsuka, T. and Matsuura, K. (2007) A computer system for identifying Tanganyikan cichlids using meristic and descriptive data accumulated in literature. *Ichthyological Research*, 54: 399-403.
- Nagahashi, Y. and Satoguchi, Y. (2007) Stratigraphy of the Pliocene to Lower Pleistocene marine formations in Japan on the basis of tephra beds correlation. *The Quaternary Research (Daiyonki-Kenkyu)*, 46: 205-213.
- 里口保文・服部 昇 (2008) 中部更新統古琵琶湖層群上部と上総層群上部の火山灰層の対比. *第四紀研究*, 47 : 15-27.
- Boomer, I., Horne, D.J. and Smith, R. J. (2006) Freshwater Ostracoda (Crustacea) from the Assynt region, N. W. Scotland: new Scottish records and a checklist of Scottish freshwater species. *Bulletin de l'Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, Biologie*, 76: 111-123.
- Smith, R.J. and Kamiya, T. (2007) Copulatory behaviour and sexual morphology of three *Fabaeformiscandona* Krstic, 1972 (Candoninae, Ostracoda, Crustacea) species from Japan, including descriptions of two new species. *Hydrobiologia*, 585: 225-248.



- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2008) 広島県東広島市の西条層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報*, 34 : 89-93.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2008) 熊本市河内町の芳野層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報告*, 34 : 95-98.
- Nagata, N., Kubota, K., Yahiro, K. and Sota, T. (2007) Mechanical barriers to introgressive hybridization revealed by mitochondrial introgression patterns in *Ohomopterus* ground beetle assemblages. *Molecular Ecology*, 16: 4822-4836.
- 用田政晴 (2007) 琵琶湖をめぐる古墳と古墳群. サンライズ出版, 彦根 : 358 p.
- 用田政晴 (2007) 中世山城にみる山岳寺院要素 -伊吹山・弥高寺と上平寺城-. *山の考古学通信*, 19 : 6-10.
- 用田政晴 (2008) 琵琶湖をめぐる在地首長の動向と畿内中枢. *王権と武器と信仰*, 同成社, 東京 : 150-157.
- 岡村喜明・高橋啓一 (2007) 現生足跡調査から見た国内新生代足跡化石にゾウ類, シカ類が多産する要因について. *亀井節夫先生傘寿記念論文集* : 127-134.
- Shoshani, J., Ferretti, M.P., Lister, A.M., Agenbroad, L.D., Saegusa, H., Mol, D. and Takahashi, K. (2007) Relationships within the Elephantinae using hyoid characters. *Quaternary International*, 169-170: 174-185.
- Takahashi, K., Wei, G., Uno, H., Yoneda, M., Jin, C., Sun, C., Zhang, S. and Zhong, B. (2007) AMS 14C chronology of the world's southernmost woolly mammoth (*Mammuthus primigenius* Blum.). *Quaternary Science Reviews*, 26: 954-957.
- 高橋啓一 (2007) 日本列島の鮮新 -更新世における陸上哺乳動物相の形成過程. *旧石器研究*, 3 : 5-14.
- 高橋啓一・張鈞翔 (2007) ナウマンゾウ臼歯の咬耗状態を意識した形態解析. *亀井節夫先生傘寿記念論文集*:51-57.
- 安井謙介・高橋啓一・野嶋宏二・中嶋雅子 (2007) 中部更新統浜松累層産ナウマンゾウ化石について. *化石研究会誌*, 40 : 63-79.

## (5) 研究助成を受けた研究

布谷知夫

- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤B) 「半栽培 (半自然) と社会的しくみについての環境社会学的研究」 研究分担者 (2005~2007 年度)
- ・国立民族学博物館「博物館のネットワーク研究会」 共同研究者 (2005~2008 年度)
- ・国立歴史民俗博物館共同研究「展示室におけるコミュニケーション・デザイン研究会」 共同研究者 (2006~2009 年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代判定」 研究分担者 (2006~2008 年度)

中島経夫

- ・国立歴史民俗博物館「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合研究」 研究分担者 (2005~2007 年度)
- ・総合地球環境学研究所プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化 -景観の形成史-」 プロジェクトメンバー (2005~2011 年度)

大塚泰介

- ・財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明 -有用微生物の探索と応用-」 サブリーダー (2007 年度~)
- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤C) 「珪藻同定支援システムの開発」 研究代表者 (2006~2008 年度)
- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤C) 「ラオスの水田における生態系変化の指標となる藻類の特定」 研究分担者 (2005~2007 年度)

牧野厚史

- ・文部科学省科学研究費補助金 (基盤B) 「半栽培 (半自然) と社会的しくみについての環境社会学的研究」 研究分担者 (2005~2007 年度)
- ・関西学院大学 21 世紀 COE プログラム「幸福のフィールドワーク -実存と実践の比較社会学的方法の確立をめ

ざして-」（関西学院大学 21 世紀 COE プログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究） 研究分担者（2003～2007 年度）

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」 研究分担者（2006～2009 年度）

#### 宮本真二

- ・文部科学省科学研究費補助金（若手 B）「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」 研究代表者（2005～2007 年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 A）「南部アフリカにおける「自然環境 -人間活動」の歴史的変遷と現問題の解明」 研究分担者（2005～2008 年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 A）「ブラマプトラ川流域地域における農業生態系と開発 -持続的発展の可能性-」 研究協力者（2005～2008 年度）
- ・総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器化と現代化 -景観の形成史-」 プロジェクトメンバー（2005～2011 年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」 研究分担者（2006～2009 年度）
- ・総合地球環境学研究所プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境 -3 大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応-」 プロジェクトメンバー（2005～2011 年度）
- ・滋賀大学環境総合研究センター「水辺エコトーンにおける生物多様性と生業活動・コモンズの変容に関する研究」 研究分担者（2006～2008 年度）

#### 高橋啓一

- ・総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間 -自然相互関係の歴史的・文化的検討」 プロジェクトメンバー（2006～2010 年度）

#### 榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費補助金（若手 B）「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」 研究代表者（2006～2008 年度）

#### 橋本道範

- ・総合地球環境学研究所プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化 -景観の形成史-」 プロジェクトメンバー（2005～2011 年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」 研究分担者（2006～2009 年度）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）「日本中世における内水面の環境史的研究」 研究代表者（2007～2010 年度）

#### 用田政晴

- ・河川環境管理財団「琵琶湖水系野洲川・愛知川流域における弥生時代環濠集落の水環境論研究と成果展示への試み」 研究代表者（2006～2007 年度）

#### 草加伸吾

- ・河川環境管理財団「下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探求」 研究代表者（2006～2007 年度）

#### 中野正俊

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤 C）「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」 研究代表者（2007～2008 年度）
- ・文化庁平成 19 年度芸術拠点形成事業「学校サテライトワークショップで博・学・地域連携」 事業推進代表者（2007 年度）
- ・海と船の博物館ネットワーク協議会「海と船（川・湖沼）の企画展」事業「人と湖の共生を考える学校サテライト博物館」 代表者（2007 年度）

亀田佳代子

- ・National Science Foundation (NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN)「SEAPRE: Seabird Islands and Introduced Predators: Impacts of Presence and Eradication on Island Function」研究分担者 (2007～2009 年度)
- ・平成 19 年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究分担者 (2007～2009 年度)

## (6) 琵琶湖博物館研究発表会

○研究発表会

2007 年度は企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人 -これからの関係を探る-」を研究発表会に代えて行った。詳細は P. 33 を参照。

## (7) 特別研究セミナー

第 47 回 2007 年 7 月 5 日 (木) 9:30～15:00 琵琶湖博物館会議室

アメリア・アレナス氏 (ニューヨーク近代美術館キュレーター)

「展示を楽しむということ」

第 1 部「アメリアさんによるレクチャーと討論」

9:30～11:00 室内におけるレクチャー

11:00～12:00 琵琶湖博物館展示室におけるレクチャー

第 2 部「参加者による、ふり返りの討論」

13:00～15:00 参加者による、ふり返りの討論 (希望者のみ)

第 48 回 2007 年 10 月 10 日 (水) 15:30～17:00 琵琶湖博物館会議室

アンドレアス・シュミットレーザー氏 (ハンブルク大学動物学博物館)

「ハリガネムシ (類線形動物) の生活史」

第 49 回 2008 年 3 月 9 日 (日) 9:45～18:45 琵琶湖博物館会議室

「博物館ボランティアはなぜ必要なのか」

全体進行: 青木伸子 (琵琶湖博物館特別研究員)

話題提供と討論: 大久保邦子氏 (ボランティアネット事務局)

布谷知夫氏 (琵琶湖博物館)

中島宏一氏 (北海道開拓の村)

糸井 茂氏 (九州国立博物館)

松尾 知氏 (千葉市科学館)

菅井 薫氏 (お茶の水大学)

## (8) 研究セミナー

毎月第 3 金曜日 13:15～15:15 に、以下の研究セミナーを開催した。

第 1 回 (4 月 20 日)

桑原雅之・井口恵一郎・亀甲武志・来見誠二「琵琶湖内で漁獲されるビワマスとサツキマスにおける遺伝子浸透の現状」

芳賀裕樹「水草が増えた本当のわけを探る」

高橋啓一「台湾新化丘陵の古生物学的・地質学的研究をはじめるとあって」

第2回 (5月18日)

秋山廣光「博物館に於ける静止画資料の整理と利用」

Robin J. Smith「琵琶湖のカイミジンコについて：分類学と生殖」

宮本真二「ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の評価」

第3回 (6月15日)

戸田 孝「教育学会との関わりから -博物館学の展開の可能性-

里口保文「火山灰層対比からみた津房川層の年代」

中井大介「人工水路で添加された微細粒子が付着藻類群落の構造と種組成に与える影響」

第4回 (7月20日)

亀田佳代子・石田 朗・保原 達「カワウ営巣林における森林衰退 -回復過程の検討」

大塚泰介「農業排水路でDAIpo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) は何を指標するか?」

牧野厚史「野生生物がもたらす利益を享受する -愛知県美浜町『鶴の山鶴蕃殖地』における森林を介したカワウとむらとの関係」

第5回 (8月17日)

楠岡 泰「絨毛虫から見た古代湖としての琵琶湖」

Mark J. Grygier「Stage 2 nauplius larvae of the symbiotic stalked barnacles *Koleolepas* and *Heteralepas*」

前畑政善「琵琶湖産ナマズの産卵生態 -まとめ-

第6回 (9月21日)

西村知記「強度間伐後の下層植生 (一年後)」

布谷知夫「博物館が提供する教育・学習活動の位置」

北村美香「マーケティングによる視点からの来館者研究」

第7回 (10月19日)

小川雅広「農村地域の環境保全活動組織の形成手法について」

榊永一宏「ニュージーランドにおける双翅目アシナガバエ科 *Abatetia* 属の分類学的研究」

水野敏明「カワバタモロコの分布と生息環境の条件」

第8回 (11月16日)

八尋克郎・曾田貞滋・長太伸章・久保田耕平「共同研究『近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理』の経過」

用田政晴「琵琶湖をめぐる古墳時代首長墓の地域性と歴史的展開」

上中央子「花粉分析からみた近畿地方におけるソバ栽培の変遷」

第9回 (12月21日)

中井克樹「自然環境保全と琵琶湖博物館」

松田征也「動物園・水族館における希少淡水魚の展示と保存について」

中尾博行「琵琶湖沿岸・内湖・流入河川における在来魚類の産卵と琵琶湖水位との関係」

第10回 (1月18日)

孝橋賢一・芳賀裕樹・臼井 学「琵琶湖南湖東岸部における穴状地形について(予報)」

中島経夫「咽頭歯からわかること」

野嶋宏二「鯢蓋骨の形態に基づく日本列島産フナの種分類」

第11回 (2月15日)

草加伸吾「下流域への栄養塩負荷を最小限にする森林伐採管理方法の検討 -その後」

中野正俊「琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究II」

山川千代美「化石林に基づく古環境復元」

第12回 (3月21日)

臼井 学「河道内の伐採林におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」

中村公一「よりよい学校連携のあり方について」

#### (9) 特別研究員の受け入れ

- ・水野敏明  
2007年4月1日～2008年3月31日  
テーマ：市民参加による魚類分布情報を指標とした淡水生態系の統合的なリスク評価
- ・野嶋宏二  
2007年4月1日～2008年3月31日  
テーマ：骨の形態に基づく谷下産化石フナと現生日本列島産フナの種類と系統
- ・北村美香  
2007年1月4日～2008年1月3日  
テーマ：利用者から見た、日本のミュージアム活用についての研究
- ・上中央子  
2007年4月1日～2008年3月31日  
テーマ：花粉および種実分析を用いた弥生時代以降の古環境と農耕の復元
- ・中尾博行  
2007年4月1日～2008年3月31日  
テーマ：琵琶湖沿岸における在来魚の産卵特性の比較生態学的研究
- ・青木伸子  
2007年4月1日～2008年3月31日  
テーマ：博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究
- ・中井大介  
2007年5月1日～2008年3月31日  
テーマ：河川における珪藻群落と水質の関係
- ・黒岩啓子  
2007年8月15日～2008年8月14日  
テーマ：博物館におけるコミュニケーションと学びについて：もの、情報、人との相互関係に関する研究

#### (10) 海外交流活動

##### 1) 研究に関する国際用務

- ・中島経夫  
2007年10月31日～11月5日 文部科学省科学研究費補助金「河姆渡文化研究の再構築 - 余姚田螺山遺跡の学術的総合調査」に係る咽頭歯遺体の研究調査。中国、浙江省杭州
- ・榊永一宏  
2007年8月4日～8月12日 文部科学省科学研究費補助金「海洋性双翅目昆虫の期限と進化」に係る調査研究。イギリス南部  
2007年7月4日～19年7月19日 琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化学的研究」に係る研究調査。アメリカ、カリフォルニア州、ワシントン州、マサチューセッツ州  
2007年11月27日～12月17日 文部科学省科学研究費補助金「海洋性双翅目昆虫の期限と進化」に係る調査研究。ニュージーランド
- ・中村公一  
2007年11月4日～11月8日 ユーラシア自然史博物館サミットへの参加・発表。中国、天津
- ・川那部浩哉  
2007年10月16日～10月22日 ビュフォン国際シンポジウムへの参加。フランス、パリ市、デイジョン市

2007年11月4日～11月8日 ユーラシア自然史博物館サミットへの参加・発表. 中国、天津

2007年12月3日～12月6日 台湾中央研究員との研究交流. 台湾、台北市

・宮本真二

2007年7月15日～7月28日 京都大学・東南アジア研究所プロジェクト「高所環境 -人の生老病死と自然、生態、文化との関連-」に係る研究調査. インド、アッサム州ゴウハディ大学、アルナチャルプラデーシュ州ジロ周辺、タワン周辺

2007年8月3日～8月31日 文部省科学研究費補助金「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」に係る調査研究. レソト王国、ナミビア共和国、タイ王国

2008年2月16日～3月11日 京都大学・東南アジア研究所プロジェクト「ブラマプトラ川流域地域における農業生態系と開発 -持続的発展の可能性-」に係る研究調査. インド・バングラデシュ

・ロビン・ジェームス・スミス

2008年1月31日～2月7日 加速X線による化石貝形虫に関する国際共同研究に係る研究調査. フランス、グルノーブル、欧州シンクトロン放射施設

・楊 平

2008年2月10日～2月14日 文部科学省科学研究費補助金「水界と森界の変容と創造に関する比較環境人類学的研究」に係る研究調査. 中国雲南省麗江

## 2) 事業に関する国際用務

・楠岡 泰

2008年2月20日～2月29日 タイ、マヒドール・ウィッタヤヌソルン校が計画中のナコン・チャイ・シ川博物館計画に係る指導および博物館学、微生物学の講演. タイ、ナコン・パトム

## 3) 研究に関連して招聘した海外研究者

・Tonáš Scholz (Institute of Parasitology Academy of Science of the Czech Republic), 2007年4月16日～4月26日, 総合研究に関わる寄生虫研究

・Roman Kuchta (Institute of Parasitology Academy of Science of the Czech Republic), 2007年4月16日～4月26日, 総合研究に関わる寄生虫研究

・Andreas Schmidt-Rhaesa (Biozen Tram Grindel/Zoologisches Museum, Universität Hamburg, Germany, 2007年10月2日～10月12日, 総合研究に関わる小動物調査

### 3 新たな参加と発見ができる博物館

#### 展示活動

2007年度は、昨年度に引き続き、常設展示の展示物や情報機器の更新、展示手法の改善を行い、常設展示の内容を発展させた関連事業を行った。また、次のような企画展示、水族企画展示、ギャラリー展示、水族展示イベントを開催し、関連事業を展開した。さらに、新空間「集う、使う、創る 新空間」では、地域住民の活動紹介を行った。

#### (1) 常設展示の主な更新

##### 1) A展示室

「コレクションギャラリー」 新しく寄贈された標本を変更（里口 2007/4/1）

##### 2) B展示室

「輸送の主役丸子船」 模型航行実験の映像を撤去

「琴湖の漁」 一部のパネルを残してC展示室「世界の湖沼と琵琶湖」へ移設し、そこに新着資料コーナーを設置

「近江水産図譜」の紹介展示をB展示室外側ガラス格子部分に設置

「湖と川の支配と領域」 最近の成果をもとに古墳データを追加

##### 3) C展示室

「世界の湖沼」 キネレット湖関連展示を追加（B展示室より移動）

「琵琶湖の変化」を廃止。「生き物コレクション」コーナーのプランクトン展示を移設・拡大し、「ミクロの世界～水の中の小さな生き物たち～」として新設

「生き物コレクション」 プランクトン展示の跡に、「寄生虫～その驚くべき生活～」を新設。琵琶湖で発見された新種や固有種などを紹介

「スタッフからのメッセージ」 資料提供の資料ならびに新聞連載記事を紹介するようにした

##### 4) 水族展示室

「ソウギョ水槽」 博物館近辺の湖岸にみられる外来生物へ変更（桑原 2007/7/3）

「タンガニーカ湖の魚(大水槽)」 魚種変更（桑原 2007/9/8）

「五大湖の魚(大水槽)」 レイクトラウト展示開始（桑原 2007/11/5）

「五大湖の魚(小水槽)」 カワマス展示開始（桑原 2007/11/5）

##### 5) 屋外展示

特になし

##### 6) ディスカバリールーム（芦谷、堀田、荒井、山田、角野）

###### ・音の部屋

アジアの楽器展示

南米の楽器に更新

アフリカの楽器に更新

日本の楽器に更新

###### ・おばあちゃんの台所

こどもの日関連展示

七夕 展示

お正月 展示

節分 展示

ひなまつり関連展示

###### ・世界のこどもたち

フィンランドの冬休み展示 (2007/6/3, 2007/11/6～2008/3/31)

フィンランドの夏休み展示 (2007/6/5～11/4)

・ディスカバリーボックス

「つみきパズル」パズルシート追加 (2007/5/31～)

「カエルのなき声」展示開始 (2007/7/27～)

・生物展示 (カウンター)

ムネアカオオアリ 展示 (2007/4/16～)

モンシロチョウの青虫 展示 (2007/4/16～6/10)

カブトムシ 展示 (2007/6/7～6/30)

カイコ 展示 (2007/7/13～9/21)

秋の虫 展示 (2007/9/22～10/25)

南極の氷 展示 (2007/10/8)

秋の果実 展示 (2007/10/20～25)

ホタルの幼虫 展示 (2007/10/26～)

・展示関連イベント (カウンター)

「コイをつくろう」 (2007/4/28)

「チョウのブローチをつくろう」 (2007/5/19)

「たんざくに願いごとを書こう」 (2007/6/19～7/7)

「竹のおもちゃ 鯉の滝登りを作ろう」 (2007/7/14, 21)

「繭(まゆ)から糸をとりだそう」 (2007/9/15, 22, 29)

「繭(まゆ)を使ったカラクリおもちゃ」 (2007/10/20, 27)

「とびだす!! びっくりカード」 (2007/11/17)

「オニをつくろう!」 (2008/1/27～2/3)

「みんなでおひなさまをつくろう」 (2008/2/29～3/2)

## (2) 企画展示

### 1) 第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話 -東アジアの中の琵琶湖-」

#### ①概要

期 間：2007年7月14日(土)～11月25日(日)

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観 覧 料：一般400(300円) 高校生・大学生300(230円) 小学生・中学生200(150円)

( )内は20名以上の団体料金

観覧者数：観覧券購入者数 37,156名(274名/日)

企画展示入場者数 54,636名(447名/日)

第15回企画展示実行委員会：

伊庭 功(滋賀県安土城郭調査研究所)、今森光彦(写真家)、内山純蔵(総合地球環境学研究所)、  
小早川みどり(九州大学)、春田直紀(熊本大学)、安室 知(国立歴史民俗博物館)、  
山根 猛(近畿大学)、福澤仁之(堆積学者)、里口保文、高橋啓一、中島経夫、橋本道範、  
牧野厚史、水野敏明、松田征也、宮本真二(以上、琵琶湖博物館)

担 当 者：中島経夫(主担当)、高橋啓一、牧野厚史、橋本道範、里口保文、宮本真二

展示設計・製作業者：株式会社 日展

#### ②展示の目的

滋賀県立琵琶湖博物館では、開館以来約10年にわたり総合研究「東アジアの中の琵琶湖 -コイ科魚類を展開の軸とした- 環境史に関する研究」(以下「東アジア総研」という)を行い、コイ科魚類を展開の軸としながら、



東アジアの自然環境の中にある琵琶湖とそこに生活する人間との関係の歴史を明らかにしてきた。本企画展示は、東アジア総研の研究成果を用いて、コイ・フナの視点で、劇場風の展示を行い、身近な魚であるコイ・フナ（コイ科魚類）のおよそ7000万年の展開をたどる。そのことによって、自然や生き物と人間との関わりあいのあり方を考えていただくことを目的とした。

### ③展示の内容

およそ7000万年におよぶコイ科魚類の歴史を題材にして、人間の営みを含めた琵琶湖の成り立ちを、今の琵琶湖に生きるコイさんとフナさんが語る物語として展示する。物語の主人公をコイ・フナとして、その目線で環境の成り立ちを見てもらうことによって、東アジアの湖としての琵琶湖の特徴を浮き彫りにするよう工夫している。大陸間の衝突とそれに伴うヒマラヤの上昇や日本列島の形成といった、地球規模の変動の中で生じた東アジアにおけるコイ科魚類の分化、古琵琶湖の変遷の中での琵琶湖に特有なコイ科魚類相の形成、さらに、人間の登場と、湖や田んぼで繰り返されてきた人間との知恵くらべのようすなど、あまり知られていないコイ科魚類の歴史についてのエピソードを、劇場にみたと各コーナーで紹介し、魚類の目線で見えてくる、人間の営みを含む琵琶湖についての発見や驚きを伝える。さらに、今後、コイ科魚類が人間と共存するにはどのような道がありうるのかを考える。

### ④展示項目

#### ◆エントランス

入り口に大きなフナトンネルを設け、導入部とした。

#### ◆プロローグ「こんなところにコイ・フナ」

コイ科魚類の現在の生息域を紹介した。

#### ◆第1幕「コイ・フナはどこから来たのか」

コイ科魚類の誕生と進化の過程、琵琶湖の魚類相の移り変わりを紹介した。

主な展示物：世界最古のコイ属の咽頭歯化石

#### ◆第2幕「コイ・フナ、ヒトに出会う」

縄文・弥生時代のコイ科魚類と人の関係を紹介した。

主な展示物：赤野井湾湖底遺跡（縄文早期）、粟津湖底遺跡（縄文中期）、

下之郷遺跡（弥生中期）出土のコイ科魚類の遺体等

#### ◆第3幕「コイ・フナ、銭（ぜに）になる」

中世における都市での消費の様子を中心に、市場経済の発展にともなう魚と人との関係の変化を紹介した。

主な展示物：『山科家礼記』（宮内庁書陵部所蔵：7月14日～9月9日のみ）、「年貢請取帳」（国立歴史民俗博物館所蔵：9月11日～11月25日）

#### ◆第4幕「コイ・フナとヒトとの知恵くらべ」

近代における湖辺農家の稲作と漁撈などの生業複合をとりあげ、水田の役割について紹介した。琵琶湖独特の漁具であるエリの仕組みや漁師の伝承を検証した。

主な展示物：湖辺農家の生業暦を遊びにした生業双六および琵琶湖の漁具

#### ◆エピローグ「コイ・フナの生きる道」

昭和30年代以降の琵琶湖をめぐる劇的な変化を紹介し、コイ科魚類がこれからどのように人間とつきあっていくのか、3つの道を提示した。

映像展示：希薄になった3者の関係を取り戻すべく様々な試みが始まっている水・人・魚の関係はどうか、どうか、どうなっていくべきなのか、来館者に問いかけるような形で終わる仕組み

（構成）① いまにつづく琵琶湖の暮らし 水・魚・人の関わり

② 変化 -琵琶湖の現状-

③ 水・魚・人との関わりを取り戻す試み

#### ◆楽屋「初公開 コイ・フナのヒミツ」

コイ科魚類の咽頭歯からわかることを紹介した。

主な展示物：世界最大の琵琶湖博物館の咽頭歯標本コレクション

映像展示：「コイとフナ的生活カレンダー」「コイ・フナのエサと歯」



第15回企画展示入口風景

## 2) 企画展示関連シンポジウム

### ①シンポジウムの目的

滋賀県立琵琶湖博物館では、開館以来約10年にわたり、コイ科魚類の展開を軸にした東アジアの中にある琵琶湖の環境史について、総合研究プロジェクトを実施してきた。この研究の成果に基づき、開館10周年記念事業の一つとして、2007年7月14日（土）から11月25日（日）までの期間、企画展示「琵琶湖のコイ・フナの物語 -東アジアの中の湖と人-」を開催し、この展示開催にあわせ、研究成果をわかりやすく紹介するとともに、琵琶湖地域におけるこれからの生き物と人とのかかわり方をより多くの方々とともに考えていくため、下記のとおり2日間にわたり2部構成でシンポジウムを開催した。

#### 第1部 シンポジウム「生き物と人のこれからの関係を探るために」

開催日 7月28日（土）

会場 琵琶湖博物館ホール

参加者 115名

#### 第2部 ワークショップ「生き物とかかわるおもしろさ」

開催日 7月29日（日）

会場 烏丸半島ホワイトビーチ付近および琵琶湖博物館ホール

参加者 133名

### ②シンポジウムの内容

#### 第1部 シンポジウム「生き物と人のこれからの関係を探るために」

総合研究の共同研究者およびゲストスピーカーによる講演を受け、討論では、アジア地域で見られる生き物と自然の関係性の多様さ、歴史の流れの中での多様さを明らかにした。また、それらの多様性はどこから生まれてくるのか、私たちの普段の生活の中にある生き物との関係はどのような関係なのかを、改めて考えてみた。

開会挨拶 川那部浩哉

基調講演 内山純蔵（総合地球環境学研究所）「人間にとっての琵琶湖とは：魚と人の関わりの歴史を中心に  
にして」

講演 春田直樹（熊本大学）「魚食からみた中世の漁撈 -コイが魚の王様だった時代-」

講演 安室 知（国立歴史民俗博物館）「田んぼから米と魚を」

講演 牧野厚史（琵琶湖博物館）「米を作るために魚を育てる」

講演 菅 豊（東京大学東洋文化研究所）「家畜としての魚 -中国江南デルタの伝統的資源循環システム-」

講演 西谷 大 (国立歴史民俗博物館) 「水田漁撈をする村、しない村 -多民族が住む雲南省者米谷-」  
討論 【パネリスト】西谷 大、内山純蔵、川那部浩哉、中島経夫、牧野厚史  
【進行】高橋啓一

## 第2部 ワークショップ「生き物とかかわるおもしろさ」

「琵琶湖お魚ネットワーク」で活躍されている皆さんによる魚とりを岸辺で見学し、日頃の活動ぶりなどの紹介もまじえて、生き物とかかわるおもしろさを子供たちと一緒に語りあった。

魚採り・採れた魚や漁具の解説

<交流会・ワークショップ参加者>

秋篠宮殿下、伯母Q五郎～伯母川研究こどもエコクラブ～：6名、草津市立笠縫東小学校5年生：13名、中村大輔 (草津市立笠縫東小学校)、武田 繁 (「琵琶湖お魚ネットワーク」代表)、村上靖昭 (「琵琶湖博物館うおの会」会長)、水戸基博・後藤真吾 (琵琶湖博物館うおの会会員)、山根 猛 (近畿大学)、小早川みどり (九州大学)、川那部浩哉

### 3) 企画展示関連イベント

- ◆観察会 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<魚つかみ編>  
実施日 7月7日 (土)  
実施者 はしかけグループ「びわたん」、はしかけグループ「うおの会」  
会場 守山市ほたるの森資料館付近水路  
参加者 25名
- ◆観察会 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<標本づくり編>  
実施日 7月28日 (土)  
実施者 はしかけグループ「びわたん」  
会場 琵琶湖博物館実習室  
参加者 29名
- ◆観察会 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<標本づくり編>  
実施日 8月21日 (火)  
実施者 はしかけグループ「びわたん」  
会場 琵琶湖博物館実習室  
参加者 34名
- ◆体験学習 化石のレプリカをつくろう -魚の歯のヒミツ-  
実施日 6月9日 (土)  
実施者 はしかけグループ「びわたん」  
会場 琵琶湖博物館実習室  
参加者 54名
- ◆体験学習 化石のレプリカをつくろう -魚の歯のヒミツ-  
実施日 6月23日 (土)  
実施者 はしかけグループ「びわたん」  
会場 琵琶湖博物館実習室  
参加者 42名
- ◆ディスカバイベント 竹のおもちゃ「コイの滝のぼり」をつくろう  
実施日 7月14日 (土)  
実施者 ディスカバリールーム・村上靖昭氏  
会場 琵琶湖博物館ディスカバリールーム

参加者 30名

◆ディスカバイベント 竹のおもちゃ「コイの滝のぼり」をつくろう

実施日 7月21日(土)

実施者 ディスカバリールーム・村上靖昭氏

会場 琵琶湖博物館ディスカバリールーム

参加者 34名

◆投網体験教室 投網に挑戦!

実施日 8月2日(木)

実施者 はしかけグループ「うおの会」

会場 琵琶湖博物館アトリウム

参加者 24名

◆投網体験教室 投網に挑戦!

実施日 8月8日(水)

実施者 はしかけグループ「うおの会」

会場 琵琶湖博物館アトリウム

参加者 32名

◆紙芝居 コイのゴーイくんとフナのプーナちゃん

実施日 10月7日(日)

実施者 Rendez-vous K7・はしかけグループ「びわたん」

会場 琵琶湖博物館会議室

参加者 130名

◆紙芝居 コイのゴーイくんとフナのプーナちゃん

実施日 10月21日(日)

実施者 Rendez-vous K7・はしかけグループ「びわたん」

会場 琵琶湖博物館会議室

参加者 192名

◆人形劇 た・な・か・み・さ・ま

実施日 9月2日(日)

実施者 にんたま

会場 琵琶湖博物館会議室

参加者 126名

◆人形劇 た・な・か・み・さ・ま

実施日 10月28日(日)

実施者 にんたま

会場 琵琶湖博物館会議室

参加者 124名

### (3) 水族企画展示

#### 1) 第19回「東アジアのタナゴたち」

##### ①概要

期間:2007年7月14日(土)~11月25日(日) 計117日間

場所:滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室

来場者数:176,839人(平均入場者数1,511人)(電子カウンターによる)

主催:滋賀県立琵琶湖博物館

展示担当者：主担当者：松田征也

副担当者：御葉袋 聡・岡田 隆・岡田勇馬

## ②内容・特徴

コイ科のタナゴ類は、湖沼や河川、小さな水路などで群れでみられる、全長4~12cmの小魚である。タナゴ類は全世界に約60種類が知られているが、そのほとんどは東アジア地域に分布する。日本国内には16種類のタナゴ類が自然分布するが、魚体が小さく、苦みもあることから、関西地方では雑魚として扱われている。しかし、関東地方では釣りの対象魚として人気があるほか、食用としても利用されている。また、近年では産卵期に雄の体に現れる美しい婚姻色から、観賞魚としての人気も高くなっている。ところが、タナゴ類の生息する水域の急激な環境変化や、外来魚の侵入による交雑や食害などにより、多くの種類が絶滅の危機に瀕している。

本企画展示では、中国、韓国、そして日本におけるタナゴ類を取り巻く環境と、人との関わりについて紹介することで、タナゴ類という小さな魚から自然環境を保全することの大切さを考えるきっかけの場となることをめざした。

## ③展示したパネルと魚

### \*展示パネルなど

- ・東アジアのタナゴ類の紹介
- ・絶滅の危機に瀕するタナゴ類
- ・タナゴ類を守る活動をおこなっている組織、グループの紹介
- ・タナゴに関係した品物（書籍、ネクタイピン、切手、佃煮、釣り道具など）

### \*ビデオ映像（インタビュー）

- ・タナゴと人との関わり（日本、中国、韓国）

### \*展示魚種

[日本産] (16種類)

イタセンパラ、ミヤコタナゴ、スイゲンゼニタナゴ、カゼトゲタナゴ、ヤリタナゴ、カネヒラ、アブラボテ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、セボシタビラ、アカヒレタビラ、キタノアカヒレタビラ、ミナミアカヒレタビラ、ゼニタナゴ、タナゴ、ニッポンバラタナゴ

[中国産] (8種類)

トンキントゲタナゴ、ウエキゼニタナゴ、カガミバラタナゴ、ロデウス ファンギ、タナキア ヒマンテグス、**オオタナゴ**、アケイロナタス属の2種類

[韓国産] (6種類)

アケイロナタス コリエンシス、アケイロナタス シグニファー、ロデウス ノタータス、アカンソロデウス グラシリス、アケイロナタス ヤマツタエ、**タイリクバラタナゴ**

○ゴシック表記の2種は、日本に移入して定着している。

○複数の国に分布する種類について、ここではどちらか一方の国名で表記している。



## 2) 第20回「湖魚の今…そして未来！」

### ①概要

期 間：2007年12月11日（火）～2月17日（日）

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

協 力：滋賀県農政水産部水産課・滋賀県水産試験場

担 当 者：孝橋賢一

### ②内容

同時期開催のギャラリー展示 漁業・環境ミュージアム「注文の多い湖魚の料理店」にあわせ、琵琶湖の「食」や「生活」を彩ってきた湖魚のおかれている「今（現状）」をあらためて見つめなおし、これら琵琶湖の恵みを守ろうとする「未来」のための様々な努力を紹介することで、「今、湖魚のために『自分ができること』」を考えるきっかけとなるような展示を目指した。

### ③展示内容

#### ・展示生物

アユ（ヒウオ）、ニゴロブナ、ホンモロコ、ビワマス（卵～孵化仔魚）ゲンゴロウブナ、ワタカ、オオクチバス、ブルーギル、コクチバス、ヌマチチブ、イワトコナマス、スジエビ、テナガエビ、セタシジミ

#### ・展示物

イケチョウガイ（淡水真珠）、施術道具



## (4) ギャラリー展示

### 1) 「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」

#### ①概要

期 間：2007年3月20日（火）～5月6日（日）【開催日数 43 日】

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧者数：30,470 人

（実施期間の来館者数に対する入場率 43.7%；一日の最高入場者数 2,457 人）

観 覧 料：無料

主 催：湖国もぐらの会、琵琶湖博物館

担 当 者：里口保文、山川千代美、高橋啓一

#### ②内容・特徴

滋賀県やその周辺地域で鉱物や化石の採集を行っている地域の方（湖国もぐらの会）が集まって、自らが展示を行うという展示会の第二回目（第一回目は2001年に開催）。主に鉱物や化石などの採集や調査の成果をつかって、この地域の特に地学に関するもののおもしろさやすばらしさを伝え、その展示活動を通して、興味ある人

との輪を広げる事を目的として開催した。湖国もぐらの会の展示への参加者は約 50 人。

また、鉱物や化石などの標本を展示するだけではなく、展示参加者がそれぞれに自分たちがおもしろいと思っている事を伝えるように展示の工夫を凝らし、展示期間中はなるべく企画展示室にいて、採取時のエピソードや展示の解説を行ったり、展示以外の標本を来館者に触ってもらうなどの交流を行った。期間中の展示参加者による交流・解説の実施は、のべ 115 人。なお、開催の年は木内石亭没後 200 年にあたる。

その他、滋賀県や古琵琶湖層が分布する三重県の博物館や相当施設の紹介も各館の協力で行った。

### ③展示内容

- ・滋賀県および古琵琶湖層が分布する三重県の化石、地層、鉱物、それに関連する資料など、約 4000 点。
- ・展示参加者個人や団体それぞれの展示を 1 コーナーとして、22 の展示コーナーにおいて、それぞれの想いを伝える標本、パネルなどによる展示、展示者の紹介パネル。
- ・滋賀県内の博物館および相当施設 4 館および三重県伊賀市の博物館等の紹介展示。

## 2) 「漁業・環境ミュージアム『注文の多い湖魚の料理店』」

### ①概要

期 間：2007 年 12 月 11 日～2008 年 2 月 17 日

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧者数：17,862 人（1 日平均 337 人）

（観覧者人数の実際のカウントは土日のみであり、土日での入館者数との比率をとり、このギャラリー展示期間中の来館者数から推測した値）

観覧料金：無料

共 催：第 27 回全国豊かな海づくり大会滋賀県実行委員会

担 当 者：布谷知夫、孝橋賢一

### ②内容・特徴

滋賀県が 2007 年 11 月 10 日と 11 日に実施した「第 27 回全国豊かな海づくり大会びわ湖大会」に際して、大津会場のテント内で「注文の多い料理店」の展示を行い、その同じ展示を琵琶湖博物館の企画展示室でも行う事になり、その企画段階から、琵琶湖博物館も参加して展示づくりを行い、2007 年 12 月 11 日から、琵琶湖博物館企画展示室でギャラリー展示として実施した。

海づくり大会の趣旨に合わせて、湖魚を守り、将来にわたって湖魚を食卓に乗せる事ができるようにしよう、という事をメッセージとして、カワウ、外来魚、水位の三つをこれからの課題として、一緒に考える事が出来るような展示とした。

ストーリーは、宮沢賢治の「注文の多い料理店」に合わせて、レストランにきたお客である観覧者が、レストランからの注文を三つ聞いて、その注文に応じてゲームを行い、やがてその注文主の正体が湖魚たちであることが分かるというもので、そこまではゲーム仕立てで子供向きに、そこからは、その三つの課題が実際どのような状況になっているのかを新聞仕立てで詳しくグラフなども用いて知っていただく内容になっていた。

県主催の「豊かな海づくり大会」の内容を持ち込んだために、琵琶湖博物館の展示としてはやや課題性の高い展示となったが、ゲーム仕立ての部分も多くの方が楽しみ、家族でカワウの問題や外来種の問題などを話題にしていただけたと思う。

### ③展示項目

(ア) 湖魚のレストラン

(イ) レストランからの注文

- ・ 巣の中のたまごを偽物と交換してください
- ・ 水の量を保ってください
- ・ 撮った魚を木箱に分けて入れてください

(ウ) 注文主の正体

(エ) 注文の答え

- ・なぞの卵の正体は？「カワウ」
- ・水位調節のために、「水位」が急に下がると魚の卵は干上がる
- ・どの魚が一番多い？「外来種」

(オ) 次世代に伝えるために

- ・漁業者や県が取り組んでいること
- ・私たちにできること

(カ) 残したい伝えたい 県民からのメッセージ



### 3) 「淡海の博物館・美術館」

#### ①概要

期 間：2008年3月1日（土）～4月13日（日）

場 所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

観覧者数：10,861人

観覧料金：無料

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県博物館協議会

#### ②内容・特徴

滋賀県内には、特色ある展示や活動を行っている多くの博物館・美術館が存在する。県内外の人たち、特に子どもたちが楽しみながら博物館・美術館を訪れ、歴史や民俗、自然環境、文化財、優れた美術作品などに親しんでもらう機会を提供することにより、これらの地域の財産に対する理解を深め、県民文化の普及・向上に資することを目的とした。

#### ③展示内容

展示室の周囲に、滋賀県博物館協議会の加盟館を1館ずつ紹介するB2版の案内パネル87枚を配置した。中央には滋賀県全域の航空写真（2005年の水害に関するギャラリー展で製作したものを使用）を配して、写真上に各加盟館の位置を示す表示を行うことにより、県域の随所で様々な博物館施設が活動している状況を表現した。そして、加盟館からの協力に基づく下記の3つの事業を展開した。

(ア) 加盟館のうち16館から実体資料の提供を受けて航空写真の周囲に展示し、各々の博物館活動のイメージを表現した。

(イ) 会期中の春休み期間および先行する期間（4週間）の土日祝日（9日間）に、各々1館の加盟館が担当して、講演や体験学習などのワークショップ活動を行った。

(ウ) 加盟館からパンフレット類の提供を受け、展示室入口前に置いて、来館者が選んで持ち帰れるようにした。



## (5) トピックス展示

### 1) アトリウム

トピック展示「ネズミ」

期 間：2007年12月18日（火）～2月3日（日）

場 所：琵琶湖博物館アトリウム

展示責任者：松田征也

展示担当者：太田佳恵・石田未基・野間孝男・中園健治・出口武洋・ほねほねくらぶ  
布谷知夫・高橋啓一・西村知記・楠岡泰・橋本道範

内 容：平成20年の干支「ねずみ」にちなみ、当館が所蔵する古文書・プランクトン写真資料・植物標本、はしかけグループ「ほねほねくらぶ」が作成した骨格標本の展示を行った。



### 2) 水族展示

水族展示室内のふれあい体験室前に設置した小型展示水槽をつかって、生まれたばかりの稚魚や話題性のある魚など、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。内容と期間は以下のとおりであった。

- ・「イサザ(ハゼ科)琵琶湖固有種」 (桑原 3月27日(火)～4月22日(日))
- ・「ハリヨの稚魚」 (松田 4月24日(火)～5月13日(日))
- ・「スイゲンゼニタナゴの稚魚」 (松田 5月15日(火)～5月27日(日))
- ・「ホンモロコの稚魚」 (松田 5月29日(火)～6月17日(日))
- ・「ムサシトミヨの稚魚」 (松田 6月19日(火)～7月8日(日))
- ・「イチモンジタナゴの稚魚」 (松田 7月10日(火)～7月29日(日))
- ・「イタセンパラの未成魚」 (松田 7月30日(火)～9月2日(日))
- ・「ニゴロブナの未成魚」 (松田 9月11日(火)～9月30日(日))
- ・「産卵期を迎えたカネヒラ」 (松田 10月2日(火)～10月21日(日))
- ・「産卵期を迎えたイタセンパラ」 (松田 10月23日(火)～11月11日(日))
- ・「平成20年の干支はネズミ でもネコもがんばっています！」  
(松田 12月18日(火)～2008年2月3日(日))
- ・「ヒナモロコ」 (松田 2月26日(火)～3月23日(日))
- ・「ハリヨの稚魚」 (松田 3月25日(火)～4月13日(日))

## (6) 集う、使う、創る 新空間

2007年度から本格運用を開始した。16件の利用があった。

期間	タイトル	主催者
3月25日～4月8日	はしかけ・フィールドレポーター活動紹介	はしかけ・フィールドレポーター
4月27日～5月6日	動植物とのつきあい方の新しいルールー指定 希少野生動植物と指定外来種ー	滋賀県生きもの総合調査委員会

期間	タイトル	主催者
5月15日～6月3日	弥生時代の村と水環境	河川整備基金助成事業研究グループ
6月9日～7月8日	近江のトンボ	トンボ研究会
7月10日～27日	森の中の柵は何のため？	かもしかの会関西
7月30日～8月26日	俺たち魚部！～ギョブリまくった10年間、出会った生物そして人びと	福岡県立北九州高等学校魚部
8月28日～9月30日	「たんけん・はっけん・ほっとけん」から「ふれあい・みつめあい・たかめあい」へ	特定非営利法人 蒲生野考現倶楽部
10月2日～6日	湖南・甲賀の環境活動	滋賀県南部振興局
10月7日～18日	平成19年度淡海こどもエコクラブ活動交流会	滋賀県環境学習支援センター
10月19～21日	びわっこカードバトル	滋賀県立大学近藤研究室
10月23日～11月25日	ぼてじゃこトラスト活動紹介&竹内省吾よしアート作品展	ぼてじゃこトラスト
11月27日～1月14日	南部水道事務所 パネル展	滋賀県南部水道事務所
1月16日～1月27日	デンえもんパネル展	滋賀県南部振興局田園振興課
1月29日～2月29日	近江の野の花、山の花	澤田弘行（滋賀県植物研究会）
3月1日～3月26日	ホテルの学校～ふるさとの川を守る子どもたち～	ホテルの学校
3月28日～4月13日	生きる葦（あし）	糸乗政治

## 展示交流事業

### (1) 水族展示の交流

水族展示では、2007年度も例年通り当日の来館者を対象として、当館最大の水槽であるトンネル水槽（沖合・岩場水槽）やチョウザメ類、ガーパイク類などの古代魚を展示している水槽（古代魚水槽）、およびカイツブリ水槽（水辺の鳥）において展示交流を行った。トンネル水槽では、水族飼育員が潜水し、展示交流員と水中マイクを使って会話しながら、魚の解説や風船などを使った簡単な実験を行った。古代魚の水槽では、チョウザメ類やガーパイク類に餌を与え、種類ごとの餌の違いやとり方の違いを解説した。また、カイツブリ水槽では、餌を与えてカイツブリが水中にもぐって餌を探したり、それを捕らえる様子を来館者に観察していただきながら、この鳥の体のしくみや生態についてわかり易く解説した。

#### 「水族飼育員と話そう」の内容

月	日	内 容	参加者数	担当飼育員	補助飼育員 [展示交流員]
4	5	トンネル水槽潜水通話	80	大西	柴山・[吉岡]
	7	古代魚への給餌と解説	80	柴山	右川
	11	カイツブリへの給餌と解説	7	岡田（隆）	布施
	20	古代魚への給餌と解説	30	右川	柴山
	24	トンネル水槽潜水通話	70	大西	柴山・[弓削]
	26	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	柴山
5	10	トンネル水槽潜水通話	20	大西	柴山・[奥村]
	11	カイツブリへの給餌と解説	10	岡田（隆）	布施
	18	古代魚への給餌と解説	40	柴山	右川
	19	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	岡田（隆）

月	日	内 容	参加者数	担当飼育員	補助飼育員 [展示交流員]
5	24	トンネル水槽潜水通話	30	大西	柴山・尾崎・ [芦田]
	29	古代魚への給餌と解説	50	右川	柴山
6	6	カイツブリへの給餌と解説	8	岡田 (隆)	柴山
	7	古代魚への給餌と解説	50	柴山	右川
	13	トンネル水槽潜水通話	50	大西	柴山・ [今泉]
	16	カイツブリへの給餌と解説	40	布施	岡田 (隆)
	26	トンネル水槽潜水通話	50	大西	柴山・ [近藤]
	30	古代魚への給餌と解説	40	柴山	
7	7	カイツブリへの給餌と解説	20	大西	
	11	古代魚への給餌と解説	50	右川	柴山
	18	トンネル水槽潜水通話	20	大西	岡本・吉川・御薬袋・ [池畑]
	21	古代魚への給餌と解説	60	柴山	右川
	25	カイツブリへの給餌と解説	30	右川	柴山
	31	トンネル水槽潜水通話	50	大西	吉川・御薬袋
8	1	古代魚への給餌と解説	50	柴山	
	2	トンネル水槽潜水通話	70	大西	柴山・ [犬塚]
	8	カイツブリへの給餌と解説	40	岡田 (隆)	柴山・尾崎
	22	古代魚への給餌と解説	80	右川	柴山
	24	古代魚への給餌と解説	60	柴山	
	29	トンネル水槽潜水通話	50	大西	柴山・ [中村]
9	1	カイツブリへの給餌と解説	50	岡田 (隆)	大西
	11	トンネル水槽潜水通話	50	大西	柴山・ [愛須]
	13	古代魚への給餌と解説	28	右川	岡田 (隆)
	19	カイツブリへの給餌と解説	30	右川	柴山
	27	トンネル水槽潜水通話	40	大西	柴山・池田・ [橋本]
	28	古代魚への給餌と解説	30	右川	岡田 (隆)
10	4	トンネル水槽潜水通話	40	大西	柴山・ [折中]
	10	古代魚への給餌と解説	10	柴山	右川
	12	カイツブリへの給餌と解説	15	布施	岡田 (隆)
	24	トンネル水槽潜水通話	60	大西	柴山・池田・ [村田]
	26	古代魚への給餌と解説	40	右川	柴山
	31	カイツブリへの給餌と解説	30	尾崎	岡田 (隆)
11	8	カイツブリへの給餌と解説	25	岡田 (隆)	布施
	9	古代魚への給餌と解説	30	柴山	右川
	16	カイツブリへの給餌と解説	10	布施	
	29	古代魚への給餌と解説	20	右川	柴山
12	1	カイツブリへの給餌と解説	40	尾崎	布施
	5	トンネル水槽潜水通話	40	大西	柴山・池田・ [折中]
	7	古代魚への給餌と解説	8	柴山	右川
	15	カイツブリへの給餌と解説	30	岡田 (隆)	布施

月	日	内 容	参加者数	担当飼育員	補助飼育員 [展示交流員]
12	18	トンネル水槽潜水通話	30	大西	柴山・池田・[林]
1	5	カイツブリへの給餌と解説	40	大西	
	10	古代魚への給餌と解説	18	右川	柴山
	17	トンネル水槽潜水通話	35	大西	柴山・池田・[本田]
	18	ナガレヒキガエルへの給餌と解説	5	池田	武富
	22	カイツブリへの給餌と解説	7	尾崎	布施
	25	古代魚への給餌と解説	20	柴山	右川
	30	トンネル水槽潜水通話	35	大西	柴山・池田・[斉藤]
2	6	古代魚への給餌と解説	30	右川	柴山
	7	カイツブリへの給餌と解説	30	岡田(隆)	柴山
	15	ナガレヒキガエルへの給餌と解説	20	池田	可児
	19	トンネル水槽潜水通話	50	大西	柴山・[中江]
	27	カイツブリへの給餌と解説	10	岡田(隆)	右川
	28	トンネル水槽潜水通話	15	大西	柴山・[木下]
3	4	古代魚への給餌と解説	30	柴山	右川
	11	トンネル水槽潜水通話	40	大西	柴山・池田・[田中]
	13	カイツブリへの給餌と解説	30	布施	岡田(隆)
	14	ナガレヒキガエルへの給餌と解説	20	池田	武富
	25	古代魚への給餌と解説	50	右川	柴山
	26	トンネル水槽潜水通話	60	大西	岡田・池田・[横井]
	27	カイツブリへの給餌と解説	40	尾崎	布施

## (2) 展示交流員と話そう

展示交流員は、琵琶湖博物館の案内だけではなく、展示を通して来館者と交流し、来館者に身近な自然や生活へ目を向けていただく「かけはし」となっている。展示交流員は、普段から展示室での交流を行っているが、さらなる交流業務の充実をはかるため、昨年度に引き続き、「展示交流員と話そう」を実施した。

本事業を実施するに際しては、展示交流員が各自でテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受けながら、知識の習得、交流方法の検討、資料作成について、2ヶ月間の準備を行った。

本事業は、普段の交流から「きっかけ」をつかみ、できるだけ自然なスタイルで臨めるよう努力した。展示交流員は各自のテーマに沿って、展示だけの交流ではなく、資料に触ってもらう・自作の資料を見ってもらう等、来館者の興味を引き出す工夫も行った。

本事業の詳細は以下のとおりである。

期 間：2007年12月1日(土)～2008年3月29日(土)（日曜日、祝・祭日は除く）

人 数：展示交流員 34名

回 数：2007年12月 71回

2008年 1月 144回

2008年 2月 128回

2008年 3月 161回 計 504回

交流人数：計 1,572名

「展示交流員と話そう」の内容

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
A	犬塚きく美	‘咽頭歯’ って何でしょう？	自然史研究室
	杉本和子	メタセコイア	植物化石の研究
	齋藤滋子	隕石	コレクションギャラリー
B	中村とく子	疏水	治水・利水への取り組み
	井出範子	疏水の流れ	治水・利水への取り組み
	村田洋子	滋賀県内 朝鮮半島ゆかりの地	古代の湖上交通
	田中 綾	大津京探訪	古代琵琶湖の産物
	木村美枝	神仏習合 日吉大社 山王祭	古代琵琶湖の産物
	柳原徳子	木の香り	丸子船交流デスク
C	芦田弘美	ゆりかご水田から見えたお米や食をつくるということ	くらしとむすびついた自然
	奥村恵子	沖島のくらし	湖辺のくらしと琵琶湖の自然
	今泉美保	昭和・暮らしの1日	農村のくらしと自然
	近藤摩子	今、出来るくらしの智恵・工夫	農村のくらしと自然
	岩見 勉	びわ湖を歩幅で計ってみよう！	琵琶湖盆地を歩いてみよう
	池畑慎吾	思い出クイズ	空からみた琵琶湖
	北田昌子	オサムシ（マイマイカブリ）の紙フィギュアをたのしもう	オピニオンコーナー
	愛須美由起	薬・毒になる身近な植物	くらしとむすびついた自然
	林 克子	琵琶湖のカワウ	へった生き物・ふえた生き物
	本田幸子	豊かな土壌づくりの主演「みみず」	水をはぐくむ森林
	弓削宣子	どんぐりはてな？	くらしとむすびついた自然
	初田幸穂	琵琶湖一周自転車の旅	空からみた琵琶湖
	前川桂子	水の中の小さな生き物	いきものコレクション
	西山順子	おばあちゃんのお食物（植物）学	農村のくらしと自然
	千葉いづみ	農村の一日	農村のくらしと自然
	矢野典子	プランクトンの魅力	いきものコレクション
	荒井紀子	ホテルとひと	ホテルと人と環境と
	水族	吉岡 令	滋賀県の鳥「カイツブリ」
中江美知子		カイツブリ	水辺の鳥
森 智美		オオサンショウウオ	川の中流の生き物
木下睦司		見ることのできない水中世界へ	トンネル水槽
横田彰子		Blue gill	外国から来た魚たち
ディスカバリールーム	橋本富江	かげ絵	かげ絵ボックス
	折中康子	折り紙でおさいふをつくろう	
	斉藤文子	いろいろな歯	道具としての歯・歯のような道具

## 4 体験と交流を促す博物館

### 一般利用者へのサービス事業

#### (1) 観察会・見学会等

2007年度は、博物館内や県内とその周辺で行う観察会14件、博物館探検1件の合計15件の事業を実施した。当該年度も他団体との協働・連携事業を多くすることをめざした。観察会・見学会に限ってみると、協働できた事業は13件(93%)と昨年(17件うち13:76.4%)よりやや割合が増加した。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。応募者が定員を上回った事業もみられたが、この場合、原則として応募者を全員受け入れた。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

観察会・見学会等の実施結果

回	開催日	曜日	事業名	定員	参加者	共催
1	6月2日	土	活断層っていったい何？	30	24	産業技術総合研究所
2	6月10日	日	ホテルを観察しよう	30	29	荒井紀子(ホテルの学校)
3	6月17日	日	自然農法の田んぼで生きもの探検	30	56	朽木生きものふれあいの里
4	7月7日	土	※魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<魚つかみ編>	30	43	はしかけ「びわたん」
5	7月28日	日	※魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<標本づくり編>	30	26	はしかけ「びわたん」
	8月21日	火			24	
6	7月29日	土	漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう	20	27	朝日漁業協同組合
7	9月23日	日	アユの産卵用人工河川をみてみませんか	20	26	(財)滋賀県水産振興協会・水産課
8	10月21日	日	化石の観察会	30	36	多賀の自然と文化の館
9	10月28日	日	ビワマスの採卵現場を見学してみませんか	20	28	百瀬漁協組合と高島事業場
10	9月2日	日	※「人形劇 た・な・か・み・さ・ま」	当日 受付	122	人形劇 にんたま
	10月28日	日			124	
11	10月7日	日	※「紙芝居 コイのゴーイ君とフナのプーナちゃん」	当日 受付	130	ランデブーカセット
	10月21日	日			192	
12	11月24日	土	秋の里山を歩こう	30	36	カワセミ自然の会
13	12月16日	日	下物の水鳥を観察してみよう	30	34	日本野鳥の会・滋賀支部
14	3月30日	日	川虫探検	30	50	

※ 2007年度企画展「琵琶湖のコイ・フナのお話 -東アジアの中の湖と人-」の関連事業



漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう



下物の水鳥を観察してみよう

## 1) 博物館探検

2007年度は当初計画していた「水族バックヤードミニ探検」および「水族展示の舞台裏」は、やむを得ず中止になったため、かわりに水族展示ガイドツアーを実施した。

博物館探検の実施結果

開催日	曜日	事業名	定員	参加者
7月23日	月	水族展示ガイドツアー	当日受付	111
7月30日				
8月20日				
8月27日				

## (2) 講座

本年度は、地域との協働を意識して、8件の講座を実施した。特に指導者向け講座については、昨年より充実させる形で6件の講座を実施した。

また、企画展示関連イベントの一つとして人形劇団「にんたま」の協力を得、アトリウムにおいて人形劇「たなかみさま」の講演をし、子どもたちに好評を博した。(観察会・見学会の項参照)。2007年度に開催した講座の実績を以下に記した。

### 1) 入門・専門講座

2007年度は、以下に示した1件の事業を実施した。

#### ○回転実験室で水槽実験を！

本館C展示室の回転実験室で、準備に時間を要するため日常の展示室運営では実施できない、水槽を使った実験を行った。具体的には、水槽中央の排水口にできる渦が必ず実験室の回転の向きになることを確かめる実験と、水槽に牛乳などを垂らすとカーテン状になる実験(テラー柱の実験)を行った。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者	講師
8月7日	火	回転実験室で水槽実験を！	20	35	戸田 孝

### 2) 指導者向け講座(担当:中村公一・中野正俊)

2007年度は、本講座を昨年以上に充実させる形で、以下6件の講座を企画した。いずれの講座も参加者にはたいへん好評であった。このうちいくつかの講座は、滋賀県北部に重点を置き、小学校・博物館・北部の教員と連携して開催した。

#### ○「地層の見方」講座-みなくち子どもの森を例にして-(中村・中野・里口)

私たちの地盤をつくっている地層は、過去の琵琶湖周辺の環境を保存している。そういった昔の環境を読み解くための、地層の見方について、みなくち子どもの森でみられる地層を例として、実際に観察をしながらポイントを解説した。

開催日	曜日	タイトル	定員	参加者	共催・後援
7月24日	火	「地層の見方」講座-みなくち子どもの森を例にして-	20	11	みなくち子どもの森・滋賀県総合教育センター・滋賀県教育委員会・京都府教育委員会・京都市教育委員会



地層の観察



火山灰の顕微鏡観察

○指導者のための川の生き物調査（中村・中野・秋山）

実際に川に出向き、学芸員が水生生物の採集方法や生態について解説した。開催場所は湖北地方に重点をおくために、米原市油里川である。博物館より遠隔地の開催となるため、当日の天候判断等、安全確保に地元をよく知っていて、かつ琵琶湖博物館の理念も理解されている先生にも講師を依頼した。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者	共催・後援
7月30日	月	指導者のための川の生き物調査	10	15	中川 修氏（野洲北中学校）・滋賀県総合教育センター・滋賀県教育委員会・京都府教育委員会・京都市教育委員会



米原市油里川でウナギをつかまえた受講者

○指導者のための湖沼学基礎講座（担当：芳賀・中村・中野）

湖の不思議や富栄養化の仕組みなど、琵琶湖の環境を考える上で必要な湖沼学のエッセンスを体験的に学ぶ講座を開催した。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者	共催・後援
8月27日	月	・琵琶湖の模型づくり ・展示室にて世界の湖沼等の解説	18	延 42	滋賀県総合教育センター・滋賀大学・滋賀県教育委員会・京都府教育委員会・京都市教育委員会
8月28日	火	・プランクトン観察 ・水質検査等実習			

○生き物飼い方講座

本年度は、湖北町の朝日小学校と琵琶湖博物館の2ヶ所で幼稚園・保育園、小学校の教師を主な対象に、魚、ザリガニ、昆虫などについて、それぞれの生き物の特徴や飼い方、増やし方について、実物と資料を提示しながら学芸員が解説した。実物に触れられることがたいへん好評であった。



開催日	曜日	事業名	定員	参加者	担当者	共催・後援
8月2日	木	外来生物、ザリガニの飼い方、昆虫の飼い方	30	18	中井克樹、前畑政善、八尋克郎	滋賀県教育委員会・総合教育センター
8月3日	金	外来生物、ザリガニの飼い方、水生昆虫の飼い方	30	20	中井克樹、前畑政善、梶永一宏	

○指導者のための博物館利用講座

琵琶湖博物館は「湖と人間」をテーマとした、環境学習や体験学習の絶好の場である。学校の先生や地域活動のリーダーなど、子どもたちをつれて博物館に来られる方々を対象に、団体向けの体験学習を、まず指導者にしてもらい、博物館のよりよい活用の方法を提案し、子どもたちとともに学びたいポイントを博物館教員が紹介した。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者	担当者	共催・後援
7月26日	土	琵琶湖博物館の展示活用法	各 10	のべ 28	中野正俊、 中村公一	滋賀県総合教育センター・ 滋賀県教育委員会・京都府 教育委員会・京都市教育委 員会
8月21日	土	魚の歯の標本づくり			中島経夫	
10月4日	火	外来魚 観察と調理			秋山廣光	
11月6日	木	昔のくらしにふれる			老 文子	

○淡水魚類学専門講座(全6回) (主担当：前畑政善)

本講座は、淡水魚のことを専門的に学びたいという方々(先生や地域のリーダー)を対象に一昨年から設けたものである。今回は6人の講師が、それぞれ専門とする立場から6つのタイトルで講義した。講義内容が盛りだくさんで時間が短かすぎるとの声もあったが、おおむね好評であった。内容は、以下のとおりであった。

淡水魚類学専門講座(全6回)

参加者：<延べ63名>

回	開催日	曜日	事業名	講師	内容
1	1月19日	土	なぜ地域在来の魚を調べ、守るのか -いま必要な「お宝鑑定」-	中井克樹	地域在来の魚たちがなぜ大切なのかを、魚たちのもつ「遺産」に通じる価値の視点から論じた
2	1月26日	土	魚とは何か	前畑政善	魚の進化、分類、生態の多様性、淡水魚と海水魚の違いなど魚についての基本的な事柄を解説します
3	2月2日	土	魚と田んぼの関係	金尾滋史	なぜ魚は田んぼを利用するのでしょうか?これまでの研究で明らかになってきた魚と田んぼの関係や、近年減少傾向にあるこれらの魚の現状と保全について紹介します
4	2月9日	土	滋賀県の魚-生態と見分け方	秋山廣光	滋賀県にすむ魚類全種について、個々の魚の生態や見分け方について説明します。種類数が多いため、詳しい点については、受講者の質問に応じる形で解説した
5	2月16日	土	滋賀県にすむサケの仲間たち	桑原雅之	滋賀県には、もともと4種類のサケ科の魚が棲んでいる。これらの魚は、どこから来てどんな生活をしているのかについて、最新の知見を交えながら紹介した
6	2月23日	土	魚をかいした湖と人間のかかわりの歴史	中島経夫	考古遺跡から出土するコイ科魚類の咽頭歯の研究からみた魚と人間のかかわりの歴史を紹介した

### 3) 夏休み自由研究講座 (担当：上田康之・八尋克郎)

子どもたちを対象に、夏休みに入って間もない7月下旬に研究の方法について指導する「夏休み自由研究講座」を開催した。本年度は初回から数えて6回目となった。本講座の日程、参加者数、講師等は下表のとおり、多数の参加があり、特に地学・化石コースの参加者が多かった。

開催日	曜日	事業名	定員	参加者	講師
7月22日	日	昆虫	各30	35	八尋克郎、榊永一宏、(武田 滋)、(南 尊演)
		植物		23	布谷知夫
		地学・化石		48	高橋啓一・里口保文・(北田 稔)

※ ( ) 内は外部講師



「植物コース」



「地学・化石コース」

### (3) 体験教室

2007年度も、昨年同様に里山体験教室を開催した。

#### ○里山体験教室 (担当：西村知記、小川雅広)

里山の魅力や里山の楽しみを発見することを目的に、4回の里山体験教室を企画・実施した。プログラムとしては、里山の四季を感じられる体験教室を目指し、春は導入の「里山春さがし」を行い、石田未基氏に食べられる野草について紹介してもらった。夏は「里山の虫さがし」と題し、榊永学芸員に捕虫網の取扱講座、いろいろなトラップによる採取方法を紹介してもらった。秋は「里山の秋拾い」、冬は「冬の里山遊び」を実施した。冬は、里山の会のプロデュースによる企画で、たき火を使った料理や炭づくりを行った。

里山の手入れ作業は、複数の子どもを抱える保護者にとっては、負担が大きいため、ノコギリや刃物を使った里山の手入れ作業は秋のみとし、各回とも里山の魅力や楽しみを発見に重点を置いた。また、簡単な手入れ作業として、小さな子どもにもできる、「落ち葉かき」を位置づけ、こちらは2回ほど行った。

「里山体験教室」開催日と内容

回	開催日	内 容	参加者	担当者/講師
1	4月21日	里山の春さがし	40	西村知記、小川雅広、(石田未基)
2	7月21日	里山の虫さがし	31	西村知記、小川雅広、榊永一宏
3	10月20日	里山の秋拾い	29	西村知記、小川雅広
4	1月19日	冬の里山遊び	28	西村知記、小川雅広



里山の捕虫網講座（夏編）



たき火を使った「お花炭」づくり（冬編）

## 学校連携事業および体験学習

### （1）教職員等研修

2007年度に行われた教職員等研修は、合計15件（参加者：669名）であった。研修では、博物館の基本理念や展示概要のほか、総合的な学習などにおける学校の博物館活用法についての解説を行った。また、実習室等で展示に関わる実習をしたり、学芸員から各分野の専門的な話を聞いたりした。

月 日	研 修 会 名	人 数
5月22日	草津市初任者研修	9
6月12日	滋賀県中学校教育研究会理科部会	10
8月1日	滋賀県中学校教育研究会理科部会自然調査ゼミナール	15
8月9日	奈良県田原本町教員研修会	14
8月22日	滋賀県環境教育担当者連絡会議	200
8月23日	滋賀県教育委員会 理数大好き教員研修会	95
8月23日	滋賀県総合教育センター10年経験者研修 授業研修理科	6
8月28日	滋賀県総合教育センター 環境科学講座	15
9月28日	滋賀県環境学習支援センター 企画者のための環境学習体験講座	25
10月16日	滋賀県総合教育センター 理科実習助手講座・理科実験実習講座	20
11月2日	国際協力機構 国際教育協力プロジェクト（モンゴル国研修員）	15
11月3日	大阪府教職員互助組合	40
12月5日	愛知県理科教育研究会高等学校部会	35
1月19日	滋賀県教育委員会 滋賀の教師塾	132
2月28日	滋賀県教育委員会 理科支援員研修会	38



野外観察の説明を受ける先生方



採集方法の説明を受ける先生方

## (2) 視察対応

2007年度に受け入れた、学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計10件113名であった。

月 日	団 体 名	人 数
4月13日	滋賀県教育委員会 生涯学習課	2
4月19日	韓国 国立光州博物館	4
6月19日	大阪成蹊大学 博物館コース	23
8月29日	静岡県教育委員会	2
9月26日	埼玉大学教育学部	15
10月11日	滋賀県博物館協議会 2007年度第1回研修会	40
11月7日	鹿児島県日置市教育委員会	4
12月2日	びわこ成蹊スポーツ大学 野外活動コース	20
3月18日	沖縄県名護博物館	2
3月26日	愛知県碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館	1

## (3) 学校団体向け体験学習

博物館と学校とが連携を保ちながら活動を進めていくことができるよう、学校のカリキュラムに沿った社会見学への対応のほか、各種体験学習、フローティングスクール等の受け入れを行った。特に、体験学習として下記のような活動を実習室、セミナー室、生活実験工房等を利用して行った。

また、展示学習を支援する「サポートシート（19種類）」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。

校 種	主な活動内容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトン採集と観察、昔の暮らし体験（石臼、脱穀、手押しポンプ）、わら細工、魚に触れる、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、水鳥観察、火山灰の観察、大地のつくり、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚、琵琶湖の生き物、博物館の展示について等）、ヨシ笛、化石のレプリカ、水質検査、プランクトンの採集と観察、プランクトン模型作り、わら細工、魚の採集（釣り）と解剖、外来魚の調理、昆虫の観察、水生昆虫の観察、昆虫の調査、野外観察（ヨシ群落）、野外植物観察、貝の観察、水の汚れの測定、水鳥の観察、火山灰の観察、大地のつくり、学芸員の仕事体験、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の魚類、博物館の展示について等）、プランクトンの採集と観察、魚の採集（釣り）と解剖、水質調査、珪藻化石の観察、生態観察池での陸水学基礎学習、湖岸調査（地形、植生他）、火山灰の観察、大地のつくり、展示利用学習、課題研究、質問対応

### 体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	59	3,002	35	2,798	94	5,800
中学校	21	2,334	15	1,388	36	3,722
高等学校	20	844	8	363	28	1,207
特別支援学校	1	40	0	0	1	40
合 計	101	6,220	58	10,769	159	10,769



魚の解剖



化石のレプリカづくり

#### (4) 一般団体向け体験学習

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、地域連携のあり方を探るため、子ども会やスポーツ少年団、障害者団体などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
団体 32 件 (1,250 名)	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物）、ヨシ笛、外来魚調理、プランクトンの採集と観察、魚の解剖、昔の暮らし体験 等

#### (5) 学校サテライト博物館事業

今年度から学校の空き教室を活用した学校サテライト博物館事業を湖北町朝日小学校と野洲北中学校ではじめた。事業は、企画展示やギャラリー展示で使われた移動展示だけでなく、学芸員等の体験学習や講義を多くの児童や地域住民、教員向けに実施した。琵琶湖博物館も中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具体的に進めるための事業の一つとして大きな成果があがった。

期間	対象	属性等		人数（人）	総数（人）
9月25日～10月5日	野洲北中学校	地域住民を含む	入場者数（延べ）		590
10月22日～2月15日	朝日小学校	地域住民を含む	入場者数（延べ）		741
5月14日	朝日小5年	授業（理科）	受講者	27	706
8月2日	教員・地域住民	研修講座	受講者	18	
9月25日	野洲北中学校	ワークショップ	受講者	20	
10月19日	朝日小6年	授業（理科）	受講者	32	
10月22日	朝日小6年	授業（総合）	受講者	34	
11月3日	地域住民	ワークショップ	受講者	59	
12月5日	野洲北中学校	授業（選択理科）	受講者	16	
1月9日	朝日小4年	授業（理科）	受講者	25	
3月4日	朝日小3年	授業（社会科）	受講者	31	
9月25日～2月15日	湖北町立小谷小、速水小、朝日小	ワークショップ	受講者	444	
				合計	



サテライト博物館のオープニング



6年生を対象にした植物の学習



4年生を対象にしたカワウの学習



サテライト博における指導者研修



展示物を活用した学習



サテライト設置校児童の琵琶湖博物館来館学習

### (6) 琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）の活動

当館を訪れる小・中学生を対象に、自然・環境・歴史・民俗への興味や関心を高めるための体験活動を、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらうよう、保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能にした。基本的には、第2・第4土曜日の午後1時より受付、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。大変好評で、年間594名の参加者があり、プログラムの内容上、定員オーバーで参加をお断りするものもあった。

回	月日	タイトル	参加人数
1	4月14日	春の草花でしおりをつくろう	53
2	4月28日	春の草花でしおりをつくろう	23
3	5月12日	プランクトンの模型をつくろう	30
4	5月26日	プランクトンの模型をつくろう	25
5	6月9日	化石のレプリカをつくろうー魚の歯のヒミツー	48
6	6月23日	化石のレプリカをつくろうー魚の歯のヒミツー	42
7	9月8日	光と影で写真をうつそう	32

回	月日	タイトル	参加人数
8	9月22日	光と影で写真をうつそう	17
9	10月13日	たねみつけ～秋の屋外展示を探検しよう～	21
10	10月27日	たねみつけ～秋の屋外展示を探検しよう～	25
11	11月24日	秋の色を集めよう～森のたんけん隊～	31
12	12月8日	水鳥を観察しよう～色とりどりの冬鳥たち～	18
13	1月12日	水族展示室でスゴロクをしよう	34
14	1月26日	水族展示室でスゴロクをしよう	30
15	2月9日	昔のくらしを体験しよう	38
16	2月23日	昔のくらしを体験しよう	58
17	3月8日	葉っぱの化石を観察してみよう	34
18	3月22日	葉っぱの化石を観察してみよう	35
合計			594



展示室をめぐる子どもたち



プランクトンを観察する子どもたち

### (7) 職場体験実習

琵琶湖博物館を校区にもつ草津市立新堂中学校2年生の職場体験実習を受け入れた。

学校名	月日	受入人数	内容
新堂中学校	11月6～9日	3	展示交流員実習・学芸員研究体験・水族調餌給餌作業・体験学習等

### (8) 博物館実習 (期間: 8月2日(木)～8月9日(木); ただし5日は休み)

国内11大学、20名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それにもとづく交流、資料整備、展示などの活動について、講義および実習を行った。特に交流の場としての博物館活動を理解してもらうために、来館者との交流の担い手となる展示交流員体験や、博物館評価とその発表という実習を行った。また、今年度は実際の交流事業の体験として、自然調査ゼミナールへ実習スタッフとしての参加も行った。最終日には、博物館活動の基本的考え方の理解を確認しつつ展示を企画する実習として、ディスカバリーボックスの企画を行い、簡易的な材料で製作し、発表会を行った。発表会では博物館職員との意見交換も行われた。なお、8日以上の実習が必要な1名は、3日の追加実習を行った。

実習の日程および内容

月日（曜日）	実習内容（午前）	実習内容（午後）
8月2日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体オリエンテーション</li> <li>講義「博物館とは何か？」</li> <li>館内案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館の設置理念と概要」</li> <li>ディスカバリールームの見学</li> <li>ディスカバリーボックスの製作ガイダンス</li> </ul>
8月3日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「常設展示の概要と戦略」（常設展示の見学を含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展示説明</li> <li>企画展示の展示評価、発表</li> </ul>
8月4日（土）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「企画調整の事業と中長期計画」</li> <li>博物館評価チェック項目づくりとチェック作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェック作業、博物館評価チェックの集計、集計結果の考察</li> <li>グループごとに発表・議論</li> </ul>
8月5日（日）	＜休 み＞	
8月6日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館の資料整備」</li> <li>講義「琵琶湖博物館の水族」</li> <li>担当分野ごとに分かれて資料整理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当分野ごとに分かれて資料整理実習（6分野）</li> </ul>
8月7日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「琵琶湖博物館交流事業の概要」</li> <li>ガイダンス「自然調査ゼミナール」</li> <li>自然調査ゼミナールに合流して実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然調査ゼミナールに合流して実習</li> </ul>
8月8日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義「展示交流員の役割」</li> <li>展示交流員体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示交流員体験</li> </ul>
8月9日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカバリーボックス制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカバリーボックス発表</li> <li>修了式</li> </ul>

実習生：11 大学，20 名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
成安造形大学	5	神戸大学	1
近畿大学	5	九州東海大学	1
滋賀県立大学	2	琉球大学	1
京都教育大学	1	帝京科学大学	1
京都橘大学	1	帯広畜産大学	1
京都文教大学	1		
合 計			20

## 国際交流活動

### (1)「JICA 博物館集中コース」の実施

JICA からの委託事業として、国立民族学博物館と共に、「博物館集中コース」を実施した。国立民族学博物館が事務局を持ち、琵琶湖博物館は企画委員2名を出して、全体の運営にかかわると共に、10名の研修の受け入れを行った。

なお、このJICAの研修は当初10年間にわたり国立民俗学博物館が「博物館技術コース」として行ってきたもので、琵琶湖博物館も研修生を受け入れて協力してきたが、2004年度から名称と研修内容を変更し、琵琶湖博物館が共催して行っているものである。

#### 1) 研修員

セラノ・ヴァスケス・カルロス・エデュアルド（コロンビア国立博物館）

ハブトム・カッセイ・ハブテマリアム（エリトリア国立博物館）



ルヴナコロ・メレイア・ナイヴォタ（フィジー博物館）  
ゴンザレス・キエジ・アナ・カロリナ（グアテマラ文化省自然および文化遺産局）  
ペリエラ・ジェラルド・アンソニー（ガイアナ文化省若者スポーツ局）  
マドー・ナディア・ベニータ（ガイアナナショナルトラスト）  
アルザベン・アミーラ・サイデ・スレイマン（ヨルダン国立博物館）  
ペレス・アルベア・ステュアート・パトリシア（ペルーシャバン・デ・ホアンタール博物館）  
ニャンベ・テリー・シミオティ（ザンビアリビングストーン博物館）  
ムララ・イヴォンヌ・ルウェ（ザンビア国立博物館）

## 2) スケジュール

2007年4月2日 来日

4月16日 開講式（国立民族学博物館）  
4月17日 カントリーレポート（琵琶湖博物館）  
7月13日 閉講式  
7月14日 帰国

### 琵琶湖博物館での研修

5月8日 琵琶湖博物館の概要（楠岡）  
展示見学（楠岡、布谷）  
5月9日 展示の計画および作製（乃村工芸社 鮫島）  
展示評価法およびその実践（布谷）  
琵琶湖博物館の展示を評価する（楠岡、布谷）  
5月10日 琵琶湖博物館の交流活動とは（八尋）  
学校との連携（中村、中野）  
資料の整理と利用（橋本）  
展示室の運営（榎永）  
5月11日 草津本陣見学（布谷、楠岡）  
ディスカバリールームの考え方と運営（堀田、荒井）  
5月12日 はしかけおよびフィールドレポーターとの懇談（楠岡、布谷）  
体験学習プログラム見学および体験（楠岡、中村、中野）  
5月13日 博物館と研究（高橋）  
地域博物館の運営（布谷）  
情報の利用とそのための施設（戸田）  
琵琶湖博物館の学芸員とのディスカッション

## 3) 個別研修

選択の個別研修には、研修員10名のうち、3名が琵琶湖博物館で研修した。

- ・参加研修員 セラノ・ヴァスケス・カルロス・エデュアルド  
ニャンベ・テリー・シミオティ  
ムララ・イヴォンヌ・ルウェ
- ・個別研修期間 6月26日～30日
- ・研修内容（テーマ・地域と博物館）
  - 6月26日 ディスカバリールーム七夕飾りの準備（堀田、荒井）  
ディスカバリールーム国際コーナーを計画する（堀田、荒井）
  - 6月27日 近江八幡市立資料館見学（布谷、楠岡、スミス）

- 能登川博物館見学（布谷、楠岡、スミス）
- 6月28日 体験学習プログラム（中村、中野）[イヴォンヌおよびカルロス]  
博物館と地域住民（布谷）[イヴォンヌおよびカルロス]  
水族館の運営（秋山、楠岡）[テリー]  
液浸標本の管理（中園、楠岡）[テリー]  
草津市立まちづくりセンター見学（布谷、楠岡）
- 6月29日 うおの会の活動（水野）  
博物館、学校、地域との連携：伯母川博物館（楠岡）
- 6月30日 伯母Q五郎の活動体験（伯母Q五郎、布谷、楠岡、スミス）  
子ども達との交流（伯母Q五郎、布谷、楠岡、スミス）

## (2) 海外からの視察

月	日	視察団体名	依頼者	人数	担当
4	6	中国雲南省昆明市「デン地水環境改善事業」研修員	北九州国際技術協力協会 (KITA)	14	芳賀
4	19	韓国 国立光州博物館職員	韓国 国立光州博物館	4	楠岡
4	21	フフホト市下水道研修（第2回）	北九州国際技術協力協会 (KITA)	15	高橋
4	24	韓国、自然環境研修員		3	布谷
4	24	JICA 集団研修「持続的増養殖開発コース」	国際水産技術開発	8	松田
4	25	モロッコ国テンシフト流域管理公社職員研修	Pacific Consultants International	4	小川
4	28	新入留学生研修	京都大学	23	グライガー
6	9	環境学 ミシガン州立大学連合日本センター学生	ミシガン州立大学連合日本センター	5	スミス
6	19	韓国の丹陽郡庁	韓国ソウル, Yaho Japan	9	前畑
6	29	ミシガン州高校生 (Michigan-Shiga Student Exchange Program)	滋賀県教育委員会	20	スミス
7	14	Seoul National University	N/A	2	楠岡
7	18	JICA イラク南部湿原地域保全研修	ILEC JICA	11	楠岡・芳賀
7	25	ミシガン州友好親善使節団	滋賀県	25	スミス・グライガー
7	27	第9回 JICA 国別特設フィリピン環境管理コースの研修	北九州国際技術協力協会 (KITA)	12	スミス
7	30	中国湖南省岳陽市人民代表大表団	商工観光労働部	18	楊
7	30	中国湖南省第二次中学生訪日修学旅行団	商工観光労働部	34	楊
7	31	中国	林	5	高橋
8	7	韓国	大津市役所文化市民交流課	13	高橋
8	29	閉鎖性海域の水環境管理技術コース	財団法人国際エメックスセンター	12	楠岡
9	9	VJC 台湾教育関係者招請旅行団	びわこビジターズビューロー	12	布谷
9	14	JICA 水環境を主題とする環境教育	ILEC JICA		
9	16	「友好県省青年交流事業」による視察	滋賀県健康福祉部	24	用田
9	24	ベトナム国別研修「戦略的環境管理行政」	大阪府立大学大学院工学	10	布谷

月	日	視察団体名	依頼者	人数	担当
9	24	Far Eastern National University	N/A	2	グライガー 中島
9	29	ヨルダン国別研修「博物館活動を通じた観光振興」	大阪国際センター (JICA)	2	楠岡
10	3	(ドイツ) ハンブルク大学ビオツェントルムグリーンデル・無動物学博物館	琵琶湖博物館	1	グライガー
10	10	JICA 集団研修、建設事業における環境保全対策コース	社団法人 近畿建設協会	10	グライガー
10	24	中国湖南省環境保護視察団	商工観光労働部	3	楊
10	25	「生活排水対策コース」研修	北九州国際技術協力協会 (KITA)	9	スミス
11	9	JICA 草の根「スリランカ国河川モニタリング研修」	北九州国際技術協力協会 (KITA)	3	スミス
11	12	第11回滋賀県人会世界大会	滋賀県		楠岡・ スミス
11	14	「産業廃水処理技術 (II)」コース	九州国際センター (KIC)	7	スミス
11	18	カリフォルニア州滋賀県大会	滋賀県商工観光労働部 国際課	20	スミス
11	22	ドイツのヴェルツブルグ大学	滋賀県新産業振興課分 室	1	楠岡
11	22	韓国北京教育関係者	びわこビジターズビュー ロー	12	中島
11	30	中国北京教育関係者	びわこビジターズビュー ロー	14	布谷
12	4	ノルウェーの小学生とテレビ局スタッフ	滋賀女子短期大学	14	楠岡
12	8	タイ教育関係者視察団 (キング・モンクット工科大学 など)	タイのキング・モンクッ ト工科大学	12	スミス 楠岡
12	19	中国雲南省昆明市「デン池水環境改善事業」研修	北九州国際協力協会	17	楊
1	16	中日文化経済交流協会	京都大学	17	楊
2	1	国別研修「サウジアラビア国下水道処理施設コース」	北九州国際技術協力協会 (KITA)	18	芳賀
2	6	雲南省昆明市官度区政府訪日代表团	びわこビジターズビュー ロー	26	中島
2	14	地域別研修「中東地域博物館研修」	大阪国際センター (JICA)	10	楠岡 布谷
2	25	中国の第2期環境研修団	京都大学	23	楊
2	26	中国からの視察研修団	京都大学	19	楊
3	5	JICA フセインサガール湖水質管理研修	ILEC, JICA	9	楠岡
3	11	韓国	J. T. Tour	21	中島
3	25	中日文化経済交流協会	京都大学	19	楊

## 5 対話と応援ができる博物館

### 利用者主体の事業

#### (1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、県内を中心に身近な生き物や生活に関する情報を定期的に報告してもらい、得られた情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中でいかしていくとともに、情報のやりとりを通して博物館とレポーター同士をつなぐ制度である。登録者数は122名（2007年度）であり、減少傾向にある。

活動としては、博物館とフィールドレポーターが相談してテーマを設定し、年数回行うアンケート型調査と、自由な内容で身近な情報を随時報告する自由回答調査の2種類を実施している。調査の結果はフィールドレポータースタッフにより「フィールドレポーターだより」にまとめられ、フィールドレポーター交流会でも発表される。調査に先駆けての勉強会や観察会を適宜実施している。

2007年度は春から夏にかけて「ツバメ調査2007」を実施し、秋季から年末にかけて「ボタンウキクサ分布調査」、冬季には「野生生物の予知能力調査 - 2（虫たちに聞いてみよう）」を実施した。なお、今年度は「ミノムシ調査（2006年度）」の結果や「ボタンウキクサ分布調査（2007年度）」を広報したところ、一部新聞に掲載され、話題を呼んだ。

その他の活動としては、フィールドレポーターのニュースレター「フィールドレポーター掲示板」を5回（通巻45-49号）発行し、調査報告書「フィールドレポーター便り」を2回発行した。

フィールドレポーター同士の交流会、勉強会を兼ねて、8月には伊丹市昆虫館友の会とともに「アサギマダラ観察会（マーキング調査）」（於；びわ湖バレー）、9月には「チッチゼミ観察会」（於：三上山（野洲市））、また11月下旬には、伊丹市昆虫館の協力を得て「虫のうんこ染体験教室」（当館生活実験工房）を開催した。また、草津市で開かれた第8回パワフル交流・市民の日でもパネル展示や子供向けのゲームなどを実施した。

それ以外の活動として、2008年3月に博物館アトリウムで開催された「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」にも出展した。

2007年2月から「フィールドレポーター掲示板」および「フィールドレポーター便り」の電子化をフィールドレポータースタッフの協力で実施し、当館HPのウェブサイトから最近のものはダウンロードできるようになっている。

フィールドレポーターの調査内容等一覧

内 容	実施月	報告数(件)
1) ツバメ調査(2007)	3～7	92
2) ボタンウキクサ分布調査	10～12	219
3) 野生生物の予知能力調査 - 2	12～3	数件
4) 自由形調査(フィールドレポーター掲示板)	通年	



チッチゼミ観察会（9月2日）



虫のうんこ染め体験教室（1月19日）

フィールドレポーター 活動の記録

月 日	曜	内 容
2007年4月7日	土	定例会：担当の交代、引継ぎ。交流室へ棚新設、部屋整理
4月21日	土	交流室の棚整理・掲示板4月号の発送作業
5月19日	土	定例会：交流会の準備
5月27日	日	「フィールドレポーター交流会」（於：生活実験工房）
6月2日	土	定例会：伊丹市昆虫館とのセミ観察会の実施検討
6月16日	土	定例会：掲示板印刷・発送作業
7月7日	土	定例会：C展示室のパネルをオオヨシキリに替える
7月21日	土	定例会
7月28日	日	アサギマダラ観察会下見（於：びわ湖バレー）
8月4日	土	アサギマダラ観察会（於：びわ湖バレー）
8月18日	土	定例会：ボタンウキクサについての勉強
9月1日	土	定例会：チッチゼミ観察会方法等検討
9月2日	日	チッチゼミ観察会（於：三上山）
9月15日	土	定例会：ボタンウキクサ分布調査の方法検討
9月29日	土	定例会：ボタンウキクサ調査表発送作業
10月20日	土	定例会：伊丹市昆虫館との交流会内容検討
11月3日	土	定例会：草津市パワフル市民展示準備作業
11月10日	土	草津市パワフル市民展示参加
11月17日	土	定例会：掲示板印刷・発送作業
11月25日	日	伊丹市昆虫館との交流会（於：実習室Ⅱ）
12月1日	土	定例会：冬の調査について
2008年1月12日	土	定例会：ミノムシ調査結果のパネル作成、ニュース発送作業
1月19日	日	「虫のうんこ染体験教室」開催
1月26日	土	定例会：ミノムシ調査結果の展示替え作業
2月16日	土	定例会：掲示板49号発送作業
3月7日	金	はしかけ活動発表会の展示準備作業
3月8日	土	定例会：はしかけ活動発表会の展示準備作業
3月9日	日	はしかけ活動発表会
3月22日	土	定例会：ファール展への展示品検討。道標調査の検討

## (2) はしかけ制度

はしかけ制度は、展示の見学や交流イベントへの参加など、いわゆる受身的な博物館の利用にとどまらず、博物館の事業や活動にさまざまな形で自主的にかかわりたいとする人たちに対し、そのきっかけの場、さらには新しい活動を発想・展開するための環境を提供するための制度で、2000年8月に設置された。はしかけ制度のもとでの活動は年度単位で登録・更新の手続きを経たはしかけ会員が、個別のテーマをはしかけグループの活動に参加する形で行われる。はしかけグループの活動は多岐にわたり、活動の場所や対象を博物館内やその周辺におくグループもあれば、県内の各地域へも活動範囲を広げているグループもある。このようにして、はしかけ会員には、琵琶湖博物館の中長期基本計画に掲げられている「地域だれでも・どこでも博物館」の実現に向けて、博物館と地域あるいは地域に住む人たちとの間の、文字通り「はしかけ」としての役割も期待されている。

はしかけ制度は、参加者の側が自主的に企画・提案を行い、博物館とともに活動を具体化していく形へと移行していくことが望まれる。はしかけグループやはしかけ会員が核となり、各地で新たな活動が生まれ、すでに活動しているグループと連携をとりながら、博物館と連携した活動のネットワークが広がっていくことが、はしかけ制度の将来的な目標のひとつであり、「地域だれでも・どこでも博物館」構想を実現するひとつの有効な手段となりうるものと考えられる。

2007年度は、前年度より会員数が6名減少し、347名となった。活動グループは13から2つ増加し、15になった。

はしかけ会員になるうえでの受講が必修である登録講座を例年通り7月、11月、3月の3回実施した。また、はしかけ交流会およびはしかけ発表会を実施し、会員同士の親睦をはかるとともに、新しく会員になったはしかけさんにグループの紹介を行った。

#### はしかけ登録講座

	開催日	会場	講師	参加者数
第1回	7月8日(日)	セミナー室他	牧野厚史、各グループの代表	28名
第2回	11月17日(土)		中島経夫、各グループの代表	18名
第3回	3月9日(日)			28名

#### 各グループの活動

##### ○ザ! ディスカバはしかけ

担当者：荒井文子(～2007.6)、堀田桃子(～2007.11)、山田陽子(2007.7～)、角野真梨(2007.12～) 会員数：3名  
 [設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 「ザ! ディスカバはしかけ」は2005年度の秋に発足した団体である。これまでは個人ごとの活動が中心となり、イラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修を中心に活動した。そして、展示室のイベントで他のはしかけさんにも協力していただき、今後の目標でもある“ディスカバリーをもっと楽しくするイベント”にも挑戦できた。

#### 「ザ! ディスカバはしかけ」のおもな活動

活動日	内容	場所
7月14・21日	「うおの会」の村上さんと共同で伝統的な玩具「鯉の滝登り」イベントを展示室で行う	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
9月27日	「カイコの糸取り」イベントを展示室で行ったとき、はしかけ会員さんのお一人がカイコの糸で作った三味線とお琴の糸を寄贈してくださった	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
	BOX「つみきパズル」で使用しているパズルの型を追加作成	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
	人形劇場「パペットのクスノキ」を補修	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
	人形劇場「パペットのカエル」修繕中	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)
	人形劇場「パペットのウリボウ」修繕中	琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム)

##### ○展示室を楽しくする会

担当：中藤容子 会員数：12名

[設立の趣旨] 琵琶湖博物館の展示空間(屋外展示・生活実験工房を含む)をより深く楽しく利用していく方法を「工房に集う会」「アクティビティー集を作る会」「はしかけキッズの会」などの部門に分かれてさまざまな層の人々とともに探究していく。

[活動の概要] 2007度は担当者が休職中のため10月まで活動休止した。休止中は生活実験工房の田んぼ作業・行事への参加、11月以降、それに追加する形で「工房に集う会」の活動を行った。

#### 「展示室を楽しくする会」のおもな活動

活動日	内容	場所
12月16日	工房田んぼ作業(もちつき)	琵琶湖博物館(生活実験工房)
1月14日	工房田んぼ作業(どんど焼き)	琵琶湖博物館(生活実験工房)

活動日	内 容	場 所
2月26日・3月5日(2回)	工房に集う会(わら草履づくり)	琵琶湖博物館(生活実験工房)
3月9日	滋賀の食事文化研究会・学習会	琵琶湖博物館(生活実験工房)
3月8日～3月16日	はしかけ・フィールドレポーター活動紹介	琵琶湖博物館(アトリウム)

#### ○近江はたおり探検隊

担当：中藤容子 記録・ホームページ担当：辻川智代 会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具や機織りの技の調査を通じ、近江の各地で営まれた機織りを再現する活動を行っている。同様の活動をしている県内外の博物館や専門家、地域のお年寄り、機織りに興味のある若者や子どもたちとの交流の中で、機織り用具の製作、綿や藍などの栽培、糸や染料となる植物の採集、藍染めなどの染色、糸・布づくりを行っている。2006年度に「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元製作を始め、自ら育てた綿を使った糸を使った反物の製作が進んでいる。近江上布や麻布の復元製作も目標にしながら、大学や地域とのつながりを着々と広げている。

#### 「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動月日	内 容	場 所
2007年4月21日～ 2008年3月30日(24回)	織姫の会	琵琶湖博物館
2007年11月10日～ 2008年1月31日(3回)	はたおり探検	八尾市立歴史民俗資料館・愛荘町立歴史文化博物館など
2007年11月8日～ 2008年2月10日(3回)	椋川での地機織り協力・交流会	今津町椋川
2008年2月2日	「わんぱくプラザ笠縫・綿って知ってる？」への協力	草津市笠縫公民館
2008年2月27日	近江はたおり研究会(第29回)	琵琶湖博物館
2008年3月8～16日	はしかけ・フィールドレポーター活動紹介	琵琶湖博物館

#### ○温故写新

担当者：秋山廣光 会員数：34名

[設立の趣旨]

- ・写真とカメラを愛し、撮影を楽しむことを主旨とする。
- ・生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録し後世に伝える。
- ・感動的に、そして美しく。
- ・時の流れと共に変化するこの世界の一瞬を切り取り、命や自然、人の営みを考察する一助とする。

[活動の概要] カメラ好き、写真好きが集まって撮影会と勉強会、発表会を行っています。博物館周辺や琵琶湖と自然、それに関わる人や行事の撮影をします。定例の撮影会と勉強会を交互に行い、不定期にテーマ撮影会も行っています。

#### 「温故写新」のおもな活動

博物館の立地する烏丸半島の自然をテーマのひとつとしていますが、2007年度は、鞍馬山の撮影会と動物園の撮影会を行いました。琵琶湖博物館の基本理念にあるテーマを主体に撮影していますが、時には違うテーマでの撮影も新鮮でした。

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当：牧野厚史 会員数：6名

〔設立の趣旨〕「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざしている。

〔活動の概要〕2003年11月に県内在住の子ども達で組織する「琵琶湖の未来たち合唱団」とその保護者らによって活動を開始した。新しい琵琶湖のうた「生きている琵琶湖」を滋賀県内外に広め、子ども達が日々の生活のなかでこの歌を口ずさむことによって、琵琶湖の未来のことを考えるきっかけとなるよう活動を続けている。今年度からは今まで一緒に活動を続けてきた子ども達が参加できなくなり、元気な歌声を博物館のアトリウムに響かすことができなくなった。そのため、昨年度制作した幼児向けの紙芝居「びわこの旅」を上演し、「人」も「琵琶湖」も自然の中で生かされているということを伝えることに力を注いだ。また、県内の幼稚園などでも「生きている琵琶湖」を歌ってもらえる機会が増えつつある。今後も紙芝居と歌をセットにして活動をひろめていく予定である。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月27日	紙芝居「びわこの旅」上演・「生きている琵琶湖」合唱	琵琶湖博物館
9月9日	豊かな海づくり大会「湖づくりフォーラム」参加	しが県民芸術創造館
11月10・11日	第27回全国豊かな海づくり大会参加	浜大津大会会場
1月27日	紙芝居「びわこの旅」上演・「生きている琵琶湖」合唱	琵琶湖博物館

○ほねほねくらぶ

会長：山中裕子 広報担当：永野まやこ 担当学芸員：高橋啓一 会員数：大人18名、子ども7名

〔設立の趣旨〕現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、現生動物の解剖、骨格標本の作製などを毎月1～2回の例会を中心に行っている。

今年度は、メンバーそれぞれで解剖や骨格標本作りを進め、ウコッケイ、ウシガエル、ネズミの骨格標本が完成した。さらにキツネ、シャモ、アナグマなどが組立中である。昨年より製作していたタヌキとキツネの標本が7月に完成し、滋賀県立朽木いきものふれあいの里へ寄贈したり、他団体へ骨格標本貸出なども行い博物館外の人が骨を目にする機会を増やせるような活動も出来るようになってきた。また鳥の剥製を作りたいというメンバーの興味が実現し、製作方法を資料整理の講師から伝授いただき仮剥製製作もてがけるなどした。骨の展示会を目指し標本作りを進めている。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	シカとイノシシ頭部の除肉	琵琶湖博物館
5月例会	ウシガエルとタヌキ解剖、ハクビシン・アナグマ・タヌキ皮なめし、アザラシ骨格整理	琵琶湖博物館
6月例会	アナグマ・シャモの骨整理、ウシガエル組立	琵琶湖博物館
7月例会	イヌ（ジロウ）とトビの解剖除肉、ウシガエル組立完成 タヌキとキツネの標本を他施設へ寄贈	琵琶湖博物館
8月例会	キツネ皮剥ぎ、子ジカ写真撮影、アナグマとタヌキの骨並べ	琵琶湖博物館
9月例会	鳥の仮剥製製作講習会	琵琶湖博物館
10月例会	チュウサギとイヌ骨洗い、キツネの皮剥ぎ	琵琶湖博物館
11月例会	子シカの皮剥ぎと除肉、ネズミの解剖・除肉・骨洗い・組立 京都市野生動物救護センター見学（たぬきくらぶの活動に参加）	琵琶湖博物館 博物館外



活動日	内 容	場 所
12月例会	シカ1体の骨貸出, 博物館の干支展示(ネズミ組立標本)製作, キツネとシカ骨洗い	琵琶湖博物館
1月例会	ウコッケイとサギ組立, カモ類の羽標本製作	琵琶湖博物館
2月例会	シャモ・シカ組立, ウコッケイ組立完成, タヌキを使って解剖勉強会, ヒドリガモ標本製作	琵琶湖博物館
3月例会	タヌキとネズミの皮剥, カモ類の骨洗い, トカラヤギ掘り出し, オシドリ羽標本作り	琵琶湖博物館

#### ○たんさいぼうの会

会長：有田重彦 会長補佐：中井大介 担当（影の会長）：大塚泰介 会員数：20名

〔設立の趣旨〕珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

〔活動の概要〕2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞の会）」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に寄贈される。

2007年度の活動で特筆すべきは、日本珪藻学会誌 *Diatom* に2本の論文が掲載されたことである。

Kihara, Y., Arita, S. and Ohtsuka, T. (2007) Diatoms of Yakumogahara Moor in the Hira Mountain Range, west-central Japan. *Diatom*, 23: 83-90.

Yoshikawa, S. (2007) Sedimentary diatoms in Sawano-ike Pond, Kyoto City. *Diatom*, 23: 91-104.

さらに2008年4月現在、2人の会員が、それぞれの課題で論文を執筆中である。

2007年度も「たんさいぼうの小さな旅」で新たに珪藻試料を採集するとともに、過去の旅で採集した珪藻試料の写真撮影と整理を進めた。たんさいぼうの会でこれまでに採集した珪藻の標本は既に1,000本近く、撮影した珪藻の写真は10,000枚を超えている。

#### 「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月15日	第17回総会	琵琶湖博物館	担当：安積寿幸 参加者：12名
4月21日	たんさいぼうの小さな旅VII/山室湿原	米原市	担当：佐藤保司 参加者：4名
5月5日	珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」	琵琶湖博物館	担当：中井大介・大塚泰介 参加者：10名
5月19日	日本珪藻学会第28回大会で発表	近畿大学医学部	発表者：木原靖郎・有田重彦
9月16日～10月6日	たんさいぼうの小さな旅VI（秋期調査）	守山市内河川	担当：中井大介 参加者：10名
10月27日	第18回総会	琵琶湖博物館	担当：有田重彦 参加者：8名
11月24日	たんさいぼうの小さな旅VIII	甲賀市油日湿原	担当：片山慈敏 参加者：6名
11月25日	日本珪藻学会誌 <i>Diatom</i> に2本の論文が掲載される		主著者：木原靖郎・吉川俊一
1月14日	第19回総会	琵琶湖博物館	担当：佐藤保司 参加者：7名
3月8日～3月17日	はしかけ発表会で発表	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：4名

### ○植物観察の会

担当者：布谷知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004 年度に行った企画展示「のびる・ひらく・ひろがる」を準備している時期に、一つには植物の情報を収集し、植物を好きになる人を増やすために、同時に、はしかけという制度の中で、どのグループにとっても、植物に関する話題は関係がするために、はしかけ全体の中の植物の研修会の位置づけで始まった。

[活動の概要] 年に 4 回程度、琵琶湖周辺のゆっくりしたハイキングコースを歩いて、そのシーズンの植物の観察を行っている。また希望に応じて、室内での集まり(勉強会)を行う事もある。

#### 「植物観察の会」のおもな活動

年に 4 回の植物観察の会を行ったが、1 回は雨で中止となった。

### ○里山の会

世話役：飯田俊宏、前田博美、柳原徳子、桑垣 瑞、吉井 隆 担当：楠岡 泰、西村知記

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001 年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ」を模索している。

[活動の概要] 里山体験教室の活動フィールドが、昨年度より野洲市大篠原になった。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、2 年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しは明るさを取り戻し、今年の春にはミツバツツジがきれいに咲いた。伐採した木々や集めた落ち葉は一箇所に集積し、囲いをする事で、「カブトムシのゆりかご」として、以前には見られなかったカブトムシを呼び込むことに一役買っている。冬の体験教室では、里山の会のプロデュースによる「冬の里山遊び」を実施。参加者ともども、お花炭づくりや森の楽器づくり、バームクーヘンづくりを楽しんだ。また全国豊かな海づくり大会びわ湖大会の「湖づくりキャンペーン」に協賛して、活動の輪を広げている。

#### 「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4 月 7 日	春の里山下見 (1 回目) ルート確認	野洲市大篠原
4 月 15 日	春の里山下見 (2 回目) 素材確認	野洲市大篠原
4 月 21 日	里山体験教室 (春) 「里山の春さがし」	野洲市大篠原
7 月 14 日	夏の里山下見 (雨のため中止)	野洲市大篠原
7 月 21 日	里山体験教室 (夏) 「里山の虫さがし」	野洲市大篠原
9 月 9 日	「琵琶湖を守る湖づくりフォーラム 湖づくり活動推進大会」ポスター展示	しが県民芸術創造館
10 月 13 日	秋の里山下見	野洲市大篠原
10 月 20 日	里山体験教室 (秋) 「里山の秋ひろい」	野洲市大篠原
11 月 23 日	冬の里山下見と準備を兼ねて現地実習	野洲市大篠原
1 月 12 日	里山下見	野洲市大篠原
1 月 19 日	里山体験教室 (冬) 「冬の里山遊び」 (里山の会によるプロデュース)	野洲市大篠原

### ○田んぼの生き物調査グループ

担当：楠岡 泰、マーク J. グライガー 会員数：22 名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 当グループは、フィールドレポーター制度で行った田んぼの生き物調査に興味を持った有志で結

成された。水田に生息する生物、特に大型鰍脚類（カブトエビやハウネンエビ、カイエビなど）の分布および生活史を明らかにすることが現在の研究テーマである。このため大型鰍脚類の出現状況を県内各地の水田で調べ、分布マップを作成するとともに、分布の違いを生み出す要因を明らかにするため水温や水質などのデータとの比較を行っている。

はしかけそれぞれが自分のペースで自宅近くの定点観察および広域分布調査を行っている。また、2007年度は合同調査として近江八幡市を中心に同じ水田で夏のエビ類の分布と冬の泥の様子を調べた。

「田んぼの生き物調査グループ」のおもな活動

活動月日	内 容	場 所	参加者(名)
4月28日	田んぼの生き物調査研話し合いおよび修会	琵琶湖博物館	
5月19日	第1回田んぼの生き物合同調査	近江八幡市周辺	5
6月3日	第2回田んぼの生き物合同調査	近江八幡市周辺	7
6月7日	湖北田んぼの生きもの合同調査	長浜市周辺	5
9月8日	ミーティングおよび同定会	琵琶湖博物館	7
11月4日	第1回冬の田んぼ土壌合同調査	近江八幡市周辺	7
1月26日	第2回冬の田んぼ土壌合同調査	近江八幡市周辺	7

○うおの会

会長：村上靖昭 担当：中島経夫 会員数：115名

〔設立の趣旨〕「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

〔活動の概要〕2000年の発足から2004年5月までは、滋賀県内の魚類分布調査や、法竜川での定点調査などの調査と分析を行ってきた（成果報告は、琵琶湖博物館研究調査報告第23号「みんなで楽しんだうおの会―身近な環境の魚たち」にまとめられている）。

2005年度より、うおの会の活動は、「魚つかみを楽しむ」会から、「魚つかみの楽しみを伝える」会として活動を再構築した。琵琶湖流域を対象に、NPO、団体、機関、学校、企業や個人をつなぐ「琵琶湖お魚ネットワーク」の指導員や上級調査員として、流域各地で分布調査や地域の観察会での指導を行っている。

2007年2月には、その成果として「琵琶湖お魚ネットワーク報告書」を発行した。また、会員同士の交流やスキルアップとして、琵琶湖お魚ネットワークの魚類分布調査をすることを目的に、月1回の定例調査を琵琶湖流域各地で開催している。うおの会では、このように魚つかみを楽しみながら、得られたデータをもとにして環境の保全や回帰に役立てたいと願っている。

「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容
4月22日	第45回うおの会定例調査
4月23日	「行政によるお試し観察会」への協力
5月12日	滋賀大学環境学習支援士指導への協力
5月13日	「お魚ふやし隊による自然観察会」への協力
5月20日	第46回うおの会定例調査
5月27日	「お魚ふやし隊によるお試し観察会」への協力

活動日	内 容
6月3日	春きらり☆NPO・ボランティア活動フェアへの協力
6月6日	アクア琵琶出前講座・長等小学校授業
6月10日	「お魚ふやし隊による自然観察会」への協力
7月1日	大人の川遊びトレーニングへの資料提供と協力
7月14日	ディスカバリーイベント・鯉の滝登り工作への協力
7月17日	明富中学校自然観察会への協力
7月21日	ディスカバリーイベント・鯉の滝登り工作への協力
7月27日	守山南、葉山中学校自然観察会への協力
7月28日	琵琶湖博物館企画展シンポジウム・第1部「生き物と人のこれからの関係を探るために」資料提供の協力と参加
7月29日	琵琶湖博物館企画展シンポジウム・第2部「生き物とかかわるおもしろさ」資料提供の協力と参加
8月1日	家棟川ビオトープ観察会への協力
8月2日	企画展関連イベント「投網に挑戦！」①への協力
8月5日	「ブルーギル撲滅釣り大会2007」への協賛
8月6日	野洲川落差工付近観察会への協力
8月6日	明富中学校自然観察会への協力
8月8日	企画展関連イベント「投網に挑戦！」②への協力
8月21日	魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう<標本づくり編>への共催、資料提供の協力
9月15日	大人の川遊びトレーニング第2弾「琵琶湖と魚の最新情報交換会&Biyoセンター見学」の共催
9月23日	第48回うおの会定例調査
9月23日	第11回コアメンバー会議
9月24日	マキノ西浜自然観察会への協力
10月14日	自然観察会への協力
10月27日	第49回うおの会定例調査
10月28日	2007年びわ湖のおさかな産卵調査報告会～魚たちはどこで卵を産んでいた?～への協力
11月25日	投網教室の実施と自然史学会講演会の参加
11月25日	2007年びわ湖のおさかな産卵調査報告会～魚たちはどこで卵を産んでいた?～への協力
12月16日	第50回定例調査
12月16日	第12回コアメンバー会議
2月24日	第13回コアメンバー会議
3月4日	佐奈川の会との交流会
3月4日	第14回コアメンバー会議
3月4日	はしかけ発表会に参加
3月30日	第51回定例調査
3月30日	第8回うおの会総会

#### ○咽頭歯倶楽部

担当：中島経夫 会員数：3名

[設立の趣旨] うおの会のサブグループとして2003年1月末に発足した。その趣旨はコイ科魚類の咽頭歯に興味を持つ人が集い、互いに研鑽しながら魚やコイ科魚類に関する知識を深めることにある。

[活動の概要] コイ科魚類の咽頭歯を見分ける能力を磨き、遺跡からの遺体や地層からの化石咽頭歯を同定する。そのことによって、コイ科魚類の進化の道筋や人の営みを知る。咽頭歯標本の製作、遺跡からの咽頭歯遺体の検出、化石の調査などを行っている。

「咽頭歯倶楽部」のおもな活動

月	活動日	内 容	場 所
4月	2日、3日、4日、5日、6日、8日、10日、12日、13日、16日、17日、19日、23日、25日、29日	咽頭歯の検出作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
5月	2日、4日、5日、6日、12日、16日、21日、23日、27日、28日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
6月	4日、6日、9日、17日、20日、23日、25日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
7月	2日、11日、15日、18日、21日、25日、30日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
8月	8日、22日、29日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
9月	12日、15日、19日、29日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
10月	3日、7日、10日、13日、17日、21日、24日、28日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
11月	14日、17日、21日、23日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
12月	3日、12日、16日、23日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
1月	9日、17日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
2月	4日、9日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室
3月	9日、30日	咽頭歯のクリーニング作業	琵琶湖博物館 動物標本製作室

〇びわたん

担当 中村公一、中野正俊 会員数：23名

〔設立の趣旨〕「琵琶湖博物館わくわく探検隊」の事業を博物館職員とともに運営し、同事業がめざす「フィールドへの誘い」「展示室のより深い理解」を来館者に届ける。

〔活動の概要〕「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業は、概ね第2、4土曜日の午後に行われている。この事業は、来館者に滋賀県の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいに行っている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラム開発や事業当日の参加者との交流などに積極的に関わっている。また、それぞれの興味・関心に応じて、琵琶湖博物館内での展示、その他公共施設や学校、博物館に出かけての展示ならびに体験学習を行うほか、スキルアップのための自己研修も行っている。

「びわたん」のおもな活動

	活動日	内 容	場 所
1	4月14日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」	琵琶湖博物館
2	4月28日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「春の草花でしおりをつくろう」	琵琶湖博物館
3	5月12日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「プランクトンの模型をつくろう」	琵琶湖博物館
4	5月26日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「プランクトンの模型をつくろう」	琵琶湖博物館
5	6月9日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「化石のレプリカをつくろうー魚の歯のヒミツー」	琵琶湖博物館
6	6月23日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「化石のレプリカをつくろうー魚の歯のヒミツー」	琵琶湖博物館
7	7月7日	企画展関連イベント「魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろうー魚とり編ー」	守山市

	活動日	内 容	場 所
8	7月28日	企画展関連イベント「魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう～標本づくり編～」	琵琶湖博物館
9	7月29日	環境と科学のフェスティバル「たねとばし」	ビバシティ彦根
10	8月7日	自然調査ゼミナール「陰翳骨讃！？ほねにさわってミテ」	琵琶湖博物館
11	8月11日	科学とアートの夏祭り「青写真をとろう」	西堀栄三郎探検の殿堂
12	8月15日	かしわざきキッズミュージアム「たねとばし」協力	新潟県柏崎市
13	8月20日	イベント名「青写真をとろう」	県立近代美術館
14	8月21日	企画展関連イベント「魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう～標本づくり編～」	琵琶湖博物館
15	9月8日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「光と影で写真をうつそう」	琵琶湖博物館
16	9月17日	百人車座会議	MIHO MUSEUM
17	9月22日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「光と影で写真をうつそう」	琵琶湖博物館
18	10月13日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「たねみつけ～秋の屋外展示を探検しよう～」	琵琶湖博物館
19	10月27日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「たねみつけ～秋の屋外展示を探検しよう～」	琵琶湖博物館
20	11月24日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「秋の色を集めよう～森のたんけん隊～」	琵琶湖博物館
21	12月2日	滋賀県民環境学習のつどい 活動紹介	琵琶湖博物館
22	12月8日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「水鳥を観察しよう～色とりどりな冬の鳥たち～」	琵琶湖博物館
23	12月9日	日本動物園水族館教育研究会「プランクトンの模型をつくろう」	琵琶湖博物館
24	12月23日	イベント名「青写真をとろう」	ウォーターステーション琵琶
25	1月12日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「水族展示室でスゴロクをしよう」	琵琶湖博物館
26	1月26日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「水族展示室でスゴロクをしよう」	琵琶湖博物館
27	2月9日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「昔のくらしを体験しよう」	琵琶湖博物館
28	2月23日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「昔のくらしを体験しよう」	琵琶湖博物館
29	2月24日	アートはみんなのもの「縄文コースター」	米原文化産業会館
29	3月8日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「葉っぱの化石を観察してみよう」	琵琶湖博物館
30	3月13日	第2回協働推進セミナー	滋賀県厚生会館
31	3月22日	琵琶湖博物館わくわく探検隊「葉っぱの化石を観察してみよう」	琵琶湖博物館

#### ○展示交流倶楽部

担当者：布谷知夫 会員数：3名(会員以外の参加者3名)

[設立の趣旨] 2000年ころに、博物館が要求している展示室での交流とは、どのような事を指しているのか、琵琶湖博物館独特のスタイルである展示交流の姿を明らかにして、展示交流員自身の手で展示交流学を作り上げよう、という趣旨で有志の間で議論をし、「展示交流員って知ってる？」をいう小冊子を編集・発行した。その後、その続編を作成する事を計画していたが、いろいろな事情から、実行できなかった。

2007年度に、その当時の数人で自分たちがやってきた展示交流をきちんと記録しておきたい、という意見があり、展示室での交流の姿とそのコミュニケーションの中での展示交流員の役割を再確認しておきたい、という希望から、グループでの活動を始めた。

[活動の概要] 何度も集まって議論をする事ができないために、まとめの内容についての目次を作り、大きな分担を決めて、それぞれが相談をしながら、文書を書き、相互に意見を聞きながら、まとめを進めていく事している。

「展示交流倶楽部」のおもな活動

2007 年度の中ごろから始まった活動であり、上記の「活動の概要」のように原稿を書きながら、意見の交流を行っている。

○水はしかけ

担当者：里口保文、芳賀裕樹 会員数：12 名

〔設立の趣旨〕琵琶湖淀川水系の、特に水質について、実際に自分たちで採取をしたりすることで、どういう事がおきているのかを調査してみる事。

〔活動の概要〕当面 3 年間は、大阪市立自然史博物館が開催しているプロジェクト Y・淀川水系調査グループの水質班と合流して、琵琶湖～淀川水系の調査を行う。各メンバーが分担した場所で、調査、採水を行い、水系全体の事を考える。

「水はしかけ」の主な活動

2008 年 2 月に発足したばかり。発足メンバーで会議をして、今後の活動について話し合ったほか、3 月には各メンバーが分担した場所での調査・採水を行った。

地域交流活動への支援事業

(1) 地域活動の支援（博物館内）

月	日	団体名	参加者	タイトル・内容	担当
4	3	多賀町立文化財センター	40	文化財講座	秋山
6	2	立命館守山高等学校	19	琵琶湖学習	亀田
6	6	大垣商工会議所	48	琵琶湖の生き立ちと水生生物の変化と現状	前畑
6	12	大垣市生活学校	40	暮らしの現場から水について考える	芳賀
6	20	栗原老人クラブ共白髪会	32	琵琶湖と環境	布谷
6	23	立命館大学付属守山中学校	186	水田の生き物の暮らしと調査方法 -魚類を中心に-	前畑
6	24	東京都荒川治水資料館	3	博物館紹介	前畑
6	30	立命館守山高等学校	38	人々の暮らしと水	牧野
6	30	立命館大学	200	琵琶湖の環境を魚から考える	前畑
7	3	堺市上下水道局	90	水にかかわって	芳賀
7	7	第 21 回全国スポーツ・レクリエーション祭滋賀県実行委員会	250	琵琶湖の魚とナマズの話	前畑
7	18	シニア自然大学	63	シニア自然大学夏期合宿	秋山・布谷・中島
7	19	近畿指導農業土地域研究会	40	琵琶湖と農業のかかわり	小川
7	23	石部高等学校	7	琵琶湖探究	布谷・里口・牧野
7	24	石部高等学校	7	琵琶湖探究	芳賀・大塚
7	25	石部高等学校	7	琵琶湖探究	秋山・孝橋・秋山・中野・中村
7	26	石部高等学校	7	琵琶湖探究	秋山・芳賀・里口
7	26	神戸シルバーカレッジ	40	生活環境コース授業	前畑
7	27	淡海生涯カレッジ	25	琵琶湖の水質環境	芳賀
7	31	広島大学総合科学研究科	8	琵琶湖の環境と住民の関わり	布谷

月	日	団体名	参加者	タイトル・内容	担当
8	2	神戸シルバーカレッジ	44	生活環境コース授業	前畑
8	3	明日香村社会福祉協議会老人会クラブ	25	琵琶湖の環境	布谷
8	5	文学歴史ウォーク	90	琵琶湖博物館の概要	布谷
8	22	滋賀県教育委員会学校教育課	18	琵琶湖の環境と魚	前畑
8	25	日本自動車連盟滋賀支部	31	化石のレプリカづくり	木戸
8	25	日本自動車連盟滋賀支部	36	プランクトン観察	木戸
8	25	日本自動車連盟滋賀支部	53	びわこの環境のなりたちについて	里口
9	19	関西大学博物館	100	博物館のなりたちやコンセプト	布谷
9	26	京都大学国際交流センター	120	琵琶湖の環境と魚ー魚から環境を考える	前畑
9	29	日本科学技術ジャーナリスト会議	13	博物館の活動	牧野
9	30	My ライフ My くさつ講座	20	博物館の使い方・楽しみ方	牧野
10	7	ボーイスカウト大津 21 団ビーバー隊	20	琵琶湖のサカナ・外来種に与える影響	中島
10	10	国際文化会館	14	琵琶湖における環境と開発	牧野
10	11	秋田県立大学地域共同研究センター	6	琵琶湖再生の取り組み	牧野
10	13	聖泉大学	18	滋賀の環境教育	布谷
10	27	立命館守山中学校	185	プランクトン・付着藻類について	大塚
10	27	立命館守山中学校	185	琵琶湖と人々の暮らしについて	牧野
10	30	北九州市環境局	3	環境保全における日本の地域社会文化の影響とその実践	牧野
11	3	大阪府教職員互助会	41	琵琶湖の魚と環境	前畑
11	15	兵庫県トラック協会	42	琵琶湖の環境について	秋山
11	17	自然と緑	50	自然大学琵琶湖実習	大塚・山川
11	22	滋賀県退職教職員互助会	23	博物館概要	布谷
11	29	日光川西悪水土地改良区	26	滋賀県の土地改良事業	小川
12	2	滋賀県県民文化生活部	50	環境・ほっと・カフェ今地域のために何ができるか？	牧野
12	4	滋賀県理容生活衛生同業組合	50	琵琶湖環境と環境保全として理容店ができること	牧野
12	15	立命館大学経済学部	200	博物館のなりたち	布谷
12	15	立命館守山中学校	200	滋賀県の昆虫	八尋
12	15	立命館守山高等学校	23	琵琶湖学習	亀田
1	26	大津市立真野北公民館	45	博物館の舞台裏を探検しよう	榎永・八尋
2	2	立命館守山中学校	168	琵琶湖学習	亀田
2	5	中井タクシー	18	博物館概要	布谷
2	16	立命館守山中学校	168	琵琶湖学習	亀田
3	9	滋賀県レクリエーション協会	25	外来魚の調理	秋山
3	9	滋賀県レクリエーション協会	36	プランクトン観察	秋山・中村
3	22	東大阪市社会福祉協議会	40	琵琶湖について	布谷



## (2) 地域活動の支援（博物館外対応）

月	日	団体名	参加者	タイトル・内容	場所	担当
4	20	セタシジミ祭実行委員会	175	セタシジミ祭船上講演会	リオグランデ号船上	松田
5	27	五条ふるさと環境を守会	15	観察学習会	五条ふれあい会館	小川
5	31	大津市立平野小学校	130	琵琶湖のおいたちについて	大津市立平野小学校	松田
6	3	お魚ネットワークおおつ	30	観察会 田んぼの中をのぼいてみよう！	天神川	秋山
6	9	大津市立真野北公民館	30	まのきたっ子ワクワク広場ホタルの観察	伊香立融神社	八尋
6	16	長沢環境保全の会	30	魚類観察会	米原市長沢八反田町・長沢町排水路	小川
7	30	シニア自然大学	55	淡水魚講座	大阪市 NPO プラザ	前畑
7	31	シニア自然大学	60	淡水魚講座	大阪市 NPO プラザ	前畑
8	1	シニア自然大学	62	淡水魚講座	大阪市 NPO プラザ	前畑
8	6	シニア自然大学	57	大戸川淡水魚採取と同定	大津市大戸川	前畑
8	7	シニア自然大学	61	大戸川淡水魚採取と同定	大津市大戸川	前畑
8	9	シニア自然大学	58	大戸川淡水魚採取と同定	大津市大戸川	前畑
8	19	ぼてじゃこトラスト	33	雑魚捕り	愛知川上流	秋山
9	1	大津環境学習活動実行委員会	100	自然に学び自然を楽しむ「びわ湖“漁”」の日	北小松水泳場地先	松田
9	1	京都造形芸術大学通信教育部	40	ランドスケープデザインコーススクーリング	京都造形芸術大学	亀田・前畑
9	13	滋賀大学教育学部附属幼稚園	34	秋の草や虫にふれて遊ぼう	滋賀大学教育学部附属幼稚園	西村
9	15	ぼてじゃこトラスト	30	大人の川遊びトレーニング・タナゴ増殖実験	ウォーターステーション琵琶	秋山
9	15	六荘まちづくり推進委員会	69	自然観察会	六荘公民館	前畑
9	24	ホタルの学校	16	千丈川にすむ魚の生態について	千丈川上流・公民館	秋山
10	16	大津市立平野幼稚園	82	園外保育	大津市茶臼山公園	西村
10	22	大津市立平野幼稚園	50	親子通園事業園外活動「にここ広場」	大津市茶臼山公園	西村
11	2	大津中央ロータリークラブ	90	琵琶湖の魚の現状から環境を考える	大津プリンスホテル	前畑
11	10	草津まちづくり市民会議	50	パワフル交流市民の日	草津市役所会議室	牧野
11	16	滋賀大学教育学部附属幼稚園	80	公開研究会（語る会）～もの・人・自分に向き合いながら、自分と相手との関係性を創り出す子どもをめざして～	滋賀大学教育学部附属幼稚園	西村
11	17	守山野洲市民交流プラザ	65	つがやま市民教養文化講座「琵琶湖の魚と田んぼ」	Riseville 都賀山	前畑
11	18	財団法人青樹会	230	琵琶湖の魚から環境をみる	近江八幡勤労者総合福祉センター	前畑
11	27	大津市立中央小学校	30	琵琶湖の生態系及び生態系を守る諸活動について	大津市立中央小学校	松田
12	8	食とみどり、水を守滋賀県民会議事務局	100	琵琶湖における環境について	草津市立水生植物公園みずの森ホール	前畑
1	26	大津市立仰木公民館	20	エンジョイ・サタデー教室 生物	大津市立仰木公民館	秋山

月	日	団体名	参加者	タイトル・内容	場所	担当
2	2	草津市立笠縫市民センター	30	綿(わた)って知ってる?	草津市立笠縫市民センター	中藤
3	1	湖南地域みずすまし推進協議会	30	生き物観察会	草津市上笠町農業用排水路	小川
3	29	はまなこ環境ネットワーク会議	40	琵琶湖博物館における利用者主体事業紹介	浜松まちづくりセンター研修室	前畑

### (3) 博物館ガイダンス（視察対応を含む）

月	日	団体名	内 容	担当
3	26	碧南青少年海の科学館	琵琶湖など湖沼環境について	芳賀
4	13	滋賀県教育委員会生涯学習課長	博学連携事業について	中村・中野
4	26	守山市中野自治会サロン「コスモス」	概要説明	前畑
5	13	自由民主党中川幹事長	概要説明	布谷
5	13	埼玉県本庄市議会議員団	概要説明	布谷
5	15	日本水フォーラム	概要説明	布谷
5	24	市民ネットワーク千葉	概要説明	布谷
5	27	韓国生命の森国民運動(NPO)	概要説明	布谷
5	30	鳥取県立博物館	概要説明	布谷
5	31	東京都港区資料館	概要説明	布谷
6	2	吹田市公民館館長会議	概要説明	布谷
6	2,3	西海パールシーセンター	資料の収集と管理	桑原
6	3	日本学術会議第5部会	概要説明・館内案内	前畑
6	9	大阪市学校歯科医師会	概要説明	布谷
6	20	栗原敬老会	講演「森と水」	西村
6	20	三重県生活部文化振興局	概要説明	布谷
6	19	日本学術会議第18期会員	水族展示「水辺の生き物」案内	前畑
7	7	経済同友会	展示案内	用田
7	19	近畿ブロック農業土地域研究会	展示案内	小川
7	26	三重県知事	概要説明	布谷
7	28	秋篠宮殿下	広報対応	松田
8	9	奈良県田原町教員研修	昆虫の飼い方	八尋
8	10	京エコロジーセンター	概要説明	布谷
8	11	徳島文理大学	展示案内	用田
8	25	三重県議会	概要説明	布谷
8	22	平成19年度環境教育研究協議会	琵琶湖のまわりの昆虫	八尋
8	29	静岡県教育委員会	博学連携事業について	中村・中野
8	29	名古屋市総務局企画部企画課	概要説明	布谷
9	26	三重県自民党県会議員団	概要説明	布谷
10	3	船の科学館	展示案内	用田
10	11	秋田県立大学谷口研究室	琵琶湖自然再生見学	牧野
10	24	鳥取市歴史博物館	交流事業の概要説明	八尋
10	25	滋賀県立大学環琵琶湖文化論実習生	資料整備事業の紹介	老
10	31	自治体職員協力交流事業(北九州市)	概要説明	牧野
11	7	鹿児島県日置市教育委員会(理数大好き開連)	博学連携事業について	中野
11	10	天皇皇后両陛下	水族展示「水辺の生き物」案内	前畑
11	11	天皇皇后両陛下	来館者誘導	松田・山川
11	11	天皇皇后両陛下	概要説明	布谷

月	日	団体名	内 容	担当
11	14	沖縄県平和祈念資料館	概要説明	布谷
11	15	徳島県市町村文化財審議会委員	概要説明	老
11	20	伊香郡社会教育委員研修	概要説明	布谷
11	25	伊丹市昆虫館友の会研修会	常設展示の解説	前畑
11	29	日光川西悪水土地改良区	展示案内	小川
1		立命館大学地理学教室, 韓国文化財研究所	博物館と研究活動の紹介	宮本
2	7	静岡県自然保護室	交流活動について説明	前畑
2	15	東京ガス(株)環境エネルギー館	概要説明	前畑
2	26	石川県自然史資料館	概要説明	布谷
2	27	(有)香りのデザイン研究所	資料整備事業の紹介	老
3	18	名護市教育委員会・名護博物館	博学連携事業について	中村
3	26	碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館	博学連携事業について	中村・中野

#### (4) 質問コーナー・フロアトーク

##### 質問コーナーにおける質問内容

期間	2007年4月1日～2008年3月31日	
総質問数	899件	
質問形態	来訪による質問	648件
	電話での質問	251件
対応方法	担当学芸職員が対応	704件
	専門学芸職員(または外部)に依頼	165件
	その他	30件

### 情報発信活動

#### (1) 通信網を利用した館外への情報提供

来館者や遠隔地の利用者に対する電子的な情報提供手段については、開館以前から種々実践しながら検討を進めてきたが、2004年度までにwww(いわゆる「ホームページ」)を利用したシステムに一本化された。このシステムでは、インターネットを経由して博物館のページに接続することにより、展示案内・行事案内・交通案内などの情報を利用したり、博物館資料のデータベースや各種の学術情報を検索利用することができる。

実際の運用は、データベースや電子交流システムなど利用者からの反応に応じて異なる情報を提供する「動的サーバ」と、それ以外の一般的な情報を提供する「静的サーバ」の2台で分担しており、アクセス状況に関する統計も独立に計上されている。2007年度における各サーバのアクセス件数は下表のとおりであった。

##### インターネットページ(静的サーバ)へのアクセス件数

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
4月	2,356,510	590,240	65,633	14,169	5,976
5月	2,854,604	714,504	82,774	16,312	8,134
6月	2,893,923	662,681	80,734	14,723	5,734
7月	3,177,467	705,648	77,881	17,431	6,078
8月	3,509,209	721,775	76,055	18,272	6,514
9月	2,415,599	499,185	60,743	14,418	4,922
10月	2,321,766	469,998	61,975	14,058	4,617
11月	2,247,581	456,797	60,872	14,257	7,299

	総ヒット数	ページヒット数	連続アクセス	表紙アクセス	表紙開始アクセス
12月	1,513,741	359,205	38,582	11,595	6,433
1月	1,909,277	416,668	42,910	14,967	9,443
2月	2,160,827	449,822	42,025	16,218	10,816
3月	1,982,150	435,104	43,077	17,203	10,102
合計	29,342,654	6,481,627	733,261	183,623	86,068

総ヒット数：サーバに対する全ての種類のデータ要求の総数（但し、博物館内部からの要求は除外）各ページの定義ファイルはもちろん、ページを構成する画像ファイルの要求も含まれる

ページヒット数：「総ヒット数」のうち、各ページの定義ファイルに対する要求の件数

連続アクセス：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数（博物館内部からのアクセスは除外）

表紙アクセス：「連続アクセス」のうち、ウェルカムページ（表紙ページ）を経由したアクセスの件数（「表紙から入った」ものと「表紙へ戻った」ものとの合計）

表紙開始アクセス：「表紙アクセス」のうち、最初にウェルカムページにアクセスした件数

※「エリアキャッシュ」を利用して利用者側の組織内で情報を再使用している場合は、合わせて1件しか計数されない。

※11月のサーバ更新に際してアクセス記録の記録方式が変更されたため、「連続アクセス」算出の際の「同一利用者」の判定に影響が出ており、11月以降の数値は、この影響を推定して補正したものである。

### インターネットページ（動的サーバ）へのアクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	481	703	531	514	578	448	529	396	411	502	497	417	6,007
絞込検索回数	253	399	475	219	282	390	382	187	462	444	376	211	4,080
データ閲覧件数	5,870	4,223	6,958	5,068	4,941	4,255	4,127	2,963	5,077	3,870	4,689	4,204	56,245

セッション：サーバ側が絞込検索を実現するために認識している「同一ユーザによる連続した」アクセスの集合

※博物館内部からのアクセスは計数していない。

### 《インターネットページの更新》

当館のwwwページは、1996年12月25日に運用開始した後、1998年10月18日に全体を置き換える形の大規模な更新を実施し、さらに2002年5月28日には、コンテンツ（情報提供の目的となる本来の情報）は保持しながらリンク（目的の情報へ行き着くための誘導情報）の構造を大幅に見直す形の更新を行ってきた。また2005年度には「広報媒体」としての機能強化のため、大規模な更新作業を行い、コンテンツの充実を図ってきた。

さらに今年度から情報更新を迅速に行うため、更新業務を保守管理業務内の一部に位置づけ、委託請負業務として実施した。

## (2) 通信網を利用した双方向の情報交換サービス

博物館側からの一方的な情報発信だけでなく、来館者や遠隔地の人からの情報を受ける活動も含めた双方向の情報交換を実現するため、2つのサービスを行ってきたが、そのうちの一つは2007年度で運用をとりやめた。

### 1) 電子メールによる質問などの受付サービス (query@lbn.go.jp)

本館では開館以来、質問、感想、要望などを受け付ける専用の電子メールアドレス (query@lbn.go.jp) を設け、受付担当者が受け付けた電子メールを内容に応じて専門の学芸職員に割り振って回答するサービスを行っている。1997年1月から2007年10月までに受け付けた2103件の質問応答記録は内部職員が検索利用できる形で保管されている。2007年11月からは博物館資料の情報を管理するデータベースの一つとして「質問回答データベース」を運用することとなり、電子メールによる質問だけでなく、質問コーナーや電話などで受け付けた質問回答について一元的に記録・利用することとなった。そこで、今年度の集計は、昨年度までの項目と一新して新しいデータベースの大分類をもとに行った。今後は旧管理のデータを新データベースへ少しずつ移行し、質問対応や利用者への案内業務で活用し、より一層活ユーザー支援に役立てていくことが望まれる。

質問内容 (大分類)	件数	
地 学	6	
生 物	86	植物以外の生物に関すること
植 物	11	
歴 史	3	民俗関連も含む
環 境	8	人と自然の関わりも含む
博物館	25	博物館活動・運営に関すること
その他	38	提供・連絡情報など
合 計	177	

スパムメール、ウィルスメール、一方的な情報提供までは計上していない。  
回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。

## 2) 電子交流ネットワークシステム (愛称：LBMNET＝エルビーエムネット)

各家庭のパソコンを博物館のサーバに接続することにより、身のまわりのできごとに関する報告や質問を書き込んだり、他の参加者の質問などに対応して議論したりすることができるシステムである。これは、一方的な情報提供という性格が強いWebや、基本的に1対1のコミュニケーションで広がり期待できない電子メールとは違う、地域住民の方々が、博物館はもとより他の住民に対しても直接に情報発信を行うことができる媒体として整備したものである。

当初は旧来型のパソコン通信で接続するシステムとして1998年10月に運用開始したものであり、1999年11月にはインターネット経由の接続もできるように改良した。運用開始以来315件のメッセージが書き込まれ、議論の場として活用されてきたが、2003年ごろから利用が減少しはじめ、2006年9月を最後に全く利用されなくなった。この理由は、いろいろ考えられるが、一つにはLBMNETがインターネット上の一般のメッセージ交換システムと比べて中途半端な存在になってしまったこともあると考えられる。即ち、一般のシステムは完全なオープンシステム（利用者認証の無い掲示板など）と完全なクローズシステム（SNS、mixiなど）との両極端に分化してきており、LBMNETのような「発信対象は不特定多数だが、メッセージの書き込みには利用資格を要する」というシステムは一般的では無くなってきているようである。

以上の状況に基づき、LBMNETは2007年7月に一般公開を停止した。なお、LBMNETのシステムは、館内の関係者のみが閲覧できる、会議メモ等の文書情報を蓄積する媒体としても運用してきており、一般公開停止後は、専らこの内部利用のためのシステムとして運用を続けている。

## (3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
資料目録 17 号	A4	297	800
資料目録 18 号	A4	226	800
年報 11 号	A4	142	800
総合案内	B5	111	2,000
うみんど 43 号	A4	8	25,000
うみんど 44 号	A4	8	20,000
うみんど 45 号	A4	8	20,000
うみんど 46 号	A4	8	20,000
うみっこ 22 号	A4	4	45,000
うみっこ 23 号	A4	4	45,000
もよおしもの案内 (2007 年度 秋冬編)	A4		47,000
もよおしもの暦 (2007 年度 秋冬編)	A2		1,500
企画展示「琵琶湖のコイ、フナのお話」展示解説書	A4	67	2,200
企画展示「琵琶湖のコイ、フナのお話」ポスター	A2		1,450
企画展示「琵琶湖のコイ、フナのお話」チラシ	A4		24,000
企画展示「琵琶湖のコイ、フナのお話」JR 駅用チラシ	A4		13,000
企画展示関連シンポジウムチラシ	A4		10,000
企画展示関連シンポジウム要旨集	A4	15	400
水族企画展示「東アジアのタナゴたち」ポスター	A2		1,400
水族企画展示「東アジアのタナゴたち」リーフレット	A4		15,000
企画展示「フェアブルにまなぶ」展示解説書	A4	152	2,000
企画展示「フェアブルにまなぶ」プチガイド	A5	18	1,000
企画展示「フェアブルにまなぶ」ポスター	A2		2,000
企画展示「フェアブルにまなぶ」チラシ	A4		40,000
ギャラリー展示「注文の多い湖魚の料理店」チラシ	A4		6,500
ギャラリー展示「注文の多い湖魚の料理店」JR 駅用チラシ	A4		13,000
「琵琶湖博物館夏休みイベント」チラシ	A4		154,000
体験学習ポスター	A4		1,900
体験学習のご案内チラシ	A4		3,000
夏休み「自由研究講座」チラシ	A4		6,500
サポートシート	A4		49,000
広報用「琵琶湖&川の魚」カレンダーポスター	A1		4,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ	A4		150,000
広報用「近江のトンボ」チラシ	A4		30,000
広報用「カード型リーフレット」			100,000

## Ⅱ 環境の整備

### 1 拠点としての施設整備

#### (1) 利用者用施設の整備

来館者の駐車場への入口がわかりにくいとの苦情に対応し、効果的な入口サインについて滋賀県立大学で行った検討結果を基に、新しく案内看板を設置するとともに、バス駐車場のラインの損傷が激しかったことから修繕を行った。また、昨年度、関係者駐車場の一部で障害者用駐車場を整備しなおしたことに伴い、市道部からの誘導看板を新たに設置した。

#### (2) 情報システムの整備

2007年度は以下のような更新、追加整備等を行った。

##### 1) 機器の更新

《中枢機器の全面更新》

5年前に更新した中枢機器群（サーバ等）の全面更新をリースによって行った。主な変更点は、①ファイルサーバを簡易型システムに変更し、②スパム対策サーバを構築したことである。

《ネットワーク接続端末機器の更新》

開館後10年以上を経過し、損傷するなど老朽化が進行している機器を主にリースによって更新した。

今年度新規導入した主な機器は、以下のとおりである。また、リースを終了した機器については適正に廃棄した。

ノート型パソコン（Windows）16台

デスクトップ型パソコン（Macintosh）1台

デスクトップ型パソコン（Windows）1台

カラーレーザープリンター 1台

##### 2) ソフトウェアの追加開発

琵琶湖博物館の収蔵品データベースは、主に博物館が収蔵する資料の管理を目的として構築運用され、現在までに約40万件以上のデータが入力され、そのうち、約30万件以上が公開されている。1999年度以降、このデータベースに蓄積された資料情報を一般利用者にも公開して活用してもらうため、準備が完了した分野から順次公開に向けたシステム改良を進めている。本年度は、開館後蓄積してきた質問・回答データを有効利用するため、「質問・回答」データベースの公開を行った。

##### 3) セキュリティ強化のための措置

情報システムのセキュリティを確保するため、中枢機器の全面更新時などにセキュリティ対策をメーカーとの契約に基づいて提供される改良版ソフトウェアを順次導入し、最新の情勢に応じたバージョンアップを継続的に行った。

#### (3) 来館者アンケート調査結果

##### 1) 目的

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の博物館運営や展示の企画、広報活動のあり方などを考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、来館者アンケートを年3～4回実施している。

## 2) 実施時期と方法

アンケートを実施する日程は原則として平日と休日を含んで連続する3日間とし、アンケート用紙は来館者への券売時に毎日1,000枚を限度として手渡しで配布し、アンケート協力をお願いをしている。アンケート記入台はアトリウムに2箇所、玄関横に1箇所、計3箇所設置し、券売時に配布したものは別にアンケート用紙を置いている。2006年度から出口付近にアンケート調査ご協力の案内看板を設置することで回収率をあげている。また、第2回調査の2日間は、アンケート内容の詳細を調査するために、直接聞き取り調査もあわせて行った。

2007年度の実施内容は以下のとおりである。

第1回	2007年8月24日(金)～26日(日)	回答者数	327名
第2回	2007年12月14日(金)～16日(日)	回答者数	349名
第3回	2008年3月21日(金)～23日(日)	回答者数	231名

## 3) 調査内容

来館回数、博物館来館のきっかけ、滞在時間、満足度、および記入者自身のおよその年齢、性別、住居地域は、毎回共通の調査項目となっている。2006年第3回以降は来館目的を調査。2007年度第2回には選択項目の追加を行った。加えて、不満に思うことを選択回答から自由回答方式へ変更した。さらに第3回には来館回数と合わせて来館頻度も追加して調査した。

## 4) 傾向

例年、第2回調査を11月の企画展示終了期に行っているが、2007年度はギャラリー展示開催中の12月に行ったことで、調査結果に繁忙期と閑散期の違いがはっきりと現れることとなった。

### ①リピーター

第1回、第3回の繁忙期の結果を見ると、例年に比べ「初めての来館」は52%前後とやや増加し、4回以上のリピーターは約23%と減っている傾向が見られた。これは広報が効を奏し新規来館者の獲得に成功していると評価できる。一方、第2回の閑散期の4回以上のリピーター率は45%と高い。中でも県内の家族が無料で観覧できる家族ふれあいサンデー(毎月第3日曜日)のリピーター率は52%と特に高く、「第3日曜日によく親子で来館している」というご意見も多数寄せられた。

### ②口コミ

来館のきっかけとなった情報源は、友人・知人、家族・親戚による口コミが依然として多い。インターネットの情報は変わらず数%である。第2回の情報源の市町村広報誌が約20%と非常に高くなっているのは、家族ふれあいサンデーの日を含んでいるためである。

### ③満足度

「琵琶湖博物館中長期基本計画」第二段階の数値目標として、来館者アンケートの満足度調査(博物館を訪ねて「非常に満足した」と「満足した」をあわせた満足度)で「年3回平均目標値80%」達成することがあげられている。2007年度の満足度の平均は80.4%でこの数値を達成した。内訳を見ると、第2回の閑散期(家族ふれあいサンデーを含む)の満足度が86.2%と特に高い。また「やや不満である」「不満である」はほとんど1%未満(0のときもある)であることは高く評価できよう。

### ④ニーズ

博物館運営を改善するためには来館者のニーズ調査は重要である。来館目的(複数回答あり)では「常設展示の観覧」「家族や友人との団らん」が30%程度で各回共通して高く、「学習・教養を深めるため」「以前に来館してよかったから」「近隣の観光のため」が20%程度となっている。第2回から追加した「子どもを遊ばせるため」も20%前後と高い。注目したいのは、団らんや子守りといったくつろぎの場を求めるニーズが高いことと、「期間限定の展示観覧」「館内イベント参加」が3%前後ときわめて低いことである。また、聞き取り調査ではショップ商品購入のためだけの来館も数例見られた。



実際に観覧・利用した展示・施設をみると、「期間限定の展示」の観覧率は23～55%、ショップ、レストランの利用率は20%前後と比較的高い。

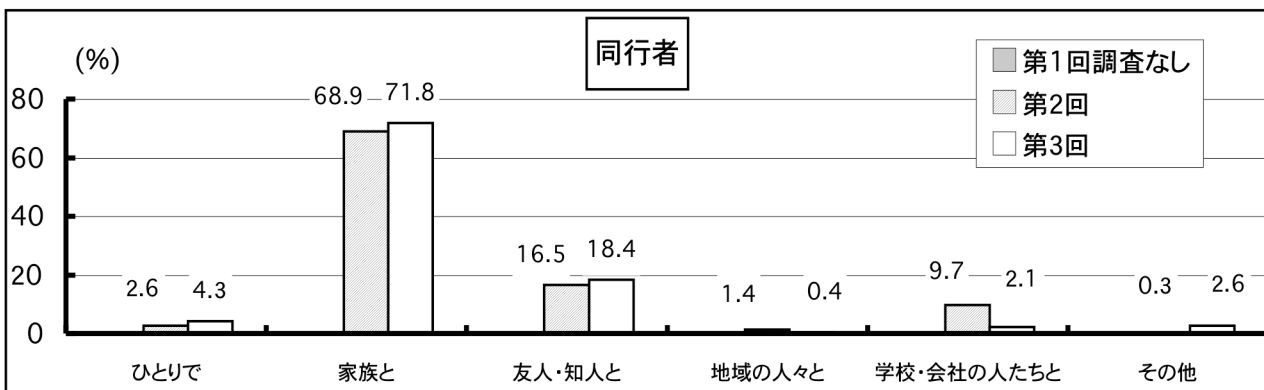
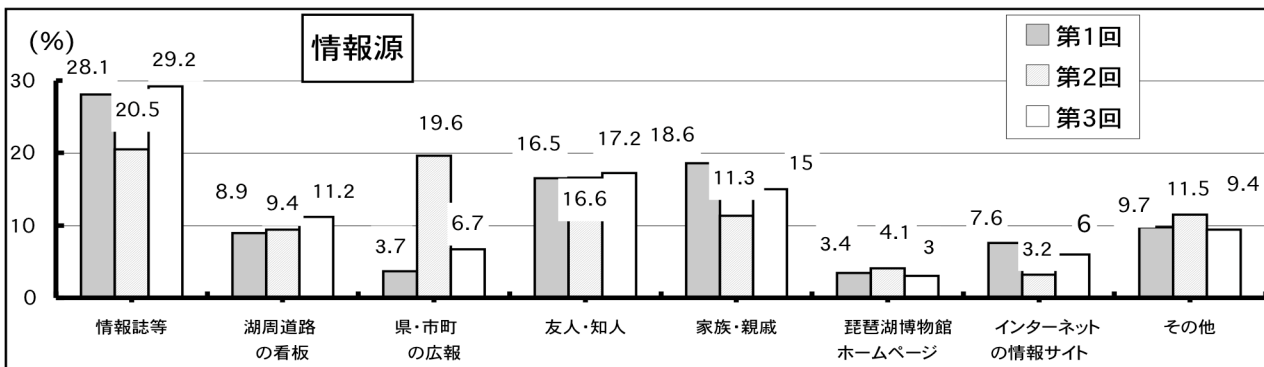
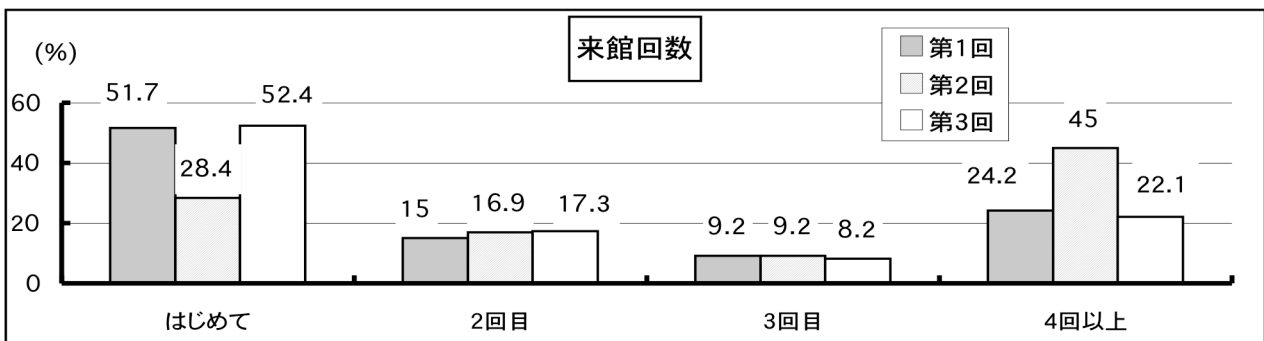
自由回答欄には、展示内容だけでなく展示室での展示交流員、水族飼育員など職員の対応が良かった、水族のえさやりなどのイベントが良かったというご意見が多数寄せられている。不満としてあげられているのは交通の便、駐車場、昼食場所、展示室の案内など設備的なことが多く、今までに繰り返し出されているものである。人力的にも予算的にも逼迫する状況の中で、利用者の方々にご理解をいただきながら、優先順位をつけて、ニーズにあわせた改善を行っていくことが求められる。

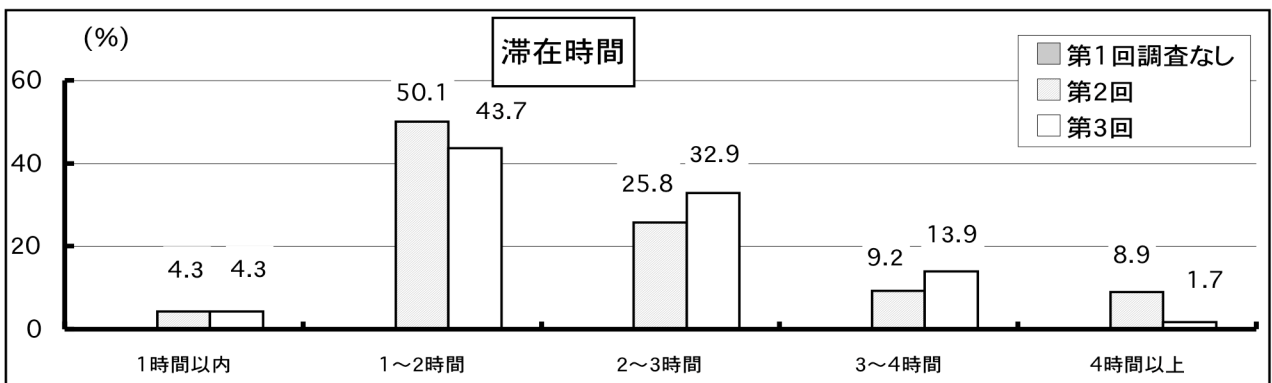
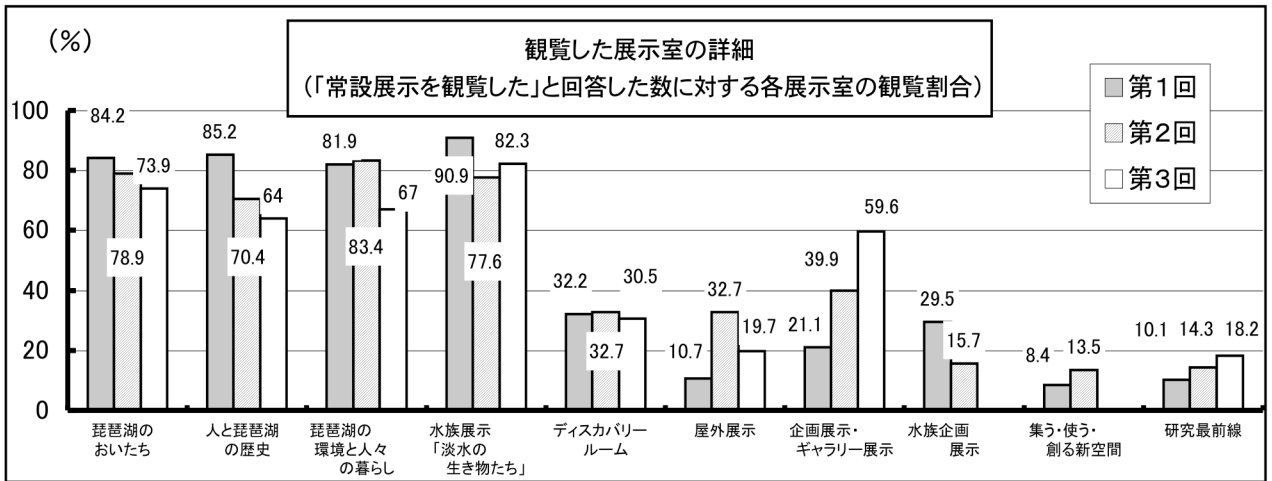
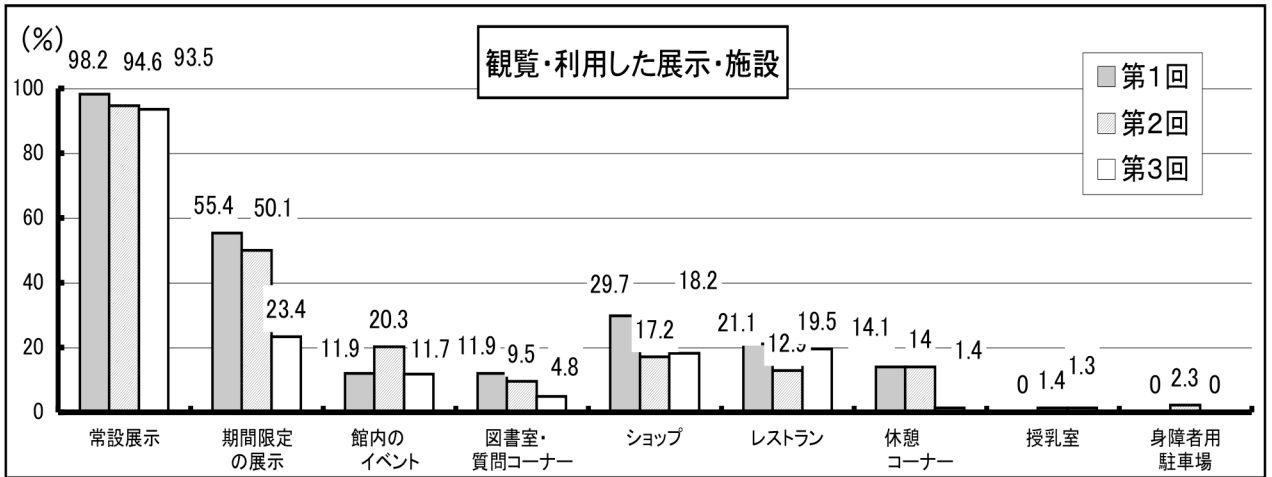
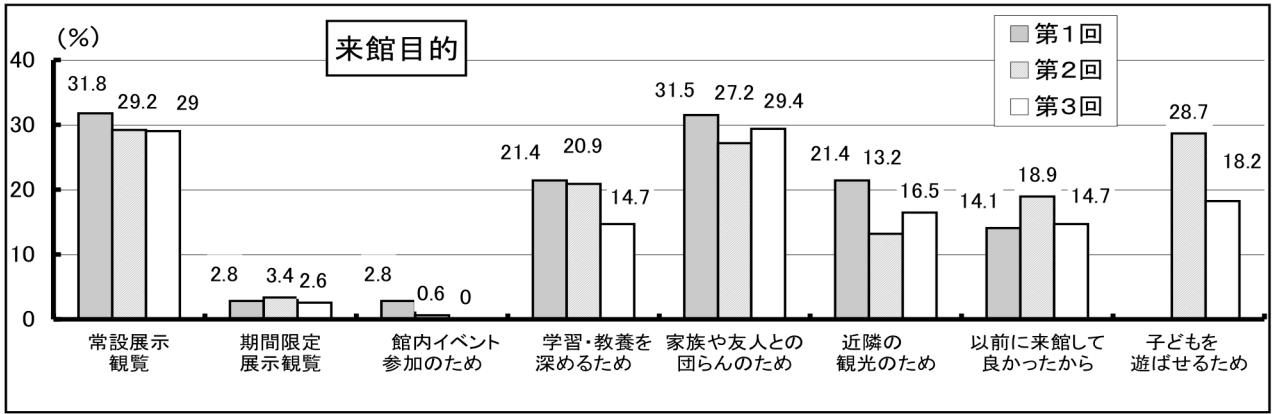
### ⑤来館者

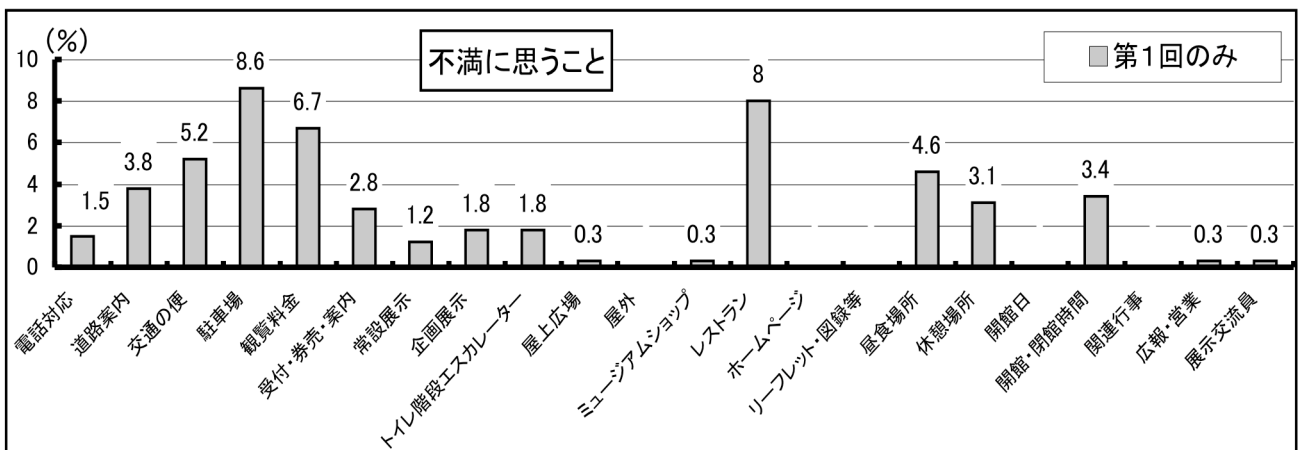
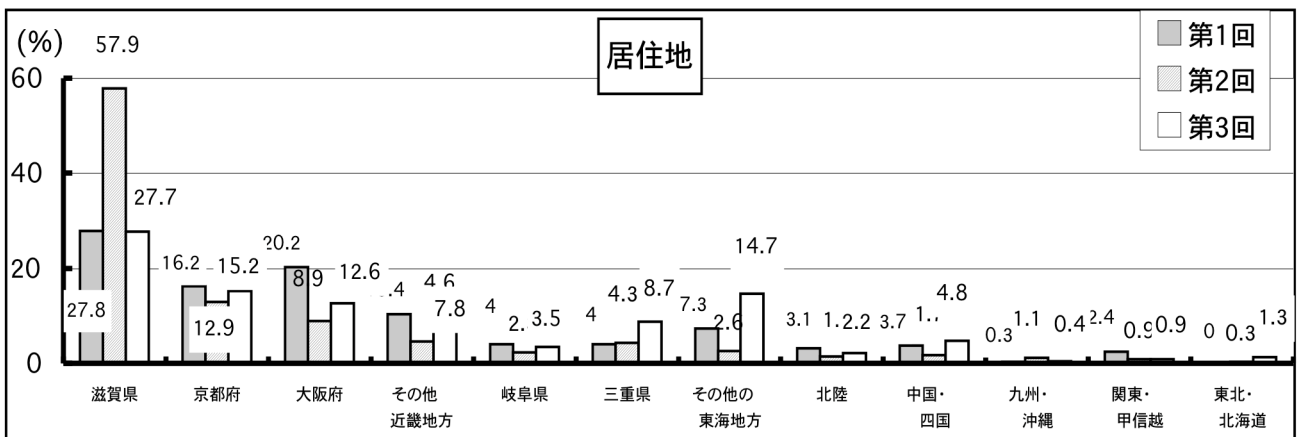
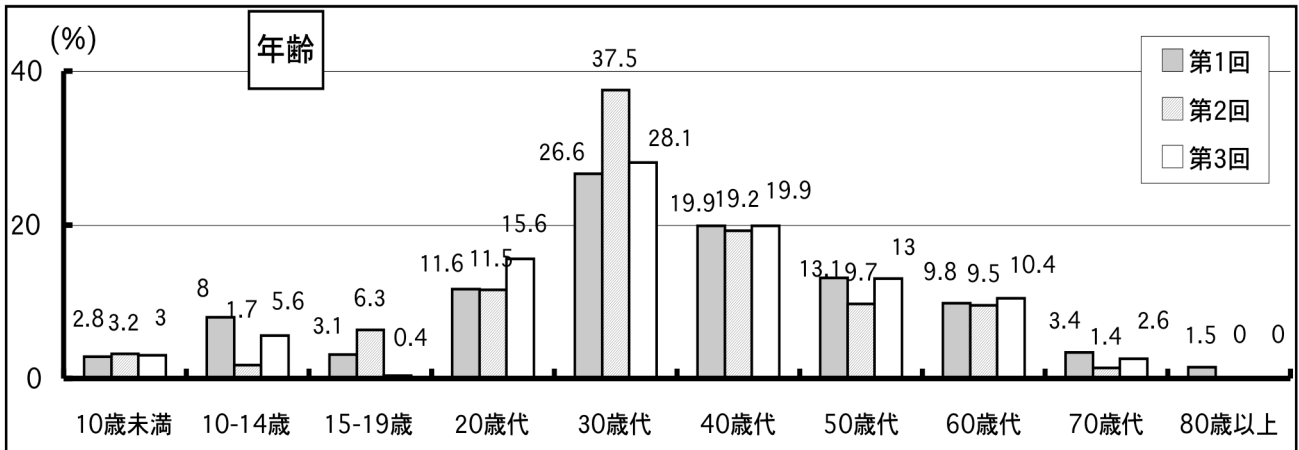
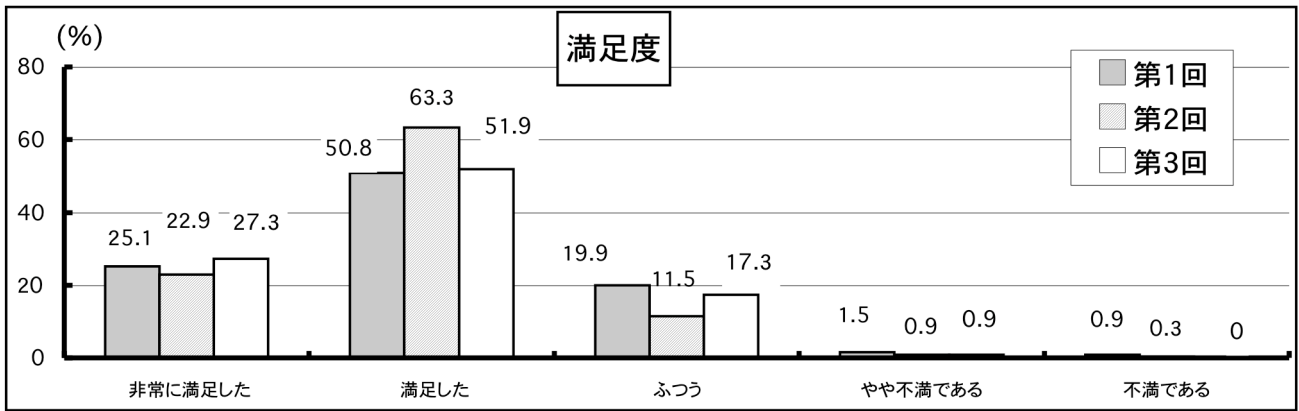
年齢別では、これまでと同様、30～40歳代が来館者の中心となっている。特に、閑散期（家族ふれあいサンデーを含む）の第2回調査では30歳代が37.5%とかなり高い。同行者も70%前後が家族となっており、家族・親子の団らんのための来館者が多いことが伺われる。

来館者の居住地をみると、繁忙期では県内率が27%程度と近年の減少傾向に拍車がかかっている（閑散期（家族ふれあいサンデーを含む）の第2回調査では県内率は57.9%とかなり高くなっている。）。第3回で東海地方の来館が増加しているのは2月に新名神高速道路が開通しアクセスがよくなったためと思われる。

（数値は特に断りのない限り、アンケート回答総数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの）

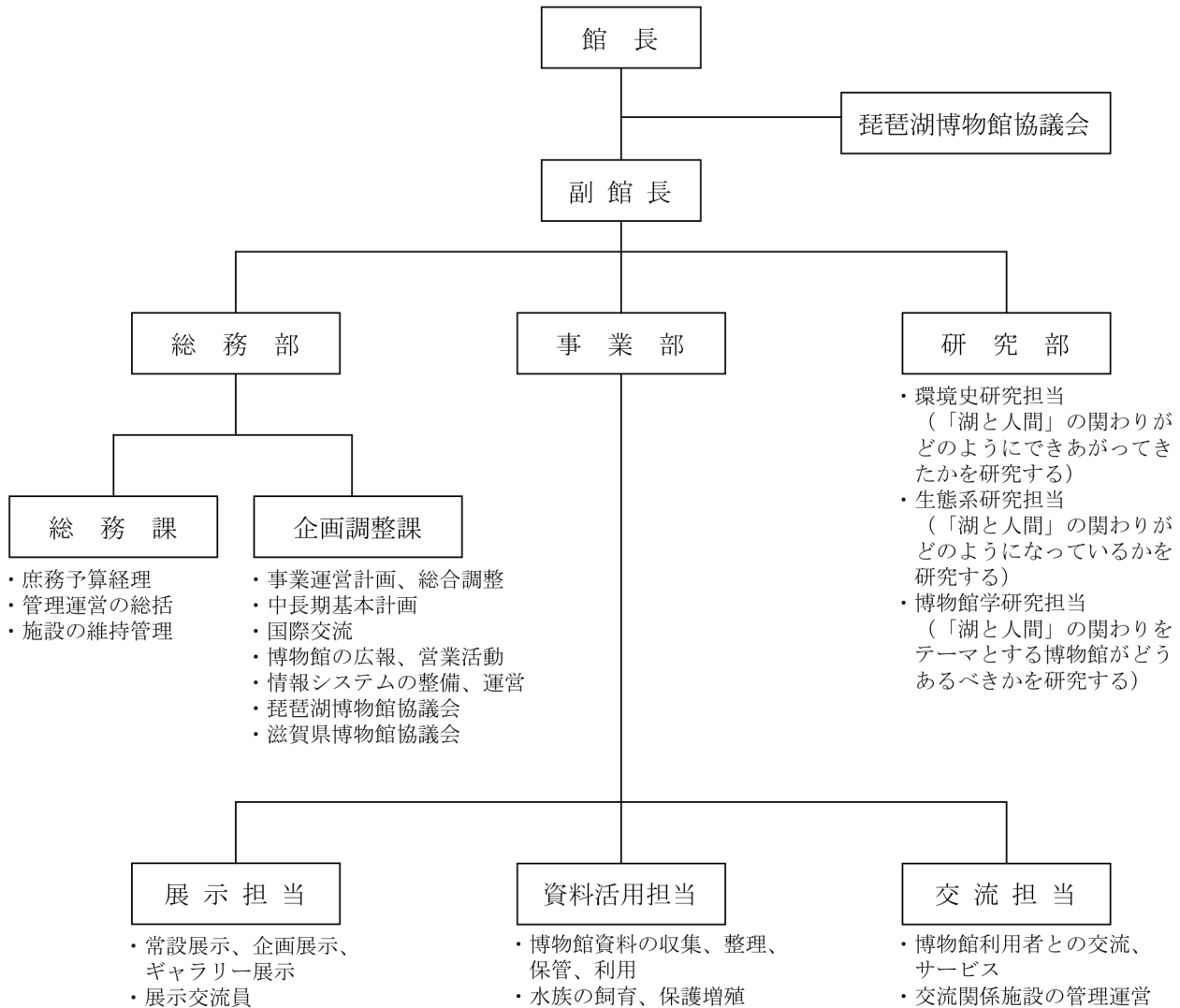






## 2 柔軟な運営組織

### (1) 組織



職員構成 (2007年4月1日現在)

区分	館長(非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	12	26	2	41	14	55

(2) 職員

(2007年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 寺田 治雄
- 上席総括学芸員 布谷 知夫
- 上席総括学芸員 中島 経夫
- 上席総括学芸員 前畑 政善

総務部

- 部長 寺田 治雄
- ◇ 総務課
- 課長 竹内 恵子
- 主幹 南堀 貞雄
- 副主幹 中島 知子
- 同 井上 雅勝
- 主任主事 細矢 智美
- 同 西田千恵子

- ◇ 企画調整課
- 課長(兼) 松田 征也
- 課長補佐 杉野 和彦
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 里口 保文
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス

事業部

- 部長(兼) 用田 政晴
- ◇ 展示担当
- G.L. (兼) 桑原 雅之
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 臼井 学
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 橋本 道範

- ◇ 交流担当
- G.L. (兼) 八尋 克郎
- 主査(併任) 中村 公一
- 主査(併任) 中野 正俊
- (兼) 小川 雅広
- (兼) 西村 知記
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 牧野 厚史

- ◇ 資料活用担当
- G.L. (兼) 亀田佳代子
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 孝橋 賢一
- (兼) 山川千代美
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) 榎永 一宏

研究部

- 部長(兼) 高橋 啓一
- ◇ 環境史研究担当
- G.L. 総括学芸員 高橋 啓一
- S.G.L. 主任学芸員 里口 保文
- 同 山川千代美
- 同 橋本 道範
- 同 宮本 真二
- 同 榎永 一宏

- ◇ 博物館学研究担当
- G.L. 総括学芸員 用田 政晴
- S.G.L. 主任学芸員 戸田 孝
- 専門学芸員 秋山 廣光
- 同 松田 征也
- 同 八尋 克郎
- 主任学芸員 芦谷美奈子
- 同 中藤 容子
- (兼) 中村 公一
- (兼) 中野 正俊

- ◇ 生態系研究担当
- G.L. 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- S.G.L. 主任学芸員 牧野 厚史
- 専門員(兼) 小川 雅広
- 専門学芸員 桑原 雅之
- 同 亀田佳代子
- 主査 孝橋 賢一
- 主査(兼) 臼井 学
- 主査(兼) 西村 知記
- 主任学芸員 草加 伸吾
- 同 楠岡 泰
- 同 中井 克樹
- 同 芳賀 裕樹
- 同 大塚 泰介
- 同 ロビン・ジェームス・スミス

注) G.L. はグループリーダー、S.G.L. はサブグループリーダーを示す。

嘱託員・臨時的任用職員

小菅由有子	館長秘書	高橋 和征	昆虫資料標本整理
樋口 文子	同	太田 佳恵	歴史民俗資料整理
荒井 文子	ディスカバリールーム運営 (～H19.6)	辻川 智代	同
堀田 桃子	同 (～H19.11)	上田 康之	実習補助・団体利用受付
山田 陽子	同 (H19.7～)	野間 孝男	屋外展示運営
角野 真梨	同 (H19.12～)	木戸 美知留	交流事業 (～H19.11)
寺本 了恵	広報・集客	河端 直美	同 (H19.12～)
木田 幹夫	展示物の製作・維持補修	藤森 麻子	図書資料整理
中園 健治	微小生物標本整理	田中 亜季	事務補助 (H19.5～H19.10)

県職員以外の職員等およびフィールドレポーター・はしかけ登録者

◇特別研究員

青木伸子、上中央子、北村美香、黒岩啓子、中井大介、中尾博行、野嶋宏二、水野敏明

◇総務事務補助

菊地さとみ、下村美香子

◇研究補助

打越崇子、大橋正敏、大島輝美、奥田学実、國分政子、白井幸子、鈴木規慈、瀬川也寸子、田尾稲子、高田千都子、武富鷹矢、田中亜季、谷川真紀、辻美穂、出口武洋、中西美智子、中村優介、中山法子、肥山陽子、平野文子、細川真理子、宮川よし子、八尋由佳、山中裕子、山本亜紀、山本真彩子

◇図書資料整理・図書情報利用室運営

奥田学美、中西美智子、野口比佐江、

◇情報システム管理

天野好美、佐本 泉、津田厚弘、

◇資料整理保存維持管理業務員

石田未基、上中央子、上原千春、太田 学、木下建吾、佐々木 剛、團野裕和、出口武洋、西川佳子、町田英則、山本真彩子

◇水族飼育員

池田康英、右川洋一、大西 拓、岡田 隆、岡田勇馬、岡本博仁、尾崎侑子、佐藤智之、柴山弘史、武富鷹矢、西村博之、布施幸江、藤井泰正、御薬袋 聡、山畑春菜、吉川真一郎、吉田史子

◇展示交流員

三宅磯司、谷 貴美代、愛須美由起、芦田弘美、池畑慎吾、井出範子、犬塚きく美、今泉美保、岩見 勉、奥村恵子、折中康子、北田昌子、木下睦司、近藤摩子、齊藤滋子、斉藤文子、杉本和子、田中 綾、千葉いづみ、中江美知子、中村とく子、西山順子、橋本富栄、初田幸穂、林 克子、本田幸子、前川桂子、村田洋子、森 智美、矢野典子、弓削宣子、吉岡 令、

横田彰子、荒井紀子、石川寛子、大林博子、北川喜美榮、北村美香、木村 永、木村美枝、坂井純子、土井博子、西尾文里、庭野邦子、林 友代、福井明美、柳原徳子、山田淳子、吉田治美、若林方子、渡辺 修

◇常設展示補修

緒方久美、松浦一広

◇企画展示・ギャラリー展示運営

足立まさ子、石井千津、井上好美、大島輝美、貝増千賀子、木寺早苗、白井弘子、西前広美

◇警備員、駐車場

近藤功一、高橋喜久男、永田哲彦、吹上益造、山本 勝、近藤義博、渋谷弘次、稲村優子、栗原紘八郎、田川泰之、田中 晃、中尾博光、中山邑士、山宮孝二、藤井康博、黒田晃次、園田與一、辻元次雄、土野池周平

◇清掃員

滝 勇男、北川智子、藤本房子、中尾喜代子、堀井加代

◇設備管理員

甲斐幸夫、北川 宏、北村康彦、黒川 勲、近藤武夫、小崎孝文、酒井芳樹、瀬川 満、竹内和雄、土居都義、廣瀬正尚、伏見庄司、松原 茂、吉井利典、吉浦 修

◇屋外清掃

片山俊夫、片山玉枝、黒川よし江、高田明美

◇ミュージアムレストラン

平井芳章、飯田昌子、入江美雪、岩崎由美子、大槻洋子、奥野礼子、奥村法子、高坂真理子、駒井知代、美濃部寛美、山田美幸、元結マキ

◇ミュージアムショップ

森 薫、宇野 薫、神田輝子

◇フィールドレポーター

村上靖昭、前田雅子、加固啓英、森 擴之、多胡好武、高田正一、山崎千晶、三浦みか、小林隆夫、岡崎直純、雲川弘子、田村健太郎、久保穂子、門脇きみ子、中島いづみ、中西 健、井野勝行、津田正澄、大住光男、井上弘司、北川幸雄、松本 勉、小西昌子、奥村恵津子、矢原 功、井門静夫、京 美季男、泉野央樹、泉野尚子、大橋義孝、江竜 昭、水戸基博、水戸涼介、水戸涼乃、東野重信、有田重彦、西崎嘉代子、北川尚弘、澤島 篤、加藤広康、土田正文、北側忠次、武田 繁、肥土マサ子、津田國史、河原絵里、古谷善彦、阪口 進、安井加奈恵、江尻清子、片岡庄一、塚本絹子、中川徳司、田中明子、田中昭一、奥村恵子、中西吉紀、森永紗江子、小原比良司、小林光子、桑村邦彦、桑村加代子、桑村沙織、桑村大地、桑村大和、山形 忠、青山喜博、西林晴美、笹井まち子、岡田幹夫、角井俊明、遠阪聡子、八尋由佳、白井幸子、平井政一、口分田政博、小倉市子、勝見政之、山中佐紀子、寺田 誠、坪田敏男、杉江ミサ子、森村一貴、杉本昌代、保科秀行、保科雅子、保科政秀、保科明俊、

◇はしかけ

青木伸子、青山喜博、赤堀 肇、秋山茂也、朝隈洋子、穴蔵雅彦、有田重彦、飯田俊宏、池田吉政、石井千津、石井利和、石川雅量、石黒恭子、石塚秀雄、石橋昂大、石橋英洋、石橋要一、板倉孝史、櫛康次郎、一木 彰、稲田希公代、井上好美、今井 洋、今枝直樹、上田恭子、上田修三、上原由喜美、浮田日出男、江頭 崇、江頭知恵、遠藤吉三、大岡紀彦、大崎淳子、大住光男、大谷敏子、大富信一、大野貞雄、大橋 洋、大橋正敏、岡田さゆり、岡田文夫、岡田有矢、沖野博子、奥田文子、奥西幸司、尾崎侑子、小澤郁乃、小澤桂介、小澤菜月、小野悠斗、織戸満紀雄、甲斐朋子、角藤将翔、片岡庄一、片山慈敏、片山好彦、香月利明、桂 雅之、金山雅幸、金山美佐子、椛島昭紘、椛島奈美子、鴨田真依子、川瀬成吾、川南 仁、北川幸一、北側忠次、北村美香、木下多津江、木下裕也、木原靖郎、木村恵子、木村 登、木村美枝、國松浩貴、久保明彦、倉田忠彦、倉田英恵、黒川 薫、桑垣 瑞、國分政子、小坂育子、後藤真吾、後藤真至、小林隆夫、小原寿子、斉藤真琴、斉藤眞由美、笹井まち子、佐瀬章男、佐藤智之、佐藤秀夫、佐藤義信、佐橋保司、澤田知之、柴田利彦、嶋村のぞみ、清水聡子、進 紀年、新玉拓也、菅 邦子、菅原和博、杉本昌隆、鈴木直子、鈴木道弘、鈴木みつ子、角田典久、瀬尾好英、瀬川也寸子、高田正一、高田昌彦、高野裕樹、高山博好、竹内正吾、武田 繁、武田広志、竹谷満弘、多胡好武、田中俊雄、田中治男、田中雅也、田中萌子、田中祐介、田中夕香、田邊 穰、谷口雅之、谷口 実、玉藤典一、田村雅裕、田村隆一、田室圭一、辻 勝彦、辻川智代、津田國史、手良村昭子、手良村知功、手良村知央、所 邦彦、富岡親憲、富田久仁枝、内藤健太、中井大介、中尾博行、中島美智代、中園健治、中田春美、中西逸朗、中西寛子、永野麻也子、長濱 脩、中村聡一、中山法子、南場房枝、西川 周、西川 徹、西川美喜、西崎嘉代子、西林晴美、西村亜都美、西村 紳、西村寿士、西村 悠、西村義隆、西村 峻、沼田 晋、野村昭夫、橋本昭也、畑中清司、服部隆義、日影一正、日田琥珀、日田みか、人見和代、人見幸恵、人見竜樹、肥山陽子、平尾 武、廣瀬範香、廣田昌昭、広谷ちひろ、福田尚人、藤井泰正、藤野あぐり、藤野未音、藤野美由紀、藤原 勇、布施幸江、古谷善彦、別所かおる、別所宏二、星野英史、本田英樹、前川英喜、前田博美、前田雅子、前田雅彦、松田道一、松浦孝訓、松田敏男、松田允利、松原孝治、松原正子、松本 勉、水戸涼乃、水戸基博、水戸涼介、南 和美、南川純一郎、南川翔哉、三村鎮雄、宮本哲覚、宮本直興、村上五十三、村上靖昭、村田博之、室田潔枝、森永紗江子、森村一貴、森村眞由美、森村康彦、安井加奈恵、柳原徳子、矢原 功、山崎千晶、山田徳恵、山中裕子、山本 篤、山本和良、山本恭一、行本宏子、横田彰子、吉井 隆、吉野彰一、吉野千栄子、吉本直之、米田秀之、若狭喜弘、若林裕子、和田至博、渡邊 一郎、渡辺菜美子、渡邊康子



### 3 社会的支援と新しい経営

#### (1) 利用状況 (2007年度入館者数)

##### 1) 総入館者数

期間：2007年4月1日～2008年3月31日  
 合計：443,931人                      開館日数：308日  
 一日平均：1,441人  
 月平均：36,994人

入館者区分別内訳

単位：人

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	57,686	6,052	63,738	14.4
小学生・中学生	38,640	70,744	109,384	24.6
高校生・大学生	6,230	10,540	16,770	3.8
一般	191,699	62,340	254,039	57.2
合計	294,255	149,676	443,931	100.0

年 月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)								総計(人)	1日 当り 平均 (人)
		一般	高大学生	小中学生	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあいサンデー	体験学習	こどもの日	学校行事	その他	無料計		
2007.4	26	17,109	2,206	7,514	26,829	540	709	601	58		681	5,855	8,444	35,273	1,357
5	27	23,154	1,858	16,725	41,737	636	1,062	1,201	34	538	1,687	7,220	12,378	54,115	2,004
6	26	16,490	1,363	8,159	26,012	607	1,212	1,114	109		2,082	5,014	10,138	36,150	1,390
7	28	23,663	897	7,728	32,288	769	1,218	1,275	122		567	8,496	12,447	44,735	1,598
8	30	36,853	2,107	14,156	53,116	1,008	1,464	1,030	78		911	11,698	16,189	69,305	2,310
9	22	20,675	1,214	5,185	27,074	359	1,259	1,584	72		1,093	7,074	11,441	38,515	1,751
10	26	16,350	1,393	14,954	32,697	441	1,591	693	40		6,353	6,298	15,416	48,113	1,851
11	26	14,737	669	6,636	22,042	588	768	814	28		2,678	7,566	12,442	34,484	1,326
12	21	6,054	1,062	1,639	8,755	205	388	431	16		613	2,832	4,485	13,240	630
2008.1	25	9,880	517	2,763	13,160	268	494	821	46		1,223	4,421	7,273	20,433	817
2	25	9,014	335	3,299	12,648	269	468	816	41		1,005	4,421	7,020	19,668	787
3	26	14,689	744	4,063	19,496	489	1,020	881	46		860	7,108	10,404	29,900	1,150
計	308	208,668	14,365	92,821	315,854	6,179	11,653	11,261	690	538	19,753	78,003	128,077	443,931	1,441

## 2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数	学校数	人 数
2007・4	全 体	29	2,661	10	1,339	5	1,210	0	0
	県 内	0	0	2	242	2	275	0	0
5	全 体	99	7,635	50	6,328	8	1,467	4	53
	県 内	22	1,008	0	0	3	481	2	24
6	全 体	42	3,487	30	3,847	10	1,091	5	94
	県 内	15	1,201	6	562	4	301	3	12
7	全 体	21	1,419	14	1,531	10	152	1	12
	県 内	4	32	5	296	9	145	1	12
8	全 体	20	649	7	347	6	224	1	16
	県 内	17	395	3	43	1	14	0	0
9	全 体	24	1,847	6	510	2	70	1	12
	県 内	11	832	4	239	2	70	0	0
10	全 体	226	17,286	12	1,448	9	989	6	59
	県 内	84	5,496	2	216	3	211	3	18
11	全 体	61	4,397	26	2,593	3	384	2	51
	県 内	24	1,732	10	612	1	81	1	28
12	全 体	19	771	6	416	6	301	0	0
	県 内	12	249	5	276	3	79	0	0
2008・1	全 体	22	1,685	2	329	4	181	0	0
	県 内	10	814	2	329	1	46	0	0
2	全 体	23	1,867	6	1,068	1	40	4	58
	県 内	7	479	3	421	1	40	3	19
3	全 体	4	118	3	447	2	280	5	56
	県 内	1	46	3	447	2	280	3	44
合 計	全 体	590	43,822	172	20,203	66	6,389	29	411
	県 内	207	12,284	45	3,683	32	2,023	16	157

## 3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2007. 4	16,248	5,932	13,093	35,273
5	24,621	4,637	24,857	54,115
6	12,331	8,765	15,054	36,150
7	20,384	8,472	15,879	44,735
8	14,393	9,640	45,272	69,305
9	23,601	7,418	7,496	38,515
10	12,782	5,846	29,485	48,113
11	14,072	4,676	15,736	34,484
12	6,916	3,332	2,992	13,240
2008. 1	8,943	4,256	7,234	20,433
2	8,707	3,929	7,032	19,668
3	13,165	6,758	9,977	29,900
計	176,163	73,661	194,107	443,931
構成割合	39.7%	16.6%	43.7%	100.0%

(2) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	1	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩～ホンモロコ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
	3	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<1> 地域に根ざし 目指すは国際的成果 川那部浩哉館長に聞く	毎日新聞
	3	[@みゅーじあむ] ぼてじゃこってどんな魚? 松田征也専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	4	琵琶湖南湖の水草異常繁茂「抑制要因が消えた」 『琵琶湖と滋賀県に関する試験研究機関連絡会議』のワークショップで芳賀裕樹主任学芸員が指摘	毎日新聞
	4	湖国の昆虫 「トビイロシワアリ」 八尋克郎専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	5	琵琶湖博物館催し物の案内	毎日新聞(オー!ミー)
	7	前畑政善上席総括学芸員の琵琶湖のナマズの生態調査がオランダの学術誌に掲載	朝日新聞
	9	環境悪化が浮き彫りに「ホタルダス」実施団体がアンケートを実施 結果を琵琶湖博物館で展示	京都新聞
	10	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<2> これまでの活動と未来像 用田政晴総括学芸員	毎日新聞
	11	湖国の昆虫 「コバネナガカメムシ」 八尋克郎専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	12	開館46年の歴史紹介 琵琶湖文化館の水族館が琵琶湖博物館へ移設	中日新聞
	16	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー①学生時代は生き物よりも演劇 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	17	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<3> 足跡の化石を追って19年琵琶湖博物館でギャラリー展示 岡村喜明(滋賀県足跡化石研究会)	毎日新聞
	17	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー②仕事と趣味の区別つきにくい 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	18	湖国に学ぶ 「カントリーレポート」8ヵ国学芸員 琵琶湖博物館で研修	京都新聞
	18	琵琶湖博物館で「カントリーレポート」 博物館の課題解決を草津で8ヵ国10人が研修	産経新聞
	18	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー③アユなら調査費が出ると 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	18	湖国の昆虫 「クロシジミ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	19	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー④すぐれた仮説にはすぐれた洞察 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	20	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑤共存するための「棲み分け」 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	21	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑥1対1ではなく多対多 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	22	川にすんでいる魚の大図鑑 本文監修: 川那部浩哉館長 前畑政善上席総括学芸員	朝日小学生新聞
	23	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑦説得されて博物館の世界へ 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	24	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑧様変わりした琵琶湖の環境 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
	24	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<4> 博物館を利用する人 布谷知夫上席総括学芸員	毎日新聞
	24	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	25	野洲のシンボル ハマゴウ復活へ 琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
	25	湖国の昆虫 「ジンガサハムシ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	25	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑨アマチュア予備軍を育てる 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)
26	化石や鉱物ずらり 琵琶湖博物館で企画展「続・湖国の大地に夢を掘る」開催中	中日新聞	
26	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑩入り口きっかけに本物に興味を 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)	
27	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑪アマチュアや県民とつくり続ける 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)	
28	[新関西笑談] 和服を着たエコロジー⑫「今ならこうした」はすぐ実行を 川那部浩哉館長	産経新聞(夕刊)	
29	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩～スナヤツメ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞	
5	2	ヤツガシラ in 草津 亀田佳代子専門学芸員のコメント	京都新聞
	2	湖国の昆虫 「アサギマダラ」 八尋克郎専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	3	[琵琶湖いきもの図鑑]「トモエガモ」 亀田佳代子専門学芸員の県レッドデータブックでの記述	毎日新聞
	6	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩～オオクチバス～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
	8	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<5> 世相を映す丸子船 牧野久実専門学芸員	毎日新聞
8	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	9	琵琶湖博物館来館 600 万人超	朝日新聞
	9	来館者 600 万人達成 琵琶湖博物館で記念式	中日新聞
	9	琵琶湖博物館来館 600 万人を達成	京都新聞
	10	来館者 600 万人達成 琵琶湖博物館山田さんに記念品	毎日新聞
	11	琵琶湖博物館愛され 10 年 来館 600 万人突破	産経新聞
	15	[湖と人と] 琵琶湖博物館の 10 年<6> 田んぼと魚 前畑政善 前総括学芸員	毎日新聞
	15	[@みゅーじあむ] 人工河川でもうすぐ乱舞ショー 守山市はたるの森資料館 山口幸江学芸員 (元琵琶湖博物館嘱託職員) / 琵琶湖博物館催し物案内	読売新聞(しが県民情報)
	15	人と自然の共生を目指して 生物多様性の世界 川那部浩哉館長	聖教新聞
	15	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	16	湖国の昆虫 「マダラナニワトンボ」 八尋克郎専門学芸員 / 琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	18	海外の国際的学術誌に論文 ナマズ田植えて産卵誘発 前畑政善 前総括学芸員	中日新聞
	18	琵琶湖博物館でコンニャク 7 株開花	産経新聞
	19	琵琶湖博物館で 絶滅危惧種のタナゴ(スイゲンゼニタナゴの稚魚) 登場 開催中の「弥生時代の村と水環境」展では用田政晴総括学芸員らのグループが研究成果を披露	中日新聞
	19	光が見える ー再生への助走 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	東奥日報
	20	光が見える ー再生への助走 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	山形新聞
	20	観光と娯楽の拠点であった琵琶湖文化館の収蔵品や機能が 後年琵琶湖博物館など県立施設が整えられ移される	京都新聞
	20	弥生時代の村と湖を考える展示「弥生時代の村と水環境」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	21	子どもたちに大人気「スイゲンゼニタナゴの稚魚」が琵琶湖博物館で公開 松田征也専門学芸員のコメント	産経新聞
	21	ハリヨ復活 “三度目の正直” 守山市の里中川で成魚を放流 琵琶湖博物館のコメント 「ハリヨ」写真資料提供	京都新聞
	22	光が見える ー再生への助走 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	岩手日報 (夕刊)
	22	光が見える ー再生への助走 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	信濃毎日新聞 (夕刊)
	22	[湖と人と] 琵琶湖博物館の 10 年<7> 地域の人たちとの調査から企画展示 八尋克郎専門学芸員	毎日新聞
	22	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	23	湖国の昆虫 「ヒメクロオトシブミ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	24	これが絶滅危惧種 琵琶湖博物館で「スイゲンゼニタナゴの稚魚」展示	読売新聞
	24	生産・防衛から水上交通活用へ 琵琶湖博物館で「弥生時代の村と水環境」展開催 用田政晴総括学芸員のコメント	産経新聞
	25	「琵琶湖博物館うおの会」が在来魚の産卵調査	毎日新聞
	27	[私と環境] 地域の生物多様性は「お宝」 中井克樹主任学芸員	朝日新聞
	27	[環境次世代へ] 琵琶湖ー固有の魚 絶滅の危機 水田を在来魚の「ゆりかご」に 「琵琶湖博物館うおの会」が在来魚分布調査 中島経夫 前総括学芸員と水野敏明特別研究員のコメント 「ニゴロブナ」写真資料提供	産経新聞
	27	「小さな大発見」楽しいよ 来館した子どもの目線で見つけた自然の不思議など琵琶湖博物館内で掲示	京都新聞
	29	[湖と人と] 琵琶湖博物館の 10 年<8> カワウによる物質輸送の影響を探る 亀田佳代子専門学芸員	毎日新聞
	29	びわこ 余呉の源流からはるか 230 キロの旅 牧野厚史主任学芸員のコメント	京都新聞
	29	特定外来生物「チャネルキャットフィッシュ」 琵琶湖で捕獲 琵琶湖博物館が発表	中日新聞
29	外来の肉食性ナマズ「チャネルキャットフィッシュ」 琵琶湖で 4 年ぶりの捕獲を琵琶湖博物館が発表 コメント	産経新聞	
29	「チャネルキャットフィッシュ」 琵琶湖で 4 例目捕獲 琵琶湖博物館が発表 琵琶湖博物館のコメント 写真資料提供	毎日新聞	
29	北米に生息する肉食魚「チャネルキャットフィッシュ」の捕獲を琵琶湖博物館が発表 琵琶湖博物館のコメント 写真資料提供	日本経済新聞	
29	琵琶湖で 4 年ぶり捕獲「チャネルキャットフィッシュ」 琵琶湖博物館のコメント 写真資料提供	京都新聞	
29	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
30	北米原産ナマズ「チャネルキャットフィッシュ」の捕獲を琵琶湖博物館が発表 琵琶湖博物館のコメント 写真資料提供	読売新聞	
30	湖国の昆虫 「コオイムシ」 八尋克郎専門学芸員 写真提供: 榎永一宏主任学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	1	琵琶湖の外来魚 人工的環境が定着促進 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員ら指摘	毎日新聞
	5	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<9> 中国「魚と米の郷」で琵琶湖のことを考える 牧野厚史主任学芸員	毎日新聞
	5	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	6	湖国の昆虫 「タケウチトゲアワフキ」 八尋克郎専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	6	湖水の浄化事業など紹介 国際湖沼環境委員会が琵琶湖博物館でパネル展	京都新聞
	6	世界の湖 環境研究 NGO パネル展が琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	6	外来ナマズ「チャネルキャットフィッシュ」を琵琶湖で捕獲 03年以来3例目	朝日新聞
	7	「チョウになっているんな色集め」平野幼稚園「にこにこひろば」の講師の西村知記主査のコメント	読売新聞(しが県民情報)
	9	学芸員の仕事って? 調査研究と興味いざなう 琵琶湖博物館八尋克郎専門学芸員に聞く/琵琶湖博物館で環境社会・民族学の学芸員を募集します	朝日新聞
	10	琵琶湖の生態系学ぼう ヨシ刈り親子ら体験 琵琶湖博物館うおの会	京都新聞
	12	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<10> 見て 触って モノと親しむ 青木伸子特別研究員	毎日新聞
	12	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	13	湖国の昆虫 「オオウラギンヒョウ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	15	琵琶湖博物館で社会学 民族学の学芸員求む	中日新聞
	16	長期隔離で独自進化? 琵琶湖岸ハマヒルガオのDNA 海岸の個体と異なる	京都新聞
	19	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<11> 集う・使う・創る 新空間 芳賀裕樹主任学芸員	毎日新聞
	19	琵琶湖博物館催し物の案内	京都新聞
	19	250 万年前に思いはせ 琵琶湖博物館学芸員の指導で児童ら 80 人発掘体験 里口保文主任学芸員のコメント	読売新聞(しが県民情報)
	20	絶滅危惧ムサントミヨの稚魚 琵琶湖博物館で展示	中日新聞
	20	湖国の昆虫 「ブタクサハムシ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	21	琵琶湖博物館催し物の案内	毎日新聞 (オー!ミ一)
	24	琵琶湖博物館でムサントミヨの稚魚登場	中日新聞
	25	琵琶湖博物館で絶滅危惧種「ムサントミヨ」展示 写真資料提供/光が見える 一再生への助走 水野敏明琵琶湖博物館特別研究員のコメント	京都新聞
	26	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<12> 学校 先生 地域指導者も活用 中村公一主査	毎日新聞
	26	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	27	ムサントミヨ元気だよ 琵琶湖博物館で今春孵化の稚魚展示	朝日新聞
	27	市民グループ「びわ湖の水と環境を守る会主催の連続講座「びわ湖の現在を考える」で講師として中井克樹主任学芸員と芳賀裕樹主任学芸員	毎日新聞
	27	湖国の昆虫 「ムナグロチャイロ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	29	バス天井 ご賞味を 琵琶湖博物館内レストラン「にはのうみ」の紹介	中日新聞
	30	琵琶湖岸の生態系守れ「湖岸生態系保全・修復研究会」で水草問題について現状と課題を報告 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	京都新聞
7	1	〔琵琶湖からのメッセージ〕気ままに水中散歩～ナマズ～ 中尾博行特別研究員の話/「拡大で水質悪化」 県 今夏から琵琶湖群生ハスを一部刈り取り 布谷知夫上席総括学芸員のコメント	京都新聞
	3	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<13> 使いやすく行きたくなるような魅力のサイトへ奮闘中 天野好美(ホームページ担当)	毎日新聞
	3	琵琶湖博物館で「飛ぶ宝石」トンボの写真展開催	産経新聞
	3	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	4	歴史 文化 環境 滋賀大が夏の一般講座の研修旅行で琵琶湖博物館に来館	中日新聞
	4	湖国の昆虫 「プライアシリアゲ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	10	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<14> 展示交流員と話しませんか 池畑慎吾展示交流員	毎日新聞
	11	魚と人のかかわり考えるシンポジウム「東アジアにおける生き物と人 -これからの関係を探る」が琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	11	湖国の昆虫 「ダイミョウセセリ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	12	もうすぐ夏休み! 特集 クワガタ・カブトムシを知ろう! みつけよう! 榊永一宏主任学芸員	毎日新聞 (オー!ミ一)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	17	〈大人の川遊びトレーニング〉ぼてじゃこトラスト アクア琵琶が共催 秋山廣光専門学芸員のコメント／ ふるさと 生き物探検隊 「こどもエコクラブ・伯母Q 五郎」が琵琶湖博物館で研修中のコロンビアやザンビアの学芸員らと理想の水辺へ国際交流	読売新聞(しが県民情報)
	18	湖国の昆虫 「サメクラチビゴミムシ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	18	企画展「琵琶湖のコイ・フナのお話」の案内	朝日新聞(夕刊)
	19	琵琶湖博物館催し物の案内	毎日新聞(オー！ミー)
	24	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<15> ディスカバリールームへようこそ！ 堀田桃子嘱託職員 荒井文子嘱託職員	毎日新聞
	24	〔@みゅーじあむ〕ミエゾウは琵琶湖のほとりにすんでいた？ 高橋啓一研究部長	読売新聞(しが県民情報)
	25	湖国の昆虫 「ヘイケボタル」 八尋克郎専門学芸員／琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	27	地元では定番 美味一品 琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」のブラックバス料理の紹介	朝日新聞
	28	コイとフナ 人と深いつながり 琵琶湖博物館で企画展開催 高橋啓一総括学芸員のコメント	京都新聞
	29	琵琶湖博物館で開催されたシンポジウム「東アジアにおける生き物と人 -これからの関係を探る」に秋篠宮さまが出席	毎日新聞
	29	琵琶湖博物館を秋篠宮さま訪問	朝日新聞
	29	琵琶湖博物館シンポと特別展 秋篠宮さまが出席 見学	京都新聞
	29	琵琶湖博物館10周年記念シンポに秋篠宮さまが参加	中日新聞
	30	琵琶湖博物館でシンポ 秋篠宮さまと子どもら交流会	毎日新聞
	30	琵琶湖博物館10周年記念シンポで秋篠宮さま魚の話題披露児童らと交流	中日新聞
	31	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<16> コイ科魚類と人間の関係は 中島経夫上席総括学芸員	毎日新聞
31	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
8	1	湖国の昆虫 「ニホンミツバチ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	2	琵琶湖のフナやタモロコ… 魚の産卵状況一目で アクア琵琶がコーナー設置 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員のコメント	京都新聞
	3	文化庁「タウン」事業 琵琶湖博物館ガイドマップなど51件	京都新聞
	5	〔琵琶湖からのメッセージ〕気ままに水中散歩～ブルーギル～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
	7	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<17> 粟津湖底遺跡が語る縄文文化 内山純蔵(総合地球環境学研究所准教授)	毎日新聞
	7	昆虫、植物それとも化石？自由研究アドバイス コースいろいろ夏休み宿題講座琵琶湖博物館で開催	読売新聞(しが県民情報)
	8	湖国の昆虫 「ツノトンボ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	9	ミシガン湖 琵琶湖と比べて 米(ミシガン州)へ派遣の膳所高生琵琶湖博物館で琵琶湖のプランクトンの採集・観察に取り組む	読売新聞
	11	古墳研究20年 成果を本に 用田政晴総括学芸員「琵琶湖をめぐる古墳と古墳群」刊行	京都新聞
	12	こども環境特派員事業 環境保護呼びかけたい こどもたちが琵琶湖博物館で体験学習	毎日新聞
	14	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<18> 飼育水浄化で魚の健康維持 御葉袋聡水族飼育員 尾崎侑子水族飼育員	毎日新聞
	14	野生生物の絶滅を防がないとね 「ニゴロブナ」「ゲンゴロウブナ」写真資料提供	赤旗
	16	まるで魚の視点で観覧 琵琶湖博物館で企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話」開催	滋賀報知新聞
	17	友達同士や家族でどうぞ 琵琶湖博物館で東アジアなどの魚展示	中日新聞
	20	ブックランキング 「琵琶湖をめぐる古墳と古墳群」 用田政晴総括学芸員	朝日新聞(夕刊)
	21	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<19> 水中を自由自在に カイツブリ飼育への挑戦 岡田隆水族飼育員	毎日新聞
	21	琵琶湖の情報1冊に 県環境政策課が「琵琶湖ハンドブック」を作成 琵琶湖博物館の学芸員ら専門家が内容を解説	産経新聞
	21	福岡の高校生による企画展「俺たち魚部！ギョブリまくった十年間 出会った生き物そして人びと」を琵琶湖博物館で開催 水辺の調査活動紹介	中日新聞
	22	湖国の昆虫 「ミヤマクワガタ」 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI 滋賀)
	23	琵琶湖博物館で北九州高の活動を紹介	産経新聞
24	〔朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚〕①「イタセンパラ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	28	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<20> 自然と人間「関係性」の糸口 海外フィールド・ワークで学ぶ 宮本真二主任学芸員	毎日新聞
	29	湖国の昆虫 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展 八尋克郎専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	29	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ③「アユモドキ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	30	こども環境特派員 琵琶湖は不思議の宝庫 最終日は琵琶湖博物館で外来魚の解剖や化石のレプリカ作り	毎日新聞
	31	草津の名所「くさポン」で 草津市観光物産協会が琵琶湖博物館などを紹介している小冊子を発行	朝日新聞
	31	琵琶湖博物館で コイ、フナと人間の歴史展開催中	京都新聞
	31	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ④「カワバタモロコ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
9	4	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<21> 努力踏みにじる密漁者 ビワマスの産卵と保護 桑原雅之専門学芸員	毎日新聞
	4	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑤「オヤニラミ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	5	水族企画展「東アジアのタナゴたち」の案内	朝日新聞(夕刊)
	5	湖国 魚と水生動物たち 「ビワコオオナマズ」 前畑政善上席総括学芸員 写真:松田征也専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	6	ウキキの近畿ウキキンキ 琵琶湖博物館の紹介	読売新聞
	7	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑥「ホトケドジョウ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	7	琵琶湖博物館老文字学芸員の講演会とおけ風呂体験	産経新聞
	8	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑦「ニッポンバラタナゴ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	9	琵琶湖の生態系知り、守る 『琵琶湖お魚ネットワーク』が始めた取り組み 調査票の整理と分析を「琵琶湖博物館うの会」が担当。中尾博行・水野敏明 琵琶湖博物館特別研究員のコメント	産経新聞
	11	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<22> いざに備え整理怠りなく ひっそり出番待つ膨大な資料 太田佳恵嘱託職員	毎日新聞
	12	湖国 魚と水生動物たち 「ホトケドジョウ」 秋山廣光専門学芸員/能登川博物館の「おけ風呂入浴体験」をおけ風呂研究で日本民俗学会の研究奨励賞を受賞した琵琶湖博物館老文字学芸員が解説	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	14	湖底火山灰の地層を琵琶湖博物館のHPで公開 里口保文主任学芸員のコメント	中日新聞
	15	太古の噴火 湖底に証し 火山灰調査を電子図鑑にまとめ 琵琶湖博物館のインターネット上で公開 里口保文主任学芸員のコメント	京都新聞
	15	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑧「ウシモツゴ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	16	「大人の川遊びトレーニング」で中尾博行琵琶湖博物館特別研究員が「琵琶湖岸の産卵調査」と題して公園	京都新聞
	18	リレーコラム [淡海から] 琵琶湖博物館など県立施設の無料開放 継続が文化力高める	京都新聞
	18	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	19	湖国 魚と水生動物たち 「シマドジョウ」 秋山廣光専門学芸員/植物の美しい形を青写真に 琵琶湖博物館わくわく探検隊「光と影で写真をうつそう」を開催	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	19	企画展「琵琶湖のコイ・フナの物語」の案内	朝日新聞(夕刊)
	22	[びわこのうちそと] 湖底で探る噴火の歴史 琵琶湖博物館が「電子図鑑」作成	朝日新聞
	22	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑨「ネコギギ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞
	26	湖国 魚と水生動物たち 「コアユ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	29	「こども環境特派員」に参加した小学生の感想 「絶滅したけど昔に多くいたアケボノゾウの骨が展示されている琵琶湖博物館 身近にあるけど歴史ある琵琶湖はすごい」	毎日新聞
29	96年に琵琶湖博物館が開館したことで来場者が激減 琵琶湖文化館 廃止 休館へ	京都新聞	
29	[朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚] ⑩「ニゴロブナ」 松田征也専門学芸員	朝日小学生新聞	
29	A glimpse into Fabre's spectacular world	Daily Yomiuri	
30	船上で琵琶湖の環境学ぶ 13大学から約500名の学生が参加 烏丸半島に寄港して琵琶湖博物館などを来館	朝日新聞	
30	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩〜ドジョウ〜 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞	
30	指定外来種の「オヤニラミ」が勢力拡大 在来魚へ影響懸念 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員と中井克樹主任学芸員のコメント	京都新聞	
10	2	対岸同士 手を結び集客増へ 琵琶湖博物館などの入館料が割引になる南琵琶湖バスポート発行	京都新聞
	3	湖国 魚と水生動物たち 「アジメドジョウ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	4	「おうみ人 湖今東西」“神秘の虫”伝えたい「チツゼミ」の調査に情熱を注ぐ 琵琶湖博物館「フィールドレポーター」 寺田誠氏	京都新聞
	6	琵琶湖博物館で「いのちの科学フォーラム市民公開講座」の参加者募集	京都新聞
	7	「琵琶湖からのメッセージ」気ままに水中散歩～ボテジャコ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
	9	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	10	ボタンウキクサ分布追え 琵琶湖博物館が県全域で初調査 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	京都新聞
	11	海づくり大会で両陛下が来県へ 琵琶湖博物館などを訪問	朝日新聞
	11	海づくり大会に両陛下が出席へ 琵琶湖博物館などを視察	京都新聞
	11	「おうみ人 湖今東西」古里への愛着出発点 琵琶湖博物館で開催の「淡海こどもエコクラブ活動交流会」で司会役を担う 井阪尚司県環境学習支援センター所長	京都新聞
	11	ボタンウキクサ繁殖防げ 琵琶湖博物館で分布調査開始 県民協力募る 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	産経新聞
	12	琵琶湖保全に協力しよう ボタンウキクサ繁殖状況報告を 琵琶湖博物館が水草の有効活用や除去策アイデア募る	中日新聞
	13	地引き網外来魚占拠。琵琶湖保全委員会の委員長 川那部琵琶湖博物館館長のコメント	京都新聞
	14	市民公開講座「山・川・海をつなぐ水といのちの物語」琵琶湖博物館で研究者ら講演	京都新聞
	16	「湖と人と」琵琶湖博物館の10年<24> 珪藻を研究 -たんさいぼうの会 「水中の宝石」に魅せられ 大塚泰介主任学芸員	毎日新聞 読売新聞(しが県民情報)
	16	琵琶湖博物館催し物の案内	
	17	湖国 魚と水生動物たち 「アマゴ・ヤマメ」 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	18	学校に博物館が来た！湖北・朝日小に琵琶湖博物館がサテライト博物館を22日オープン、中野正俊琵琶湖博物館職員のコメント	読売新聞
	23	「湖と人と」琵琶湖博物館の10年<25> 展示見た後図書室で再確認 1万冊自由に閲覧 藤森麻子琵琶湖博物館嘱託職員	毎日新聞
	23	博物館が学校にやって来た 琵琶湖博物館の収蔵品を空き教室に展示 学芸員の授業も計画	京都新聞
	23	余裕教室に“琵琶湖博物館”湖北・朝日小に「サテライト」開館	中日新聞
	23	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)
	24	湖国 魚と水生動物たち 「ニジマス」 桑原雅之専門学芸員/桶風呂研究で日本民族学会の奨励賞を受賞した老文子琵琶湖博物館学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	27	水草 湖面に猛威 繁殖力強いウォーターレタス 酸素遮断、水質悪化の危険性 琵琶湖博物館分布調査に乗り出す 芳賀裕樹主任学芸員のコメント	朝日新聞
	29	週刊まちぶら 琵琶湖博物館の催し物とレストランにほのうみの案内	朝日新聞
	30	「湖と人と」琵琶湖博物館の10年<26> 湖上交通市を背景に周辺古墳を分析 用田政晴総括学芸員	毎日新聞
	30	琵琶湖の魚に駅で会おう 琵琶湖博物館で魚を観察して仕上げた本物そっくりの陶芸品を60種 浜大津駅で展示	読売新聞
	31	湖国 魚と水生動物たち 「イワナ」 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
	31	琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(夕刊)
	11	4	「琵琶湖からのメッセージ」気ままに水中散歩～アユ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話
6		「湖と人と」琵琶湖博物館の10年<27> 自然との付き合い考える「里山」のジオラマ展示 布谷知夫上席総括学芸員	毎日新聞
7		湖国 魚と水生動物たち 「アメノウオ(ビワマス)」 桑原雅之専門学芸員/琵琶湖博物館主催 ビワマスの採卵現場見学会	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)
8		桶風呂復活へ思い熱く 湖国独特の半蒸半湯浴 老文子琵琶湖博物館学芸員ら製作工程を映像に	京都新聞
8		琵琶湖の魚介類 カルタに 琵琶湖博物館で販売	京都新聞
9		魚魚あわせ「琵琶湖…」版 千代紙の張り絵で34種紹介 京都の会社が発売 琵琶湖博物館で販売	中日新聞
12		両陛下が稚魚放流 大津の琵琶湖「豊かな海づくり大会」 午後は琵琶湖博物館へ	中日新聞(夕刊)
13		笑顔・気遣い 熱心に視察 県内滞在中の天皇・皇后両陛下 琵琶湖博物館にて琵琶湖の固有種展示紹介に関心 川那部浩哉館長コメント	朝日新聞
13		両陛下来県 琵琶湖保全にお言葉「海づくり大会」漁業関係者と歓談 午後は琵琶湖博物館へ 川那部浩哉館長が施設の説明	読売新聞



月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
11	13	琵琶湖固有種を放流 全国豊かな海づくり大会 天皇、皇后両陛下が出席 琵琶湖博物館では淡水魚見学／[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<28> 琵琶湖の火山灰40万年間に75回超す噴火示す 里口保文主任学芸員	毎日新聞	
	13	天皇、皇后両陛下 琵琶湖博物館館内を川那部浩哉館長が案内 右川洋一飼育員コメント	中日新聞	
	13	両陛下 信楽焼きにご興味 11日は琵琶湖博物館を見学	産経新聞	
	14	琵琶湖博物館 小学校に博物館常設 中野正俊交流センター主査コメント	中日新聞	
	14	湖国 魚と水生動物たち 「ハリヨ」 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
	15	「ニュースのポイント」知ってナットク 琵琶湖博物館調査によると水草の異常繁殖が水深の浅い南湖で影響し琵琶湖湖底が低酸素状態に	京都新聞	
	20	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<29> 未来に残すべき重要な遺産 所蔵する研究・寄贈標本 上原千春資料整理担当	毎日新聞	
	21	琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞	
	21	湖国 魚と水生動物たち 「ドンコ」 桑原雅之専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
	21	琵琶湖の厄介者 ブルーギル食べ尽くせ！ フナ鮭風やハンバーガーでも登場。琵琶湖博物館中井克樹主任学芸員のコメント	読売新聞	
	22	Bluegill menace tackled, one mouthful at a time, comment of Katsuki Nakai, chief curator of the Lake Biwa Museum	The Yomiuri Shimbun	
	24	「ゆりかご水田」拡大を 琵琶湖博物館でシンポジウム 140人参加	京都新聞	
	26	琵琶湖博物館で「自然史」講演会 専門家10人が生態など解説 亀田佳代子専門学芸員 中島経夫上席総括学芸員が講演	毎日新聞	
	27	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<30> 他分野の視点で新たな発見 北村美香特別研究員	毎日新聞	
	27	琵琶湖博物館から親魚を譲り受け 市民団体が琵琶湖で絶滅危機のイチモンジタナゴ人工増殖に成功	京都新聞	
	28	琵琶湖博物館など琵琶湖研究3機関再編へ 知事 統廃合や人員削減示唆	読売新聞	
	28	琵琶湖博物館など琵琶湖関連の3研究所 統合・再編へ 知事が検討 職員の削減も視野	朝日新聞	
	28	行革 研究機関にも 琵琶湖博物館など組織再編 知事人員削減に言及	中日新聞	
	28	琵琶湖研究部門 県環境科学センター、琵琶湖博物館、県立大統合へ 嘉田知事意向 外部資金導入も	京都新聞	
	28	琵琶湖博物館など琵琶湖の研究機関の再編 嘉田知事 分野・人員でスリム化	日本経済新聞	
	28	湖国 魚と水生動物たち 「トウヨシノボリ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいA I 滋賀)	
	28	[しぜんを歩く]琵琶湖のブルーギル なれずして食べて駆除 楠岡泰主任学芸員コメント	朝日新聞(夕刊)	
	30	カワマス20匹静かな人気者 琵琶湖博物館で展示／琵琶湖博物館職員が今秋ボタウキクサの増殖を確認 特定外来種越冬の恐れで除去作業	中日新聞	
	30	ボタウキクサ外来水草取り除け 守山・赤野井湾に大発生 県、初の作業開始 芳賀裕樹主任学芸員のコメント／南湖の水質報告 琵琶湖博物館など試験期間の連絡会議共同研究で成果	京都新聞	
	12	2	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩～ハリヨ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
		2	竹炭や水質調査など多様に紹介「県民環境学習のつどい」が琵琶湖博物館で開幕	京都新聞
		2	竹林伐採や湖清掃 82団体、環境保護活動を紹介する「県民環境学習のつどい」琵琶湖博物館で始まる	中日新聞
		3	琵琶湖博物館で淡海こどもエコクラブシンポジウム開催 大賞にエコスクール笠縫東小学校 草津 葉山川の生物状況調査	読売新聞
		3	県代表に「菜の花プロジェクト」 琵琶湖博物館で温暖化防止コンテスト開催 バイオ燃料の活動評価	産経新聞
		3	一層の環境保護を 琵琶湖博物館で活動2題「CO <sub>2</sub> のダイエットコンテスト in おうみと淡海エコクラブ表彰式」	中日新聞
3		大賞「菜の花プロジェクト」 温暖化防止のコンテストが琵琶湖博物館で開催	京都新聞	
4		琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
5		県事業見直し案 琵琶湖博物館の調査資料収集と展示事業も対象に	京都新聞	
5		琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞	
5	琵琶湖博物館で日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展開催中 『昆虫記』発刊100年を迎えて 世紀を超えて受け継がれてきたフェアブルの精神と科学的遺産 八尋克郎専門学芸員	聖教新聞		

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
12	5	湖国 魚と水生動物たち 「ウキゴリ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
	6	桶風呂文化を引き継ぎたい 老文字学芸員	毎日新聞(オー！ミー)	
	11	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<32> 急変する県内の昆虫相 環境と生息調査不可欠 八尋克郎専門学芸員	毎日新聞	
	11	琵琶湖博物館が設置したわくわく博物館 化石や剥製間近に本物教材	読売新聞(しが県民情報)	
	12	湖魚の環境問題提示 ギャラリー展「漁業・環境ミュージアム『注文の多い湖魚の料理店』」が琵琶湖博物館で開幕	中日新聞	
	12	湖国 魚と水生動物たち 「カジカ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
	14	琵琶湖博物館うおの会が琵琶湖の魚研究 県内全域で産卵調査実施	朝日新聞	
	15	琵琶湖博物館が調査 大繁殖水草対策いかに？有効活用と刈り取り法 県がアイデア募集	朝日新聞	
	18	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<33> 明治29年大洪水-琵琶湖最大の浸水被害闘いの軌跡展示で紹介 臼井学主査	毎日新聞	
	19	湖国 魚と水生動物たち 「スナヤツメ」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
	19	琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(夕刊)	
	19	来年のえとネズミ大集合 琵琶湖博物館で骨格・歯の標本展示	京都新聞	
	20	増殖外来種コモチカワツボ与えないで ホタルの餌に酷似 琵琶湖博物館写真提供	京都新聞	
	21	琵琶湖博物館でネズミに関する展示コーナー登場	中日新聞	
	25	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
	25	琵琶湖博物館が山田ネズミ大根えとを機に栽培 野間孝男嘱託職員コメント	京都新聞	
	25	実験通し「光の不思議」 琵琶湖博物館が取り組む学校サテライトワークショップにてはしかけグループ肥山洋子さんコメント	読売新聞	
	1	3	琵琶湖博物館の南湖・水草分布調査で判明 コカナダモ増殖5年前の10倍超 外来種の比率上昇 勢力争い続く 芳賀裕樹主任学芸員コメント	京都新聞
		3	湖国 魚と水生動物たち 「魚と人はどう違う」 前畑政善上席総括学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
		6	[琵琶湖からのメッセージ] 気ままに水中散歩～スジエビ・テナガエビ～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
		8	[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<34> 魚と人との関係 古文書が語る歴史の断片 橋本道範主任学芸員	毎日新聞
		10	琵琶湖博物館開設「わくわく博物館」で食害や樹木枯死 カワウ被害児童学ぶ 亀田佳代子専門学芸員が講師	読売新聞
10		湖北の朝日小 カワウの模型で生態学ぶ 琵琶湖博物館亀田佳代子専門学芸員繁殖地など説明	京都新聞	
10		琵琶湖博物館で開催中のギャラリー展示「注文の多い湖魚の料理店」 琵琶湖の魚の訴え聞いて「注文」に答えて環境理解	朝日新聞小学生新聞	
10		1970年発掘のナウマン象骨格の一部にマンモスの化石 高橋啓一研究部長 学会報告	十勝毎日新聞	
11		ナウマン象化石にマンモスの歯 高橋啓一研究部長発見	北海道新聞	
12		湖東・湖北の生きた文化 桶風呂ほっこり 半蒸半湯浴 風情にひたる 老文字学芸員コメント	京都新聞(夕刊)	
14		カワウとの共生 生態を学び探る 湖北町の朝日小児童 わくわく博物館で亀田佳代子専門学芸員が特別授業	中日新聞	
16		湖国 魚と水生動物たち 「イシガメ・クサガメ」 松田征也専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
17		幼稚園で自然体験 園内にピオト-プや琵琶湖博物館風に水族館を再現	朝日新聞	
20		多賀町立博物館と琵琶湖博物館共催の土曜講座(全6回)開催 生息状況や歴史学ぶ 初回講師は中井克樹主任学芸員	中日新聞	
22		[湖と人と] 琵琶湖博物館の10年<35> 充実した特別研究員の日々 花粉分析から遺跡の古環境探る 上中央子特別研究員	毎日新聞	
23		琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(夕刊)	
23		企画展「注文の多い湖魚の料理店」快適環境 魚が注文 ゲーム形式で学習	産経新聞	
23		湖国 魚と水生動物たち 「スッポン」 前畑政善上席総括学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
24		琵琶湖博物館調査 ミノムシに外来ハエ寄生 県内で確認 壊滅的減少も 榎永一宏主任学芸員コメント	産経新聞	
24		ミノムシピンチ！県内で激減の恐れ 琵琶湖博物館調査 寄生外来種ハエ確認 榎永一宏主任学芸員コメント	京都新聞	
24		干支にちなんで「ネズミ」のトピック展示 琵琶湖博物館で開催中	滋賀報知新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名	
1	24	琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞	
	25	漁場の現状をクイズで理解 琵琶湖博物館ギャラリー展「注文の多い湖魚の料理店」カワウ被害など紹介	京都新聞	
	25	「アートの窓」 恐竜の化石？いえ ネズミの骨格 琵琶湖博物館はしかけ -ほねほねくらぶが制作	毎日新聞	
	28	外来魚琵琶湖の減少報告 草津で琵琶湖博物館などが情報交換 生態や駆除考える	中日新聞	
	28	放置で大繁殖 生態系圧迫 駆除遅延は致命傷に 琵琶湖の侵略的外来生物でシンポジウム 中井克樹主任学芸員コメント	京都新聞	
	29	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<36> 小学校にサテライト博物館 理科離れを食い止めたい 中野正俊主査	毎日新聞	
	29	「目指せ！カワウ博士」 朝日小で琵琶湖博物館亀田佳代子専門学芸員が特別授業	読売新聞(しが県民情報)	
	30	湖国 魚と水生動物たち 「シロイシガメ」 前畑政善上席総括学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
	30	ニゴロブナ種苗放流時期先延ばし 琵琶湖博物館写真提供	毎日新聞	
	31	北海道で発掘のナウマン象の化石の一部 マンモスの臼歯と判明 高橋啓一琵琶湖博物館総括学芸員再調査で断定	毎日新聞	
	31	実は50歳超だった 69年発見のナウマンゾウ 琵琶湖博物館高橋啓一総括学芸員ら調査 臼歯を分析、推定	中日新聞	
	31	ナウマンゾウにマンモスの歯混じる 気候変動で同一場所に 琵琶湖博物館高橋啓一研究部長らの調査でわかる	読売新聞	
	2	2	ミノムシに危機 寄生バエ 湖南中心に勢力拡大 琵琶湖博物館が調査 榊永一宏主任学芸員コメント	朝日新聞
		3	〔琵琶湖からのメッセージ〕気ままに水中散歩～ヨシノボリ類～ 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
3		琵琶湖文化館「現代の水城」荒波にもまれ 96年琵琶湖博物館開館で入場者激減 来年度から休館	朝日新聞	
4		「ひがしおうみお魚フォーラム」で絶滅危惧種のハリヨ確認を東近江市お魚調査隊が報告 中尾博之特別研究員が講演	京都新聞	
5		忠類のナウマン象「年齢は50歳程度」学会で新説 24, 25歳説を覆す 高橋啓一研究部長ら日本古生物学会例会で発表	北海道新聞	
5		琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
5		〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<37> 滋賀に伝わる桶風呂にひかれ“環境にやさしい”暮しの知恵 老学芸員	毎日新聞	
6		県博物館協議会 スタンプラリー県内87館で実施 3月1日から4月13日までは琵琶湖博物館に展示	朝日新聞	
6		琵琶湖博物館催し物の案内/湖国 魚と水生動物たち 「ウシガエル」 秋山廣光専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
10		草津でこども環境会議で外来魚問題など意見交換小中学生と琵琶湖博物館学芸員が話し合う	京都新聞	
10		「琵琶湖岸にごみ多い」こども環境会議 意見発表 環境問題考える 小中学生と琵琶湖博物館学芸員が論客となって公開討論会	中日新聞	
11		北海道・ナウマンゾウの化石 一部はマンモスの歯 琵琶湖博物館調査で判明 寒冷地から移動か 高橋啓一研究部長調査で断定	産経新聞	
13		琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(夕刊)	
14		湖国 魚と水生動物たち 「スジエビ ヌマエビ」 孝橋賢一主査	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
17		在来魚の産卵見つけてお手伝い 市民通報で最適水位に 国交省に「琵琶湖博物館うおの会」協力	京都新聞	
19		「湖国の人たち オピニオン'08」 巨木は歴史の生き証人 滋賀の名木を訊ねる会 03年には琵琶湖博物館で展示会を開催	毎日新聞	
19		琵琶湖博物館催し物の案内	読売新聞(しが県民情報)	
19		〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<38> 海外研究者と共同研究 琵琶湖が世界に 質も向上 マーク・ジョセフ・グライガー総括学芸員	毎日新聞	
20		湖国 魚と水生動物たち 「テナガエビ」 孝橋賢一主査	朝日新聞(あいあいAI滋賀)	
20		野山の花の写真展 琵琶湖博物館で開催	朝日新聞	
25		生態系の構造 より複雑に 大洪水後に水草回復 芳賀裕樹主任学芸員ら調査	中日新聞	
25		観光客呼び込め 新名神開通で情報冊子 琵琶湖博物館など紹介	産経新聞	
26		びわ湖毎日マラソン大会 環境キャンペーン始動 イベントで問題提起 琵琶湖博物館見学料は各自負担	毎日新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	26	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<39> フィールドレポーター 市民から地域情報続々 スタッフが分析、発信 津田國史フィールドレポーター	毎日新聞
	27	天敵食われる前に食う 「逆転の発想」駆除にも一役 琵琶湖「ニゴロブナ」外来魚えさに養殖 中島経夫上席総括学芸員コメント	朝日新聞
	27	湖国 魚と水生動物たち 「タンカイザリガニ アメリカザリガニ」 孝橋賢一主査	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	27	琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞
	29	ヒナモロコ知って 希少淡水魚繁殖に取り組む琵琶湖博物館がひな祭りにちなみ展示	京都新聞
3	2	県内 87 館の「宝」 一堂に 博物館と美術館資料やパネル展示 琵琶湖博物館で始まる	京都新聞
	2	県内の博物館紹介 琵琶湖博物館でパネル展	中日新聞
	2	〔琵琶湖からのメッセージ〕気ままに水中散歩〜コイ〜 中尾博行琵琶湖博物館特別研究員の話	京都新聞
	3	草津の琵琶湖博物館が昨年7月生まれヒナモロコ展示	中日新聞
	4	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<40> 各館の連携担う協議会 共同での広報活動や巡回展推進 戸田孝主任学芸員	毎日新聞
	5	湖国 魚と水生動物たち 「ヒウオ(アユ)」 孝橋賢一主査/琵琶湖博物館催し物の案内	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	5	昔の暮しに興味津々 朝日小に中藤容子学芸員出前授業	中日新聞
	11	津田江伝承「鮎ずし切り」漁師の北脇氏 桑原雅之専門学芸員の案内で寄贈したオオナマズ見る	京都新聞
	11	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<41> 環境変化が水利用に影響 琵琶湖とも重なる課題 楊平学芸技師	毎日新聞
	12	湖国 魚と水生動物たち 「イケチョウガイ」 松田征也専門学芸員	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	14	故橋本忠太郎さん採集の100年前の植物標本発見 琵琶湖博物館で筆跡確認	朝日新聞
	14	日の出身の植物学者・橋本忠太郎氏の標本600種 母校で発見 琵琶湖博物館が確認	読売新聞
	15	収蔵だけでは筋違い 今月末で休館の琵琶湖文化館 96年には水族館部門を琵琶湖博物館に移管/琵琶湖博物館催し物の案内	京都新聞
	18	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<42> 理科離れを食い止める体験に 中野正俊主査はしかけグループ・「びわたん」 肥山陽子	毎日新聞
	19	忠類マンモス化石 年代は約4万年前 研究チーム中間報告会で高橋啓一研究部長が発表	北海道新聞
	19	湖国 魚と水生動物たち 「セタシジミ」 松田征也専門学芸員/琵琶湖博物館催し物の案内/県博物館協25周年 記念展で全館紹介 琵琶湖博物館でパネルや収蔵品展示 事務局担当の戸田孝主任学芸員の話	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	22	所蔵の鳥類・ほ乳類標本などデータベース化し公開 亀田佳代子専門学芸員コメント	京都新聞
	25	行くたびに新たな発見 琵琶湖博物館を紹介 楠岡泰主任学芸員コメント	朝日新聞
	25	琵琶湖文化館 国宝・重文215点30日で休館 琵琶湖博物館(96年)など続々開館 専門分野を受け持つ	読売新聞(しが県民情報)
	25	〔湖と人と〕琵琶湖博物館の10年<43> 語り尽くせぬ素晴らしさ 時代超えた出会いや発見 これからも伝えたい 高橋啓一研究部長	毎日新聞
	26	湖国 魚と水生動物たち 「アオウオ ソウギョ」 孝橋賢一主査	朝日新聞(あいあいAI滋賀)
	27	琵琶博「うみんど」休刊 県の財政難が波及 小川雅広専門員のコメント	京都新聞
	30	エコOK風呂 江戸末期滋賀で普及の桶式再現 少量湯でボカボカ 老文字学芸員のコメント	毎日新聞
31	昔の「桶風呂」子どもら体験入浴 彦根の護国神社に桶け職人が40年ぶりに作る 老文字学芸員らが企画	中日新聞	
31	先人の知恵 いい湯だな 40年ぶり復活の「桶風呂」入浴体験会を老文字学芸員らが企画	毎日新聞	

(3) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介  琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の紹介	博物館研究 4月号 子供の科学 4月号 日経サイエンス 4月号 れいかる<春号> vol.44 にゅーすもりやま No.426 大人組 4月号 JAF Mate ここいこ(滋賀)<リビング滋賀の生活ガイドブック> ドキドキサンクス vol.26 関西ファミリー・ウォーカー 増刊号 東海ファミリー・ウォーカー 増刊号 ドライブびあ関西版
5	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館 うおの会事務局イラスト資料提供 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内  琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1(県広報誌) vol.95 博物館研究 5月号 子供の科学 5月号 ピワズ通信 春号 No.53 Stage 5月号(びわ湖ホール公演チケット情報) 京阪神エルマガジン No.386 旅名人 Vol.3 PORTAL No.064 ワイヤーママ 滋賀版 5・6月号
6	琵琶湖博物館の催し物案内と写真資料提供 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 トビアス博士インタビュー記事の中で 琵琶湖博物館の紹介(ホテルポストンプラザ草津紹介記事の中で) 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の施設紹介 新刊紹介(用田政晴総括学芸員著) 「琵琶湖の深奥をのぞく」琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1(県広報誌) vol.96 博物館研究 6月号 子供の科学 6月号 くさポン(草津とくとくガイドブック) びいめーる vol.56 大人組 6月号 vol.28 培俱人 6月号 vol.52 ソトコト 6月号 No.96 Hotels Style Plus 夏号 じゃらん臨時増刊号 関西・東海版 にゅーすもりやま No.431 知得情報 Duet 6・7月号 The 水族館
7	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の施設紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介と催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介	滋賀プラス1(県広報誌) vol.97 博物館研究 7月号 子供の科学 7月号 れいかる<夏号> vol.45 ちびママ 創刊号 vol.1 にゅーすもりやま No.432 じゃらん臨時増刊号 Centro Style 夏号 vol.1 ホテルポストンプラザ草津 ぐるり蓮の旅(守山市観光協会) フィッシュマガジン 7月号 vol.496 日経kids+(プラス) No.20 夏休みファミリーレジャーガイド2007 NHK ステラ(関西版) 13号 マップルマガジン'07 夏休み号 モーニングくさつ vol.28 No.7 PORTAL No.066 Ars(季刊アルス) No.2 夏号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
8	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介  琵琶湖博物館の企画展示の紹介と催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.98 博物館研究 8月号 子供の科学 8月号 大人組 8月号 vol.30 旅名人 Vol.4 関西ファミリー・ウォーカー '07夏休み号 増刊号 モーニングくさつ vol.28 No.8
9	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の体験学習と自然観察会の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館 (水族展示室) の紹介 琵琶湖博物館の場所提示 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.99 博物館研究 9月号 子供の科学 9月号 日経サイエンス 9月号 JAF Mate 8・9月号 ソトコト 9月号 No.99 京阪神エルマガジン No.390 ESSE(エッセ) 9月号 にゅーすもりやま No.435 ベビモ 9月号付録 水辺のミュージアム PORTAL No.067
10	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館 (ディスカバリールーム) の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館のイベント紹介	博物館研究 10月号 子供の科学 10月号 日経サイエンス 10月号 れいかる<秋号> vol.46 ワイヤーママ 滋賀版 10月号 PADO [ばどマガ] 滋賀版 e.press vol.78 びいめーる vol.58 jaf club 10・11月号 6号
11	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 縄文土器写真資料提供 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.101 博物館研究 11月号 子供の科学 11月号 全科協ニュース Vol.37 No.6 PORTAL No.069 にゅーすもりやま No.439 No.440 日本の美術 No.498 ぴあ関西版 No.635 TAMAKI NEWS (滋賀版) 11・12月号
12	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館見学レポート「自然と人との関係伝える琵琶湖博物館」 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 淡海の博物館・美術館 県博協スタンプラリーの紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 マーク・ジョセフ・グライガー総括学芸員のインタビュー「滋賀で世界の研究者たちとの共同研究に取り組む」	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.102 博物館研究 12月号 PORTAL No.070 JASTJ NEWS No.45 語り部と歩く滋賀のたび 冬号 びいめーる vol.59 POPY f (ポピー エフ) 12月号 モーニングくさつ vol.28 No.12 冬ぴあ (関西版) Lake No.70
1	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の紹介	博物館研究 1月号 子供の科学 1月号 れいかる<冬号> vol.47 南びわこ! 冬のええとこクイズラリー るるぶ情報版 3449号 にゅーすもりやま No.443 PORTAL No.071 ワイヤーママ 滋賀版 1月号 8号

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
2	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 車椅子でも利用できる映像ブース写真資料提供 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内	博物館研究 2月号 子供の科学 2月号 日経サイエンス 2月号 びいめーる vol.60 だれもが学べる博物館へ いっとく ワイヤーママ 滋賀版 2月号 9号
3	琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館で開催中の「淡海の博物館・美術館」とスタンプラリー 八尋専門学芸員 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖博物館「はしかけ」登録講座募集 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介「特集 とっても琵琶湖な博物館」 琵琶湖博物館の催し物案内 琵琶湖文化館に関するインタビュー 秋山廣光専門学芸員 松田征也専門学芸員 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖のいきものたち写真資料提供	滋賀プラス1 (県広報誌) vol.105 しが県博協だより第20号 博物館研究 3月号 子供の科学 3月号 モーニングくさつ vol.29 No.3 まっぷる たびえーる 関西版 3月号 まるごと滋賀300 関西の見学可能な産業施設ガイド Kansai Technical Visit Guide アクアすぽっと! Vol.5 Well-Being 創刊準備号・1号 Duet 3・4月号 渚でくらす Vol.3 Growing Roadream Vol.16 滋賀旅 滋賀Life

(4) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4	6	知っとこ滋賀 ギャラリー展示 鉱物・化石展 「続・湖国の大地に夢を掘るについて」	KBS ラジオ	里口主任学芸員
4	18	県政プラスワン JICA 博物館学集中コース カントリー レポートについて	びわ湖放送	楠岡主任学芸員
4	20	勇さんのびわ湖カンパニー 常設展示 水族展示 屋外	びわ湖放送	楠岡主任学芸員
		琵琶湖博物館からの琵琶湖の風景	韓国 MBC 放送	楠岡主任学芸員
4	21	くるっと関西プラス 館内を案内し、中心的展示を紹介	NHK 大阪	楠岡主任学芸員
4	23	羽川英樹のぐるっとびわ湖環 状線 展示紹介	びわ湖放送	楠岡主任学芸員
4	23 30(再)	びびっとビーム セタシジミ マシジミ ヤマトシジ ミの写真について	びわ湖放送	松田専門学芸員
4	25	「びびっとモーニング」ゴール デンウイークお出かけ情報 ギャラリー展示 鉱物・化石展 「続・湖国の大地に夢を掘るについて」	びわ湖放送	里口主任学芸員
		琵琶湖の魚の特集 姉川の築について	NHK 大津	橋本主任学芸員
5	17	ニュース コンニャクの花	NHK 大津 びわ湖放送 KBS ラジオ	西村主査
5	24	おうみ発 610 スイゲンゼニタナゴ	NHK 大津	松田専門学芸員
5	28	ニュース チャネルキャットフィッシュ	KBS 京都滋賀 びわ湖放送 NHK 大津	松田専門学芸員
6	1	ピンポン カワウの狩猟鳥化や琵琶湖での生息 状況について	TBS テレビ	亀田専門学芸員
6	8	スポット紹介 「琵琶湖博物館わくわく探検隊～化石 のレプリカをつくろう -魚の歯のヒ ミツ-」	びわ湖放送	中村主査
6	20	さわやかラジオ 今日も一日 きし快晴 全国いろいろミュージアムの一つと して紹介	西日本放送ラジ オセンター	戸田主任学芸員
6	26	おうみ発 610 エリ付着物の増加問題	NHK 大津	孝橋主査
6	26/27	e おうみ NOW コーナー「この 人と」 「近江のトンボ」インタビュー/展示 風景挿入	東近江ケーブル ネットワーク	芳賀主任学芸員
6	29	びびっとモーニング 近江のトンボ展	びわ湖放送	八尋専門学芸員
7 ( 9	3 ( 25	info 宝くじ(60秒インフォーマー シャル) 番組 うみっこ広場他 宝くじ収益金 助 成金が役立っている施設紹介	テレビ朝日系全 国ネット	井上副主幹
7	23	夕方ニュース 「地層の見方講座」について	NHK 大津	里口主任学芸員
7	24	県政プラスワン 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」	びわ湖放送	中島上席総括学 芸員
7	25	おうみ発 610 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」	NHK 大津	中島上席総括学 芸員
7	28	YAJIKITA ON THE ROAD 琵琶湖の魅力～里山と環境問題～	滋賀エフエム ジャパンエフエ ムネットワーク	中井主任学芸員
8	1	ニュース 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」	NHK	
8	2	・ただいま勤務中！森谷威夫の お世話になります ・ほんまもん！原田年晴です 琵琶湖の水位 水質 水辺の生態に ついて	KBS 京都ラジオ ラジオ大阪 (2局同時放送)	大塚主任学芸員



放送日	番組名	内容	媒体	担当者
8	18/19 紹介	企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話」	洛西ケーブルビジョン	中島上席総括学芸員
8	28 県政プラスワン	「指導者のための湖沼学基礎講座」について 講座風景	びわ湖放送	中村主査
8	30 朝いちばん！豊島美雪です「朝いち！ひろめ隊！」コーナー	夏＝水をテーマに琵琶湖・琵琶湖博物館をレポート	毎日放送ラジオ	楠岡主任学芸員
10	3 ただいま勤務中！森谷威夫のお世話になります	琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖の生態系 琵琶湖漁業等	KBS 京都ラジオ	孝橋主査
10	9 おうみ発 610 びわ湖クローズアップ	電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」と琵琶湖にたまった火山灰について	NHK 大津	里口主任学芸員
10	12 ペット大集合！ポチたま	「赤ちゃん特集」最近うまれた赤ちゃんの状況 様子	テレビ東京	松田専門学芸員
10	22 おうみ発 610	南湖の湖底の改変状況	NHK 大津	孝橋主査
10	25 歴史街道～ロマンへの扉～	各展示室 内外観	朝日放送テレビ	橋本主任学芸員
11	6 ニュース	琵琶湖で捕獲されたエンツユイについて	毎日放送	松田専門学芸員
12	5 むさし・ふみ子の朝はミラクル「日経ビジネスサポートトピックス」コーナー	琵琶湖の魅力(過去・現在・未来)	ラジオ大阪	橋本主任学芸員
12	12 ビビット琵琶湖 ニュース	水族企画展示「湖魚の今…そして未来！」	びわ湖放送	前畑上席総括学芸員 杉野課長補佐
1	7 県政プラスワン	トピック展示「ネズミ」	びわ湖放送	杉野課長補佐
1	7 笑福亭晃平のほっかほかラジオ	トピック展示「ネズミ」	KBS 京都ラジオ	松田専門学芸員
1	9 県政プラスワン	湖北町立朝日小学校で行うサテライト博物館関連授業「カワウってどんな鳥？」について	びわ湖放送	亀田専門学芸員
1	16 滋賀プラスワン インフォメーション	淡海の博物館・美術館スタンプラリー	FM 滋賀	戸田主任学芸員
2	13 関口宏の日本を探しに行こう～老舗を見ればニッポンが見える～	鮎 ニゴロブナ ブラックバス撮影	TBS テレビ	楠岡主任学芸員
2	16 ふるさとめぐり逢い「琵琶湖周遊Ⅱ 湖からのめぐみ」	展示室での湖魚 漁具 漁法の説明	ZTV	孝橋主査
2	17 あっぱれ！！さんま新教授	レストラン「にほのうみ」ブラックバスの天井	フジテレビ	楠岡主任学芸員
2	28 NEWS ゆう	カワウの基本的な生態	朝日放送	亀田専門学芸員
2	27/28 ビビット琵琶湖 ニュース	水族トピック展示「ヒナモロコ」	びわ湖放送	松田専門学芸員
2	27 ニュース	水族トピック展示「ヒナモロコ」	FM 滋賀	松田専門学芸員
3	2 あっぱれ！！さんま新教授	べたきん たなごの情報と知識 撮影	フジテレビ	松田専門学芸員
3	5 DAILY！かわら版	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」 水族トピック展示(ヒナモロコ)	ZTV 大津	秋山専門学芸員 杉野課長補佐
3	7 県政プラスワン	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」	びわ湖放送	戸田主任学芸員
3	8/9 week1！かわら版	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」 水族トピック展示(ヒナモロコ)	ZTV 大津	秋山専門学芸員 杉野課長補佐

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
3	13	県政テレビタ刊プラスワン	琵琶湖博物館わくわく探検隊「葉っぱの化石を観察してみよう」	びわ湖放送	杉野課長補佐
3	14	知っとこ滋賀	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」	KBS ラジオ	戸田主任学芸員
3	15	晴れどきドキ晴れ	レストラン（バス料理） 展示紹介 外来魚の現状 対策等	中部日本放送	秋山専門学芸員 杉野課長補佐
3	15	ぐるっと関西プラス （春休みお出かけ情報）	ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」	NHK 大阪	楠岡主任学芸員
3	30	元祖！大食い王決定戦	にほのうみでランチシーンの撮影	テレビ東京	楠岡主任学芸員

## (5) 予算

2007年（平成19年）度歳入状況 (円)

科 目	決 算 額
使用料及び手数料	171,115,487
財 産 収 入	1,065,570
諸 収 入	8,837,212
合 計	181,018,269

2007年（平成19年）度歳出状況 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管 理 運 営 費	施設維持費 烏丸半島整備費 事務費	284,235,822
調査資料収集事業費	研究費 研究備品 資料収集製作 資料整理保管 水族飼育	180,096,837
展 示 事 業 費	企画展示 常設展示 展示維持管理 展示用印刷物	146,004,685
情 報 交 流 事 業 費	情報システム管理 データ入力 図書整備 交流事 業開催 フィールドレポーター	55,933,077
	合 計	666,270,421

## 4 存在基盤の確立

### (1) 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

#### 第1回

開催日時 2007年10月26日(金) 13:30~16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

#### 第6期委員

(任期：2006年9月1日~2008年8月31日)

氏名	区分	現 職 (2007年3月現在)
八里 良子	学校教育	甲賀市立甲南中部小学校 校長
片山 勝	学校教育	長浜市立北中学校 校長
西尾 久美子	社会教育	エコ村ネットワーク 副理事長
青木 繁	社会教育	(有)グリーンウォーカークラブ・ネイチャーガイド研究所 代表取締役
永田 俊	学 識 者	京都大学生態学研究センター 教授
篠原 徹	学 識 者	国立歴史民俗博物館民俗研究部 教授
西 源二郎	学 識 者	東海大学海洋研究所 教授 東海大学海洋科学博物館 館長
村井 良子	学 識 者	(有)プランニング・ラボ 代表取締役
山田 史生	学 識 者	共同通信社大津支局 支局長
横山 俊夫	学 識 者	京都大学副学長 同大学院地球環境学 教授・三才学林長 同大人文学研究所教授 (両任)
伊達 仁美	学 識 者	京都造形芸術大学芸術学部 助教授
木上 秀保	学 識 者	滋賀県脊髄損傷者協会 副会長
りゅう えい 劉 穎	学 識 者	翻訳者・中国語講師
辻 洋子	学 識 者	公募委員
佐川 雅彦	学 識 者	公募委員

### (2) 企画・計画

#### 1) 第二段階 (2006年度~2010年度) 活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。2007年度は計画の第二段階の二年目であり、2006年3月に策定された中長期基本計画第二段階(2006年度~2010年度)活動計画に基づき、2007年度行動計画の実績・評価を踏まえて、2008年度の行動計画案を作成した。

#### 2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

琵琶湖博物館の「利用されることで成長・発展する博物館」という博物館の理念は、一定の支持を集め、2007年度には600万人目の来館者を迎えることができた。2007年度は広報・経営基本戦略に基づき、2007年度の行動計画を策定したが、2005~2006年度に増加に転じた来館者は、2007年度はマイナスとなり、より一層の広報・集客に努力しなければならない状況となった。

## Ⅲ 2007 年度をふり返って

### 1 研究部

今年度は琵琶湖博物館の中長期計画の第2段階の2年目の年となった。琵琶湖博物館ならではの学際的あるいは地域的な研究をなお一層推進していくことを目標として掲げている。

研究・調査活動においては、総合研究2件、共同研究9件、申請専門研究2件、専門研究30件を行った。総合研究や共同研究はほぼ昨年並みの数であった。その他、県費以外の外部助成による研究あるいは研究分担者として、15人の学芸職員による36件の研究が行われた。今後も外部からの資金も活用しながら研究を活発化するとともに館外の方々との共同研究によって研究能力を高める活動をこころがけたい。

成果の発信については、学術論文45件、専門分野の著作46件、そして一般向けの著作として新聞への原稿も含め147件が行われた。学術論文もある程度の数は毎年だせるようになったが、琵琶湖博物館の中長期計画に照らし合わせた学際的あるいは地域を対象としながらも国際的な関心を呼ぶような研究成果はまだ十分に発信できていない。

館内事業として例年行っている研究発表会を行わず、代わって企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人 -これからの関係を探る-」を研究部として企画、運営した。

特別研究セミナーを3回開催した。このうち2回は博物館学関連のもの、他の1回は生態学に関するものであった。毎月第3金曜日に行っている研究セミナーは例年通り12回開催した。

特別研究員については、8名の外部研究員が琵琶湖博物館の施設を利用して研究を行い、またセミナーで発表を行った。特別研究員については、徐々に増加しているが、引き続き館内の学芸職員との研究交流を行い、互いに研究能力が向上していくことが望まれる。その他、11名の外部研究者が施設利用手続きの後、生態進化実験室、水族実験撮影室、水族水槽室、魚病管理室、人工環境室、DNA分析室、無菌操作室、共同利用研究室などの施設を利用した。

海外調査および国際学会の発表等のために、6名の学芸員が計11回海外に出張した。国際的な調査や交流、また成果の幅広い発信を今後も精力的に行っていきたい。

### 2 事業部

#### (1) 展示交流

展示交流空間の更新については、2006年度と同様老朽化した情報機器類の全体的な見直しを行い、同じ展示効果を他の機種で安価に実現できるものについては速やかに更新し、情報機器類を使わずに展示効果が期待できるものについては、別の手法に変更した。また、生きものコレクションのコーナーにあった琵琶湖のプランクトンのコーナーを、ミクロの世界のコーナーへ「水の中のとて小さな生きものたち」と題して拡大移設を行った。これには、2004年から2005年にかけて開催しギャラリー展示「ミクロの世界を探検しよう -プランクトンの不思議-」で収集した資料や作成した展示データを使用して行った。併せて、生きものコレクションの空いたスペースを使って、「寄生虫～その驚くべき生活～」と題した展示を開始した。

展示交流活動については、展示交流員、水族飼育員やディスカバリールーム嘱託職員による来館者との交流活動を強化した。

2006年度と2007年度の2年にわたって、総合研究「東アジアの中の琵琶湖 -コイ科魚類を展開の軸とした環境史に関する研究-」の総括として開催される企画展示の第二弾として、第15回企画展示「東アジアの中の琵琶湖 -琵琶湖のコイ・フナのお話-」が開催された。本企画展示は、東アジア総合研究の研究成果を用いて、コイ・フナの視点で、劇場風の展示を行い、身近な魚であるコイ・フナ（コイ科魚類）のおよそ7000万年前の展開をたどる。そのことによって、自然や生き物と人間との関わりあいのあり方を考えていただくことを目的とした。併せて、水族企画展示として、第19回水族企画展示「東アジアのタナゴたち」を同時期に開催した。また、第27回全国豊かな海づくり大会にあわせて、第20回水族企画展示「湖魚の今…そして未来！」を開催した。

ギャラリー展示等では、第27回全国豊かな海づくり大会にあわせて開催した「漁業・環境ミュージアム 注文の多い湖魚の料理店」の他、滋賀県やその周辺地域で鉱物や化石の採集を行っている地域の方々の集まりである「湖国もぐらの会」との共催で、「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」が開催された。また、「集う・使う・創る 新空間」はいよいよ本格的に運用が始まり、地域の方々の活動紹介や交流が16件開催された。

## (2) 資料の整備・活用

中長期基本計画の第二段階の2年目に入り、資料がよりいっそう活用できる博物館を目指して、1) 資料を活用するための体制案の作成、2) 環境管理システムの現状把握と再整備の方針作成、3) 当館のIPM(総合的資料有害虫管理)基準値以下の保存環境維持、4) 電子図鑑の新規公開および増補、5) データベース新規公開を目標として、活動を行ってきた。1)については、活用のための整理と管理体制の現状把握を行い、網羅的に資料情報の現状把握を行うことができた。今後は、企画展示等の造作物についての管理体制案を作成する必要がある。2)については、予算的な問題で、当初計画していた大規模の整備が難しくなったため、大幅に経費を削減した方法を検討する必要が出てきた。方針を転換し、現有設備を生かした低費用の環境整備方策の検討を、今後とも継続する必要がある。3)については、定期的実施している生物環境調査の結果、一時期基準値を超える害虫の倍増が見られたが、速やかに対応を行うことで基準値以下に抑えることができた。今後は対応マニュアルを作成し、虫の侵入防止等の予防対策を強化する予定である。4)および5)については、おおむね予定通りの公開と増補を行うことができた。データベースについては「鳥類標本データベース」および「哺乳類標本データベース」の新規公開を、電子図鑑では「琵琶湖地域の火山灰」および「日本&滋賀県のオサムシ」の新規公開と、「滋賀のさかな」の増補改訂を行った。その他に、琵琶湖博物館資料目録17号「民俗資料3衣食住」および18号「民俗資料4生産業」の発行を行った。

## (3) 交流・サービス事業

今年度から空き教室を活用した学校サテライト博物館事業を湖北町立朝日小学校ではじめた。事業は、企画展示やギャラリー展示で使われた標本の移動展示だけでなく、学芸員等の体験学習や講義を多くの児童や地域住民、教職員向けに実施した。琵琶湖博物館の中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具体的に進めるための事業の一つとして大きな成果があがった。

「はしかけ」は2つのグループを新たに立ち上げ、総数は15となり登録者数は347名となった。活動していないはしかけ登録者への働きかけを行い、さらにグループ活動を活性化させていくことが課題となっている。「フィールドレポーター」については、「ボタンウキクサ」調査等を実施した。登録者は122名であった。また、観察会・見学会を10回開催し、他の団体との協働事業実施率は87.5%であった。

地域の人たちとの協働をさらに深めて、自主的に活動する人づくりにつながるよう、既存交流事業を見直し、他の地域でも事業導入を図っていくことが今後の課題となる。

## (4) 情報発信

今年度の最も大きな成果は、安定的な電子情報を提供するための情報システム中枢機器群の全面更新を行ったことである。また、電子情報発信の要となっているwwwサイトについての情報の充実と更新を安定的に実施するための体制整備を行い、wwwサイトの不具合箇所に関して、順次改善等を行った。その作業のなかで、「質問・回答」データベースの公開も行った。さらには、ネットワーク接続端末機器の継続的な更新も実施した。

しかし、より利用しやすいシステムを構築するためには、中枢機器群の更新後の利用形態や運用方法についての議論と実践が必要である。

# 3 総務部

## (1) 来館者の状況

琵琶湖博物館の来館者数は、開館初年度を除き年々減少傾向にあった。2004年度には44万人台となり過去最

低となったが、2005年度は約45万人、2006年度には琵琶湖博物館広報経営戦略に基づく広報活動のほか、黄色いナマズや博物館10周年などの話題性もあり、約47万人まで回復した。しかし、2007年度はまた44万人台に来館者数が減少した。これは、春・夏の観光シーズンや夏休み期間中の個人来館者・一般団体の減少、県外の学校団体の減少、2月には来館者が多い休日の降雪による天候不良のため減少したものと考えられる。

## (2) 来館者アンケート

2007年度のアンケート調査では、8月と3月の繁忙期と、12月の閑散期にアンケート調査を実施したところ、繁忙期は初めての来館者が約52%で4回以上のリピーター率は約23%であったが、閑散期では4回以上のリピーター率が約45%と高い数値を示した。満足度については、博物館を訪ねてみて「非常に満足した」と「満足した」をあわせて、昨年度、一昨年度に引き続き80%以上の数値となった。これは、ユニバーサルデザインの推進とともに、企画展示、ギャラリー展示、トピックス展示など期間限定の展示の開催や、展示室での展示交流員や水族飼育員など職員の対応が良かったことが考えられる。

## (3) 広報・戦略

琵琶湖博物館広報・経営戦略では、2007年度の広報・経営行動計画を策定し、京都府下の小・中学校に学芸員が訪問し広報活動を行うトライアルウィークを実施した。また、パブリシティーを活用した積極的な情報提供を心がけ、47件の資料提供を行った。この他、県下のホテルや旅館などの宿泊施設を訪問してのチラシ配布やインターネットホームページによるタイムリーな情報発信などを心がけ実施した。

しかし、来館者数については2006年より6.8%の減少となったことから、より一層の効果的な広報活動を展開するとともに、博物館の効率的な運営を実践するよう努力したい。

## (4) 施設整備

建築後10年が経過し、設備等の劣化が進行しており、空調設備や配管等の修繕を行い、施設設備の維持管理に努めた。

また、博物館全体の施設設備について現状・劣化状況の調査を行うとともに、2005年度に実施した空調設備保全計画に基づき温水配管改修のための実施設計を行った。

## (5) 来館者サービスの向上

来館者サービスの向上の一環として2004年4月から1年間何回でも観覧できる年間パスポートの販売を始め2007年度は696人（対前年42人減）に購入いただき延べ3,113回の入館観覧をしていただいた。当館の来館者はリピーターの方が多く、利用者ニーズに応えることができるとともに顧客の定着化による利用の促進が図れた。公共交通機関や他の施設と連携した取り組みとして、草津、守山、堅田をめぐる「南びわこ観光パスポート」が10月1日から3月31日まで実施され2007年度は156人の販売実績があった。また、関西地域に所在する他の博物館等65施設と連携し「ミュージアムぐるっとパス・関西」に組み込み30人の方に購入いただき延べ140人の方が観覧された。

## (6) 国際交流活動

JICAからの受託事業として「博物館集中コース」研修を国立民俗学博物館との共催で実施し、8カ国10名の研修生を受け入れた。JICA研修についてはその内容を継続的に充実し、関係強化を図ってきたがその成果の一つとして、ディスカバリールームのインターナショナルコーナーの展示更新を、2006年に研修に参加したザンビアのスサカ博物館、リビングストーン博物館学芸員の協力を得て実施することができた。

海外からの視察は、アジア、北アメリカ、ヨーロッパなど世界各地域から、合計49件、約540人であった。このうち環境保全に関する視察件数が多いことが傾向としてみられた。また、今年度は12月に来館したタイからの視察に対応した楠岡学芸員が、視察に参加していた国立高校から依頼を受け、2月にタイに出張し、博物館を

造るための地域連携、陸水学的な調査の方法などについて講義を行った。今後も海外との良好な関係を構築できるよう努力したい。



## IV 博物館利用のご案内

■開館時間 午前9時30分から午後5時まで（入館は、午後4時30分まで）

■休館日 毎週月曜日（祝日・休日の場合は、翌日休館）  
 年末年始（12月25日～1月2日）  
 その他館長が定める日

■観覧料（常設展示） （2008年4月1日現在）

	個人	団体(20名以上)	年間観覧券	共通券(*)
小学生・中学生	250円	200円	750円	320円
高校生・大学生	400円	320円	1,600円	520円
大人	600円	480円	2,400円	730円

(\*) 草津市立水生植物園「みずの森」との共通券。団体は取り扱いません

※未就学児、障害のある方、県内居住の65歳以上の方は常設展示の観覧は無料です。（詳細についてはご確認ください。）

※年間観覧券は、購入後1年間、常設展示、企画展示を何回でも観覧できます。

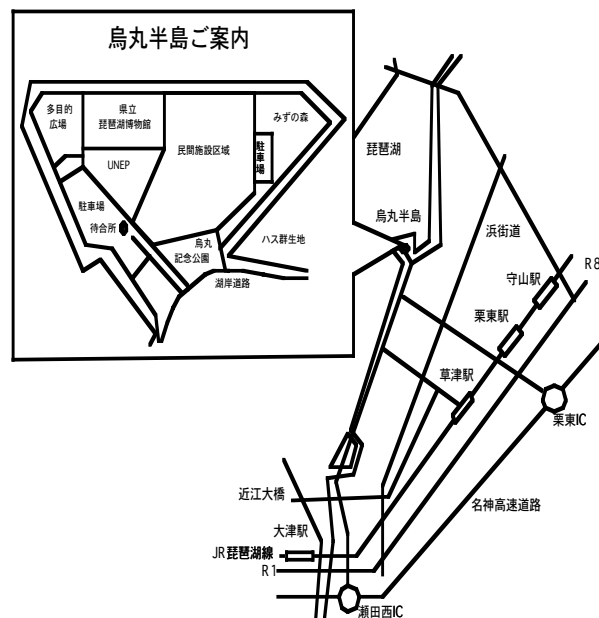
※企画展示はそのつど料金を定めます。（開催期間中）

### ■交通案内

●JR新幹線「京都駅」「米原駅」からJR琵琶湖線に乗り換え「草津駅」「守山駅」で下車。「草津駅西口」から、近江鉄道バス「烏丸半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車、約25分。タクシーで約20分。「守山駅西口」からタクシーで約20分。

●車では、名神高速道路「栗東I.C」から国道1号線→栗東志那中線→湖周道路を経て約25分。または「瀬田西I.C」から湖周道路を経て約30分

●航路では、琵琶湖汽船シャトルボートで「大津港」、「琵琶湖大橋港」から「草津烏丸半島港」へ（不定期）  
 ＊問い合わせ先：琵琶湖汽船 077-524-5000



### ■駐車料金

（2008年4月1日現在）

大型バス	1,700円	マイクロバス	1,100円
普通車	550円	二輪車	200円

※博物館観覧者が使用する普通車と二輪車は無料扱いとなります。

### ■問い合わせ

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

滋賀県立琵琶湖博物館

TEL (077) 568-4811 FAX (077) 568-4850

インターネットホームページ <http://www.lbm.go.jp/>

## 2008 年度（平成 20 年度）職員紹介

職員

(2008年4月1日現在)

- 館長 川那部 浩哉
- 副館長 阪口 榮
- 上席総括学芸員 布谷 知夫
- 上席総括学芸員 中島 経夫
- 上席総括学芸員 前畑 政善

総務部

○部長 阪口 榮

◇ 総務課

- 課長 竹内 恵子
- 課長補佐(兼) 小島 俊彦
- 主幹 南堀 貞雄
- 副主幹 中島 知子
- 同 井上 雅勝
- 主査 細矢 智美
- 主任主事 山元 恵子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 松田 征也
- 課長補佐 小島 俊彦
- (兼) 山川 千代美
- (兼) 芳賀 裕樹
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) 戸田 孝
- (兼) 大塚 泰介
- (兼) ロビン・ジェームス・スミス

事業部

○部長(兼) 高橋 啓一

◇ 展示担当

- G. L. (兼) 桑原 雅之
- (兼) マーク・ジョセフ・グライガー
- (兼) 牧野 厚史
- (兼) 臼井 学
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 里口 保文

◇ 資料活用担当

- G. L. (兼) 亀田佳代子
- (兼) 秋山 廣光
- (兼) 草加 伸吾
- (兼) 榎永 一宏
- (兼) 礪田 能年
- (兼) 老 文子

◇ 交流担当

- G. L. (兼) 八尋 克郎
- 主査(併任) 中野 正俊
- 主任主事(併任) 飯住 達也
- (兼) 小川 雅広
- (兼) 西村 知記
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 宮本 真二
- (兼) 中藤 容子
- (兼) 楊 平

研究部

○部長(兼) 用田 政晴

◇ 環境史研究担当

- G. L. 総括学芸員 高橋 啓一
- S. G. L. 主任学芸員 里口 保文
- 総括学芸員 用田 政晴
- 専門学芸員 山川千代美
- 主任学芸員 橋本 道範
- 同 宮本 真二
- 学芸員 老 文子

◇ 博物館学研究担当

- G. L. 専門学芸員 秋山 廣光
- S. G. L. 主任学芸員 戸田 孝
- 同 楠岡 泰
- 同 芦谷美奈子
- 同 中藤 容子
- (兼) 中野 正俊
- (兼) 飯住 達也

◇ 生態系研究担当

- G. L. 総括学芸員 マーク・ジョセフ・グライガー
- S. G. L. 専門学芸員 牧野 厚史
- 専門員(兼) 小川 雅広
- 専門学芸員 松田 征也
- 同 桑原 雅之
- 同 八尋 克郎
- 同 亀田佳代子
- 同 芳賀 裕樹
- 同 臼井 学
- 主査(兼) 西村 知記
- 主査(兼) 草加 伸吾
- 主任学芸員 中井 克樹
- 同 大塚 泰介
- 同 榎永 一宏
- 同 ロビン・ジェームス・スミス
- 主任技師 礪田 能年
- 学芸技師 楊 平

注) G. L. はグループリーダー、S. G. L. はサブグループリーダーを示す。

## 館長 川那部 浩哉 (かわなべ ひろや)

略歴 1955年京都大学理学部(動物学科)卒業、1960年京都大学大学院理学研究科博士課程(動物学専攻)修了・京都大学理学博士、同年京都大学助手、1961年同講師、1967年同助教授、1977年同教授、1991年同生態学研究センター長兼任、1996年停年退官、同年4月より現職。

賞罰 1960年朝日奨励賞、1995年カナダ国ゲルフ大学(U. of Guelph)名誉理学博士、1996年京都大学名誉教授・日本学士院賞エディンバラ公賞、1997年アメリカ芸術科学アカデミー(AAAS)外国人名誉会員、1997年世界科学協会(IMS)会員、1999年京都新聞文化学術賞、2001年世界芸術科学アカデミー(WAAS)会員、2002年京都府自治功労賞、2003年日本生態学会功労賞・応用生態工学会名誉会員。

役員 日本生態学会・国際古代湖生物学会(SIAL)・応用生態工学会元会長、国際生態学連合(INTECOL)元副会長・第5回大会会長、国際理論応用陸水学会(SIL)元日本代表・生物多様性委員長、生物多様性国際研究計画(DIVERTSITAS)顧問・科学委員会元委員・西太平洋アジア地域ネットワーク(DIWPA)元委員長・陸水部会元部会長、未来開拓学術研究推進事業「アジア地域の環境保全」研究推進委員会元委員長、世界自然保護基金ジャパン(WWFJ)常任理事、21世紀COEプログラム委員会・京都府文化財保護審議会・京都市文化財保護審議会・国際生物学賞委員会委員、第9回世界湖沼会議調整会議議長・企画委員会委員長、など。

専門分野 生態学

研究テーマ 社会・群集関係の総体論、文化多様性・生物多様性の歴史的関係

1955年以来、アユの社会構造や川や湖の魚の種間関係を主に調べてきたつもり。京丹後市にある宇川の魚について、50年以上ほぼ毎年調査してきた愚直さを大いに誇りにしている。その初期から、アユの成長や数の減少など生物生産の動態がその社会構造によって変化することを見つけ、競争的な「食いわけ」と「棲みわけ」を明らかにし、1970年代には、アユの社会構造を含むいくつかの生態的現象の進化史的な意義に関する仮説を提唱した。また1977年からは、アフリカのタンガニイカ湖などで国際共同研究を進め、「競争的協同」の考えを進めた。これらをも含め、生きもの間の関係は、「あれかこれか」と言うようなものではなく、むしろ相対的かつ曖昧なものだと考えている。

国内的にも国際的にも地域主義的な発想が極めて大切だと思い、従って特に国際的な共同研究においては、「当該地域の人々が調査のリード役を果たし、さまざまな決定はその地域の人々が行うべきだ」との考えのもと、現地の研究者のアドバイザーの役割に徹することに努めてきたつもりだ。

「生物間の関係の総体」の研究こそが重要だと、50年あまり言い続けてきたが、近年の生態学の国際的流れはこの方向にかなり近づいているようで、いささか満足している。「生物の多種共存機構を促進する相互作用機構」すなわち「地球共生系」の共同研究に引き続き、「生物多様性を促進する生態複合」すなわち「共生生物圏」の共同研究をも進め、国内的には2002年3月に一応終わった。

琵琶湖博物館は、私流の言いかたをすれば、「湖と人間とのあいだの関係の総体を歴史的に見て、今後の自然とのつきあいかたやそれぞれのくらしを各自に考えて貰う」ための組織である。従ってここに来てからは、従来からの「生物間の関係の総体」を拡張して、「湖と人間の関係の総体の歴史性」を考え直しており、「古代湖は生命文化複合体」などと奇妙な用語を口走ったりもして、館員諸氏には大いに迷惑をかけているに違いない。また、博物館事業の国際化にも少し力を注ぎたいと、数年前からフランス国立自然史博物館(MNHN)などと論議を進めてきた。この成果の一つは、日仏合同企画展示「フェアブルに学ぶ」として、2007-8年には日本で、2009-10年にはフランスで開催される。

『原色日本淡水魚類図鑑』(1963, 76)、『川と湖の魚たち』(1969)、『生物と環境』(1978)、『川と湖の生態学』(1985)、『山溪カラー名鑑日本の淡水魚』(1989, 2001)、『生物界における共生と多様性』(1996)など、比較的小おとなしい題名の著書もあるが、『偏見の生態学』(1987)、『曖昧の生態学』(1996)、『魚々食記』(2000)、『生態学の「大きな」話』(2007)など、いささか鬼面人を驚かす題のものもある。また、私淑していたエルトンさんの本を3冊翻訳したほか、『シリーズ地球共生系全6巻』(1992-93)、『共生の生態学全8巻』(1994-96)を監修したりもした。また、博物館へ来てから編集したのものには、『古代湖: その文化的・生物的多様性』(1999、英文)、『古

代湖：生物多様性・生態・進化』(2000、英文)、『博物館を楽しむ：琵琶湖博物館ものがたり』(2000)、『ビジュアル科学講座生命の地球全13巻』(2000)、『生物多様性の世界』(2003)、『対談 琵琶湖博物館を語る』(2007)、『深泥池の自然と暮らし』(2008)、『琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ』(2008-) などがある。

なお、『日本の魚類生物学：川那部浩哉に捧げる』(1998、英文) や『川の自然を残したい -川那部浩哉先生とアユ』(2000) などを贈って頂き、光栄に思うと同時にいささかならず恥ずかしい気もしている。

#### 上席総括学芸員 布谷 知夫 (ぬのたに ともお)

略歴 1974年京都大学大学院農学研究科博士課程中退、農学修士、1974年大阪市立自然史博物館、1991年滋賀県教育委員会事務局文化施設開設準備室を経て、1996年より現職。2004年総合大学院大学博士(文学)取得。

専門分野 2007年度まで 博物館学  
2008年度から 博物館経営学

研究テーマ 利用者の視点を持った博物館の運営

博物館の現場で長く仕事をしてきた。現場を10年ほど経験したところに、各地の博物館の活動が非常に多彩に行なわれているのに、その情報発信はほとんど行なわれていないことに気がついた。また一方で博物館学を勉強していて、現場での情報が反映されておらず、また現場で必要なことが書かれていないことが多いことも気になった。現場の学芸員の立場で博物館学を考えると、これまでとは異なった博物館像のようなものが需要であると考えるようになった。たまたま滋賀県で新しい県立博物館の建設をするという仕事に参加することができ、自分が不満に思っていたことを、自分のできる範囲でやってみようと考えた。博物館全体について現場の視点での見直しをしながら、実際の博物館の運営に携わってきたつもりである。

ここ1~2年は、博物館が提供できる学びとは何であるのか、どのような対象者に対して、どのような学びの場を提供することができるのか、ということに関心を持っており、何本かの報告書なども書いて、考えをまとめつつある。

#### 上席総括学芸員 中島 経夫 (なかじま つねお)

略歴 1980年京都大学大学院理学研究科博士課程動物学専攻単位取得退学、1982年京都大学理学博士取得、1980年岐阜歯科大学歯学部助手、1991年滋賀県教育委員会事務局文化施設開設準備室主査、1986年より現職。

専門分野 2007年度まで 魚類形態学  
2008年度から 古魚類学

研究テーマ コイ科魚類の咽頭歯の研究

うおの会の活動を、より発展させた琵琶湖お魚ネットワークの活動を軌道にのせ、魚とその生息環境についてのモニタリング調査に、多くの市民の方に参加していただいた。その成果を琵琶湖オサカナネットワーク報告書としてWWFジャパンと琵琶湖博物館うおの会から出版した。市民の魚とりを楽しむという活動とそれを科学的データにするという仕組みを構築した。

また、研究の面では総合研究「東アジアの中の琵琶湖 コイ科魚類を展開の軸としたその環境史に関する研究」がまとめの段階に入り、企画展示の準備を行いつつ、専門分野の研究を考古学分野にシフトさせ、考古遺跡に残る咽頭歯遺体の研究にのめり込んでいった。

#### 上席総括学芸員 前畑 政善 (まえはた まさよし)

略歴 1974年高知大学大学院農学研究科修士課程栽培漁業学専攻中退、1974年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。2002年京都大学博士(理学)取得。

専門分野 水族繁殖学

研究テーマ 日本産ナマズ類の産卵生態、水田魚類の生態

研究関連では、これまでに自分自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく執筆活動を進め、現在、館内外共同研究者と4編の論文を訂正・加筆中である。平成19(2007)年度より総合研究「琵琶湖に隣接した水田地帯の特性の解明 -ニゴロブナを媒体として-」を立ち上げ、特にフナ類やカメ類等の遡上する水路の環境について連続したデータを得ることができた。現在、共同研究者と論文化の作業を進めている。なお、これらの成果については、関西の魚類研究者の集まりである魚類自然史研究会、日本生態学会、淡水魚保全にかかわるシンポジウム・研究会等にて発表するなど、広く一般に公表した。併せて、当館主催事業である指導者向けの講座「淡水魚類学専門講座」やさまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の現在の由々しき実態と外来種(魚類)の生態系へ及ぼす影響等の解説にもつとめた。なお、これらの研究、およびこれまでの調査研究を背景として、県内小学校の環境に対する取り組み、滋賀県や国(国土交通省・環境省・農林水産省など)の生き物、水田、琵琶湖にかかわる各種事業に対してアドバイス等を行った。

事業関連では、「フィールドレポーター制度」担当となり、フィールドレポーター制度の円滑な運営に資するとともに、「ミノムシの分布調査」(2006年度)、「ボタンウキクサ分布調査」(2007年度)の調査結果をマスコミリリースするなど、フィールドレポーター参加者のモチベーションアップを図り、また新規参加者を募るよう積極的に活動した。また、「新たな交流の方向性」のまとめ担当として、当館の中長期計画である「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するための既存交流事業を展開するための方策を取りまとめた。

#### ◇環境史研究担当

総括学芸員 高橋 啓一(たかはし けいいち)

略歴 1979年日本大学文理学部応用地学科卒業、1979年京都大学理学部研修員、1980年日本歯科大学新潟歯学部口腔解剖学教室助手、講師、1990年日本歯科大学歯学博士取得、1990年滋賀県教育委員会事務局文化部文化振興課を経て、1996年より現職。2004年日本大学博士(理学)取得。

専門分野 古脊椎動物学

研究テーマ ゾウ化石を中心とした東アジアの古脊椎動物の変遷、旧石器時代における人間活動と環境の関係性

本年度も昨年同様、研究部長および環境史研究担当のグループリーダーとしての活動を中心に行った。研究事業では国際誌2本を含む6本の学術論文と1本の専門分野の著作を報告することができた。また、年度後半には北海道忠類産のナウマンゾウの再検討を行ったことに関連して、新聞でも取り上げられるような研究を公表することができた。

その他、韓国で行われた国際足跡シンポジウム(International Symposium on the Conservation and Application of Hominid Footprints)に地域の足跡研究者と出席し発表を行った。この活動は琵琶湖博物館の目標とする地域支援の一環として捉えることができる。

外部の研究者との交流では、総合地球環境学研究所のプロジェクトに引き続き参加することで、外部の研究者と共同で研究を進め、研究の推進と研究能力の向上を心がけている。

交流事業では、引き続きはしかけ活動「ほねほねくらぶ」の担当を行っている。この活動を活かして、昨年度につづき本年度もお正月展示を行った。また、展示事業では、企画展示の一部の製作や企画展関連シンポジウムの準備を行った。

総括学芸員 用田 政晴(ようだ まさはる)

略歴 1979年岡山大学法文学専攻科史学専攻考古学コース修了、岡山県総務部県史編纂室、滋賀県教育委員会文化財保護課、琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より琵琶湖博物館に勤務。2007年滋賀県立大学博士(人間文化学)取得。

専門分野 考古学

研究テーマ 古代国家成立前史

2007年度の琵琶湖博物館での研究は、一昨年から引き続き、近江の古墳時代首長墓と中世山岳寺院研究を主な

テーマとして行った。

前年度末に、滋賀県立大学より学位を授与された論文「琵琶湖をめぐる古墳と古墳群の考古学的研究」をもとにして、本文の加筆・修正および図版整備を行って、2007年7月に『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群』を刊行した。また、その中心的な部分についてさらに手直しを行い、菅谷文則先生退任記念論集『王権と武器と信仰』へ「琵琶湖をめぐる在地首長の動向と畿内中枢」と題した論文を寄稿した。

山岳寺院の研究は、伊吹山の弥高寺にみる城郭要素と上平寺城にみる寺院要素についてまとめた論文を『山の考古学通信』に掲載した。

一方、琵琶湖博物館での民具資料の整備活動は、博物館開設準備室以来16年間にわたって嘱託・日々雇用職員らと共に行ってきたが、その資料目録の3冊目の「衣食住」および4冊目の「生産生業」をとりまとめて、『琵琶湖博物館資料目録』第17号・第18号として刊行した。

昨年度から継続して行ってきた河川環境管理財団の助成事業である弥生時代環濠集落研究は、その成果の一部を琵琶湖博物館新空間および東近江市埋蔵文化財センターで展示し、報告書をまとめたところである。

滋賀県立大学大学院での「日本考古学」の講義は5年目に入り、考古学の方法論や学史を後回しにして、実践的な考古学的话题を中心にしながら、近江や日本列島の考古学の諸問題を取り上げた。

その他、インドネシアや中国・北京周辺での博物館や考古・民俗調査を実施し、その成果の一部は、これまでの古墳研究以外の考古学的成果および民俗学の成果とあわせて、現在とりまとめ中の刊行本に反映させる予定である。

#### 専門学芸員 山川 千代美 (やまかわ ちよみ)

略歴 1987年北海道教育大学釧路分校中学理科課程卒業、1989年兵庫教育大学大学院修士課程学校教育自然系コース修了、教育学修士、1989年滋賀県教育委員会事務局文化部文化振興課を経て、1996年より現職。

2008年千葉大学大学院理学部自然科学研究科後期博士課程終了、博士(理学)。

専門分野 古植物学

研究テーマ 新生代における植物化石の研究

2007年度の研究活動では、専門研究「鮮新-更新統産の化石林に基づく古植生復元」を課題として、愛知川化石林の古植生・古環境復元の再検討を行った。また、共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」で上野層・伊賀層産の木材化石の組成を明らかにし、「日本列島の旧石器時代における環境活動と人間活動の関係性解明のための研究」に繋がる研究活動も行った。＜論文＞山川千代美(2008)；古琵琶湖層群産化石林に基づく後期更新世の古植生の時空間分布。千葉大学大学院理学部自然科学研究科学学位論文。

事業では、資料活用担当グループで燻蒸およびIPM対策、図書資料整備の業務を担当した。その他、企画展示の関連イベント(人形劇・紙芝居)の運営を行い、教員研修、学校・一般団体の講義や、体験学習プログラム「葉っぱの化石を観察してみよう」を実施した。

#### 主任学芸員 橋本 道範 (はしもと みちのり)

略歴 1993年京都大学大学院文学研究科博士後期課程国史学専攻中退、同年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 文献史学

2008年度から 歴史学

研究テーマ 13世紀における社会経済構造の変動

鎌倉時代を中心として、自然と人間との関わりの歴史の解明に取り組んでいる。

平成19年度は、総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類の展開を軸にした環境史に関する研究」の成果である企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話 -東アジアの中の湖と人-」および関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人 -これからの関係を探る-」の準備および実施に全力を傾注した。

終了後は、「環境史」研究の研究史整理を行い、その成果の一部を報告している。また、岡山県の吉井川下流に

位置した備前国豊原庄（現瀬戸内市周辺）の環境復元研究にも取り組み、基礎となる史料の調査を行った。これらは琵琶湖博物館の申請専門研究費や文部科学省の科学研究費補助金を利用して実施した。また、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」にも参加している。ここでは、有明海の中世における干拓に関する研究史整理や殺生禁断が行われた‘寺辺’という不可視的景観の復元に取り組んだ。

#### 主任学芸員 里口 保文（さとぐち やすふみ）

略歴 1997年大阪市立大学理学研究科後期博士課程地質学専攻学位取得後修了、理学博士、同年より琵琶湖博物館勤務。

専門分野 2007年度まで 層序学  
2008年度から 地質学

研究テーマ 火山灰層による鮮新 - 更新統の広域層序

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層（鮮新 - 更新統）にある火山灰層をもとに、広範囲の地層層序をあり、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の鮮新 - 更新世の爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。

いくつかの研究のうち一つは、太平洋で掘削された海底のボーリングコアによって、古琵琶湖層群の時代の火山灰層を使い、日本の火山灰の噴出年代と降灰分布を明らかにしようとしている。また、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？について興味をもっており、博物館内外の研究者と共同で研究を行っている。このような琵琶湖の研究は、より多くの研究者に関わってもらいながら進めている。

また、滋賀県に關係する地学關係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学關係学芸職員と共に事務局をもち、研究会を開き、個人管理ページにおいてその活動を紹介している。

#### 主任学芸員 宮本 真二（みやもと しんじ）

略歴 1993年立命館大学文学部地理学科地理学専攻卒業、1995年東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻修士課程修了、1996年同博士課程中退、同年5月より現職。2005年東京都立大学博士（理学）取得。

専門分野 2007年度まで 微古生物学  
2008年度から 古微生物学

研究テーマ アフリカ半乾燥地域、モンスーン・アジア地域における環境変遷と人間活動の対応關係の解明

研究活動では、総合研究（東アジア）の総括に係わる出版物の執筆を行い、専門研究では県内に分布する遺跡の立地環境の解析や、濃尾平野に立地する遺跡の花粉分析や地形環境解析等を行った。さらに自身が代表を務める科研費や、他の科研費や外部研究助成金による共同研究によって、上記の遺跡の立地環境の解析や、南部アフリカの半乾燥地域（ナミビア中部）、ヒマラヤ山脈東部の水田地帯（インド北東部）、さらにはモンスーン湿潤地帯の水田地帯（バングラデシュ中部）、韓半島南部（韓国南部）を調査地として、「自然環境の変遷と人間活動との対応關係の検討」に関する事前打合せや現地調査を外部研究者や現地研究者と行い、その都度、研究成果の論文公表や学会発表等を行った。また、この研究活動の中で、特別研究員指導、大学非常勤講師、海外大学院生の現地指導等を継続している。

今年度も近江・琵琶湖という特殊性および普遍性を検討する上で、世界各地で「地に足のついたフィールドワーク」にもとづく地域研究の重要性と必要性を強く感じた一年であった。

博物館の運営に関する業務では、主に電子情報關係の業務を担当した。今年度は、情報システム中枢機器の全面更新に関する作業を中心に行いつつ、「質問・回答データベース」の公開作業、年報編集、研究關係では電子顕微鏡保守契約作業、外部助成資金担当等について關係者の方にご教示・指導を受けながら実施した。



#### 学芸員 老 文子 (おい ふみこ)

略歴 2001年滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科卒業、2003年滋賀県立大学大学院人間文化学研究科地域文化学専攻博士前期課程修了、2008年同博士後期課程単位取得退学、2007年9月より現職。

専門分野 2007年度まで 民族学  
2008年度から 民俗学

研究テーマ 民家と民具からみた生活文化の研究

学芸員として採用された2007年9月以降も、滋賀県立大学大学院人間文学研究科に在籍時から引き続いて、「桶風呂文化の保存と活用」についての取り組みを行った。主な活動内容は、東近江市在住の桶職人お二人と竹細工職人お一人に、桶風呂と竹笠の製作を依頼し、その製作工程の記録を行った。調査は実測とメモ、写真による記録だけでなく映像での記録も行い、その成果として滋賀県の桶風呂文化を紹介する教材用DVDの製作を進めた。2008年度は、2007年度の調査成果も加味して、これまでの桶風呂研究の成果の取りまとめや、研究成果の公開と発信に取り組みたい。

その他、桶風呂の製作工程の記録と併行して博士論文の作成に取り組み、2008年2月に滋賀県立大学大学院に博士論文の審査申請を行った。博士論文では、「明治時代の間取り図を用いた集落空間の復元的研究」を研究テーマとして研究成果の取りまとめを行った。現在、2008年度に審査を受けるべく訂正を行っている。

#### ◇生態系研究担当

#### 総括学芸員 マーク ジョセフ グライガー (Mark J. Grygier)

略歴 1984年米国カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリップス海洋研究所博士課程修了、Ph. D. コペンハーゲン大学細胞生物学及び解剖学研究所アメリカスカンジナビア交換研究員、スミソニアン研究所国立自然史博物館研究員・研究協力員・協力研究員、オーストラリア博物館客員研究員、琉球大学熱帯海洋科学センター外国人研究員(3回)、パリの国立自然史博物館海洋無脊椎動物学及び軟体動物学研究所客員学芸員、京都大学瀬戸臨海実験所日本学術振興会研究員、ロサンジェルス郡立自然史博物館協力研究員、広島大学水産実験所園生物学国際基金助成研究員、ウィーン大学動物学研究所客員上級研究員、琉球大学熱帯生物圏研究センターCOE外国人研究員などを歴任。1997年より現職。

専門分野 2007年度まで 生物多様性学  
2008年度から 国際湖沼学

研究テーマ 甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにおけるエビの生態発生学、海洋寄生虫

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」の研究代表者として、調査への参加、事務担当者として国内外の共同研究者の招聘手続きと滞在の管理、標本発送、2008年度の新しい共同研究者の募集などの業務を行った。

主著者あるいは共著者として、学術論文5編を2007年度に出版した。それぞれの内容は、1) 琵琶湖およびその周辺にすむ魚類に寄生する鉤頭虫、2) 漂流された琵琶湖産アユの識別に使用する琵琶湖固有寄生虫、3) アユの寄生虫の目録、4) 琉球列島のプランクトンから採集されたモンストリラ目カイアシ類の新属の走査電子顕微鏡による記載、5) インドネシアの湾から採集されてy幼生(甲殻類)の新種の走査電子顕微鏡による記載。

日本のカイエビ類の、古い文献や最近収集された標本に基づく、分布記録に関する総説の執筆を続けている。東北産カイエビ(*Caenestheriella gifuensis*)の数カ所の新記録を共著論文として投稿した。平行して、無脊椎動物(昆虫、貝類を除く)標本の受け入れや登録なども行った。また、展示更新チームのメンバーとして「寄生虫—その驚くべき生活—」という新しいコーナーを作製した。

#### 専門員 小川 雅広 (おがわ まさひろ)

略歴 1984年中央大学理工学部土木工学科卒業、1993年滋賀県職員(農業土木技術吏員)採用、農村整備課、湖北地域振興局田園振興課を経て、2006年4月より現職。

専門分野 2007年度まで 農業工学

## 2008年度から 農学

研究テーマ 農村地域における生物多様性環境直接支払い制度について

農業、農村地域は、食料の生産基盤としての面だけでなく様々な機能を有している。これを「多面的機能」と呼んでおり、私たちの生活の一端を支えているものである。滋賀県では過年度から環境直接支払い制度を導入して多面的機能を維持するための施策を実施してきた。また、農林水産省においては、2007年度から直接支払い制度による「農地・水・環境保全向上対策」が始まった。2007年度の研究では、県内の「農地・水・環境保全向上対策」の実施地区において特に環境保全活動に焦点をあて活動内容や意識等の調査を行った。また、「水田」総合研究においては、水田地帯の特性を生き物と人との関わりから明らかにすることを目的に、琵琶湖に隣接する農業排水路において魚類調査等を実施し、魚類の水田地帯への遡上要因の検討を行った。

水田地帯には様々な生物が棲息し水田生態系を形成している。水田生態系を少しでも解明し、農学的見地から保全に向けたアプローチをしていきたいと考えている。

### 専門学芸員 松田 征也 (まつだ まさなり)

略歴 1983年近畿大学農学部水産学科卒業、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。

専門分野 底生生物学

研究テーマ 淡水産貝類の滋賀県内における外国産シジミ類の分布調査。日本産希少淡水魚の飼育下での保存に関する研究

今年度の研究活動としては、近畿大学の小林徹准教授と共同で、日本産希少淡水魚の胚および精子の、凍結保存方法の開発をおこなった。同じく近畿大学の山根猛教授と共同で、湖水の流動環境と漁獲との関係に関する研究を継続して実施した。

博物館事業としては7月14日～11月25日に開催した、第19回水族企画展示「東アジアのタナゴたち」を担当した。またギャラリー展示では、滋賀県博物館協議会設立25周年記念「淡海の博物館・美術館」の副担当として開催準備および運営に携わった。この他、12月18日～2月3日に開催した正月開館記念トピック展示「ねずみ」、水族トピック展示などを企画した。

企画調整業務では、琵琶湖博物館中長期計画2007年度行動計画、琵琶湖博物館広報・経営戦略2007年度行動計画の進行管理を担当した。

### 専門学芸員 桑原 雅之 (くわはら まさゆき)

略歴 1982年愛媛大学理学部生物学科卒業、1984年三重大学水産学研究科修士課程中退、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 水族生理学

2008年度から 魚類生態学

研究テーマ 琵琶湖固有亜種であるビワマスと、琵琶湖流入河川に生息するアマゴとの関係

研究では、2006年に引き続き共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」にかかる調査研究を行った。2007年度は、湖内産ビワマスとサツキマスの遺伝的状況について再度詳細な分析を行うとともに、琵琶湖流入河川でのサンプリングを行い、その分析を行った。また、これに関連した論文を主著で1本出すことができた。専門研究では、レイクトローリングを用いた湖内におけるビワマスの生態解明への研究手法について検討を行った。

事業では、2007年度より展示担当のグループリーダーをつとめることになり、それに関係する活動を行った。水族では、飼育管理と資料管理を行った。また、外国から来た魚たちのコーナーのソウギョの水槽を、烏丸半島近辺の湖岸に生息する外来生物に展示替えを行った。また、タンガニーカ湖の魚たちの大水槽の魚種を、想定されている地域のものに変更するとともに、五大湖にすむ魚たちコーナーでレイクトラウトと、カワマスの展示を開始した。

#### 専門学芸員 八尋 克郎 (やひろ かつろう)

略歴 1994年九州大学大学院農学研究科博士後期課程昆虫学専攻修了、博士(農学)。九州大学農学部研究生、国際協力事業団派遣職員を経て、1996年より現職。

専門分野 陸上昆虫学

研究テーマ オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化、生物地理を明らかにすることを研究目標としている。

今年度の研究活動の業績の一つは、共同研究「近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理」の研究結果の一部が論文として公表されたことである(Nagata, Kubota, Yahiro and Sota 2007, Mol. Ecol.)。その他の昆虫化石に関する論文も含めると計3本の論文が印刷されたことになる。また、北隆館から刊行された「新訂 原色昆虫圖鑑第II巻(甲虫篇)」においてオサムシ科を担当したが、これも長年の研究の蓄積の成果である。

今年度の事業活動の中心は、前年度に引き続き日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展の展示製作業務である。本企画展は2007年の7月から北海道大学総合博物館ですでに始まったが、今年度は特に琵琶湖博物館における展示内容の検討を行った。

もう一つの事業の柱は、交流担当のグループリーダーの仕事で、交流事業全体の総括を行った。昆虫に関する観察会・講座では「ホタルを観察しよう」「生き物飼い方講座」「夏休み自由研究講座」を担当した。また、琵琶湖博物館のインターネットページで電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」を公開したが、これも研究活動を基礎に事業を展開した活動の一つである。

#### 専門学芸員 亀田 佳代子 (かめだ かよこ)

略歴 1996年京都大学大学院理学研究科博士後期課程動物学専攻修了、博士(理学)。京大大学生態学研究センター研修員を経て、同年12月より現職。

専門分野 2007年度まで 鳥類学

2008年度から 動物生態学

研究テーマ 生態系における鳥類の役割に関する研究

研究部では生態系研究領域の一員として研究の推進や発信を行い、事業部では、資料活用担当グループリーダーあるいは鳥類学担当学芸職員として、資料整備事業を行いつつ、専門分野に関わる事業にもたずさわっている。

2007年度は、事業部資料活用担当のグループリーダーとなったことから、資料活用担当の業務の把握と整理、課題への対応に重点を置いて業務を行った。特に、資料整備に関する書類の整理と現状把握を通して、資料整備の全体像把握と事業の見直しに努めた。また、2008年度からの財政構造改革プログラムへの対応にも多くの時間を費やした。専門分野に関する事業については、鳥類標本データベースの公開、水鳥の観察会の実施、体験学習への対応、小中高等学校での総合学習の対応などを行った。

研究においては、これまでの研究成果のとりまとめと論文化が当初の予定より遅れているが、一方で、国内外の新しいプロジェクトへの参加が増えた年となった。新たなプロジェクトに参加することで、これまで接点の少なかった研究者とも議論を行う機会が得られ、今後はそれをもとにして、研究成果のとりまとめと新たな研究課題の推進を行いたいと考えている。

#### 専門学芸員 牧野 厚史 (まきの あつし)

略歴 1984年関西学院大学経済学部卒業、1990年関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程社会学専攻単位取得退学、関西学院大学社会学研究科研究員を経て、1999年より現職。2008年筑波大学博士(社会学)取得見込み。

専門分野 地域社会学

研究テーマ 地域環境問題についての社会学的研究

第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話 -東アジアの中の湖と人-」の製作、および企画展示と関連するシンポジウムの準備、開催を行った。本企画展示は、博物館の総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明 -

ニゴロブナを媒体として」と深く関連する内容であったので、中国湖南省および滋賀県下の集水域農村において展示製作及びシンポジウム準備をかねた調査を行い、その一端をシンポジウムにおいて報告した。また、専門研究としては、鳥獣被害問題の研究および、ヨシ帯保全についての調査・研究を行ない成果の一部を公表した。それらはいずれも人間による伝統的な自然利用とその変遷に関する研究として位置づけられる。交流事業では、地域連携事業の強化に力を入れた。県内の博物館や利用者同士のネットワーク化に積極的に参加するとともに、館内では、利用者の活動支援の充実をはかった。また、新しい交流のあり方についても若干の検討を行った。

#### 専門学芸員 芳賀 裕樹 (はが ひろき)

略歴 1994年名古屋大学理学研究科博士課程大気圏科学専攻単位取得、同年滋賀県教育委員会事務局(仮称)琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年名古屋大学理学博士取得、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 陸水化学  
2008年度から 陸水物理化学

研究テーマ 琵琶湖南湖の沈水植物の動向

沈水植物とは、全体が水中にある水草のことである。南湖では1990年代の半ばから沈水植物が急に増えだし、最近では航路障害や漁業被害、景観の悪化などが社会問題化している。筆者らは2001年から沈水植物の分布や現存量(重量)の調査を始め、現在も分布状況のモニタリングを続けている。2007年は南湖全域を対象に沈水植物の種類別の現存量分布を調べた。同様の調査を行った2002年の結果との比較から、この5年間で、沈水植物全体の現存量は変わらないが、クロモが衰退し、コカナダモが急増するなど種ごとには盛衰があることが明らかになった。ほかに湖底の人為的な掘削跡の地形調査や、特定が以来生物ボタンウキクサの分布調査と除去などを行っている。

事業面では総務部企画調整課に属し、琵琶湖博物館協議会、研究審査会のマネジメントと共に、広報・経営戦略会議で来館者の動向分析や広報手法の研究を行っている。

#### 主査 臼井 学 (うすい まなぶ)

略歴 1990年大阪工業大学工学部土木工学科卒業、1991年滋賀県職員(土木技術吏員)採用、河港課、湖東地域振興局河川砂防課を経て、2007年4月より現職。

専門分野 2007年度まで 河川工学  
2008年度から 河川学

研究テーマ 河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの構築に関する研究

河港課の兼務職員ということもあり、河川行政の抱える課題のひとつである「河畔林の維持管理」をテーマに研究を進めた。堤防や高水敷に繁茂している竹は、元来、水害防備林として植えられ、それを文化面や生活面で幅広く活用してきたことで、地域による適正な竹林管理が行われてきた。しかし、現在では、生活様式の変化や代替製品の普及、安価な輸入品の影響などによって国内の竹の需要が激減し、殆どが管理されなくなっている。その結果、河畔林の竹林は植生範囲を拡大し、河積を阻害し、治水機能の低下を招くと共に、ゴミの不法投棄や生物の生息環境の悪化などを誘引し、社会的にも問題視されるようになってきている。これらの竹については、治水上支障になるものから順次伐採が進められてはいるが、植生範囲が広大であることや、伐採しても短期間に再生することなどから廃棄物として多額の処分費を費やしているのが現状である。近年の逼迫する財政状況から、このコスト縮減や再資源化が喫緊の課題となってきた。放置竹林の問題は全国的な問題でもあり、最近では各地域において様々な取り組みや利活用の研究がされている。このため、これらの事例を参照にしながら、事業者、研究機関、地域等と連携を図り、竹の製品化等により竹資源の活用を実証する場を確保するなどの施策を通じて事業者の起業化を誘導し、循環型の維持管理が継続できるベースの構築を目指していきたいと考えている。2007年度においては、河畔林の基礎資料の収集と現地調査をはじめ、各地域振興局を対象にして、竹材の発生量、竹の利活用と拡大防止方策の事例、地域での維持管理の取り組み等について聴き取り調査を行い、現状のとりまとめと課題の整理を行った。本年度はこれらの結果を受け、全国的な利活用事例の収集と有効性の検証、利活用

における諸法令、基準の整理、拡大防止方策の実証実験などを行っていきたいと考えている。

#### 主査 西村 知記 (にしむら ともき)

略歴 1994年高知大学大学院農学研究科修士課程林学専攻修了。同年滋賀県職員(林業技術吏員)採用。2006年4月より現職。

専門分野 2007年度まで 林学  
2008年度から 森林学

研究テーマ 野生動物と人のかかわり ―今までとこれから―

近年、全国的に野生動物による農林業被害が問題となっています。滋賀県内の中山間地域においても、例外ではなく、農林家、行政ともに対応に苦慮しています。とくに林業被害では、ニホンジカにより、植栽したばかりの苗木が食べられてしまう「食害」が起こっていて、対策なしには森林の再生が行えない状態にあります。これは森林資源や循環利用する面からも厳しい状態です。私は、こうした被害を直接防ぐ「防除」と、その被害軽減につながると考えられている「生息地改善」をテーマに研究を行っています。

生息地改善は、よく言われるようなマクロなものではなく、新植造林地に隣接する、または近くにある間伐手入れ不足人工林において、下層植生が復活すれば、新植造林地への侵入軽減につながるか、というようなミクロな視点でのものです。

事業では、里山体験教室と質問コーナーを担当し、CS向上、顧客層の拡大、新しい利用方法の提案に向けて、試行錯誤をくり返しています。里山体験教室では、里山の会とともに、現代的な里山の利用形態、利用価値の一つである、「里山を楽しむ」ことをキーワードに事業展開を図っています。

#### 主任学芸員 草加 伸吾 (くさか しんご)

略歴 1990年大阪市立大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学、学術修士。同年滋賀県教育委員会事務局文化振興課を経て1996年より現職。2006年4月～2008年3月、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター主任研究員を兼務。

専門分野 2007年度まで 森林生態学  
2008年度から 植物学

研究テーマ 森林伐採が下流域に及ぼす影響評価と下流域への伐採負荷を最小限にする森林管理方法の探究、モンゴル北部での山火事跡地等森林荒廃地における森林再生促進技術の開発

2007年4月からは、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター勤務が前年の週2日から4日、琵琶湖博物館勤務が週3日から1日の兼務と変わった。今回の人事交流を通して、同センターの人や研究を知ると共に、視野を広げることもできた。さらに自分の研究面に関しては、研究センターの方々のご配慮で、博物館にない分析装置の活用も可能になった。しかし一面、研究センター組織変更の時期が重なったこともあり、人事交流2年目となってもやはり、博物館とのシステムの違いに戸惑う面もあったが、このたび無事に2年間の交流を終えることができてホッとしている。

具体的には、同センターや県立大、京大と連携して行ってきた、森林管理に関する「斜面下部残存実験」の硝化に関するまとめを行い、同センターの研究評価部会で、好評を得ると共に、「環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討」総合報告書に提案と共にまとめ、共同で提出した。

また、基礎研究として、滋賀県立大学の國松教授グループと共同で行った「森林渓流水の水質モニタリングと解析」に関する研究では、その観測データにより、ナラ枯れによると思われる窒素濃度の上昇などの水質影響がはじめてみられた。今後ナラ枯れが琵琶湖集水域に拡大していくと、琵琶湖水質への影響も懸念される。これは5月に報告書を提出予定である。

研究センターでは、広報兼務及び研究交流担当として、琵琶湖環境研究部門の意見集約を手がけ、センターニュースの発刊のために編集会議などで、研究部門と管理部門の橋渡しをした。さらに、研究交流として、琵琶湖環境研究セミナーや講演会、滋賀県試験研究機関連絡協議会やその研究発表会に参加した。

琵琶湖博物館では屋外展示の植栽管理を引き続き臼井氏と共に行った。博物館の専門研究としては、硝酸形成に影響すると思われる斜面での水分条件に関する 2007 年の貴重なデータが得られた。

昨年、(財) 河川環境管理財団の助成金を得て行い、提出した成果報告書「下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究」は、幸い良い評価を受け、多数応募のうち採択件数 97 件のなかより、優秀成果に選ばれ、ホームページに公開された。

#### 主任学芸員 中井 克樹 (なかい かつき)

略歴 1992 年京都大学理学研究科博士課程動物学専攻単位取得、日本学術振興会特別研究員 (1990～1992 年) を経て、1992 年滋賀県教育委員会事務局 (仮称) 琵琶湖博物館開設準備室、1996 年京都大学理学博士取得、1996 年より現職。2006 年より滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課主査 (野生生物担当) を兼務。

専門分野 2007 年度まで 魚類生態学

2008 年度から 環境保全復元学

研究テーマ 外来生物の生態と影響の解明および防除・抑制方法の開発、希少淡水生物の保全、非海産 (陸産・淡水産) 貝類の生態と分布・変異

2007 年度は、県庁自然環境保全課野生生物担当の兼務 2 年目で週 4 日の勤務となった。「ふるさと滋賀の野生動物植物との共生に関する条例」に関し、前年度に選定作業に携わった指定希少野生動物植物種 22 種と指定外来種 15 種類が 5 月 1 日に指定され、生息地・生育地保護区 2 箇所の指定準備を行った。また、新たにイヌワシ・クマタカ小委員会と「湖国の自然 100 選」選定委員会の運営に関わった。加えて、特定外来生物指定の水生植物対策、循環灌漑の障害となる指定外来種スクミリンゴガイの防除対策、灌漑施設の維持管理事業における絶滅危惧種アサザの緊急避難など、希少種の保護と外来種の管理に携わった。

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業は、新規課題「外来種抑制等対策事業」となり、分担者として、全国都道府県のレッドデータブックに基づき特定外来魚の保全上の影響をとりまとめた。また、(財) ダム水源地環境整備センターから応用生態研究助成を受け、特定外来魚の人工産卵床への誘引性を高める設置方法の検討と、水温低下期における蝸集状況調査を行った。

#### 主任学芸員 大塚 泰介 (おおつか たいすけ)

略歴 1998 年京都大学大学院農学研究科博士課程熱帯農学専攻修了、博士 (農学)、島根大学汽水域研究センター非常勤研究員 (講師) を経て、2000 年より現職。

専門分野 2007 年度まで 陸上生態系学

2008 年度から 微生物学

研究テーマ 付着珪藻の生態、水田の微小生物群集の動態

ニゴロブナ仔魚の放流が水田生物群集に及ぼす影響を研究した。ニゴロブナの仔稚魚はミジンコをよく捕食する。すると、ミジンコにあまり食われなくなった小さな植物プランクトンや細菌などが多くなる。やがてニゴロブナが稚魚に成長し、ミジンコをほぼ食い尽くすと、底生動物を食うために底をつつき始める。するとリンが水中に回帰しやすくなり、それを利用して植物プランクトンがさらに多くなる。こうした一連の過程を、博物館内外の多くの研究者とともに、滋賀県農業技術振興センターの実験水田で観察してきた。

琵琶湖博物館はしかけ・たんさいぼうの会では、影の会長として暗躍した。たんさいぼうの会は、2007 年度も数千枚におよぶ珪藻の写真を撮影・整理し、2 本の論文を出版した。

琵琶湖博物館ウェブページでの、電子図鑑およびデータベースの公開・更新に関与した。特に、2000 年に公開された電子図鑑「滋賀のさかな」については、HTML のコードと悪戦苦闘しながら大幅なりニューアルを成し遂げた。ただし自分で原稿を書いている電子図鑑「珪藻」の増補更新は滞っている。

**主任学芸員 榎永 一宏 (ますなが かずひろ)**

略歴 1994年九州大学農学部農学科卒業、2000年九州大学大学院比較社会文化研究科博士後期課程単位取得、同年より現職、2002年九州大学博士(理学)取得。

専門分野 水生昆虫学

研究テーマ 水生昆虫の分類、系統進化、生物地理

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で6本行った。論文タイトルは『*The Hercostomus ulrich* group from Palaearctic China (Diptera: Dolichopodidae)』、『*New data on Asyndetus* (Diptera: Dolichopodidae) from China, with description of a new species』、『*Notes on Nepalomyia* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan』、『*Two new species of Diostracus* from China (Diptera: Dolichopodidae)』、『*Two new Plagiozopelma* species with a key to Chinese species (Diptera: Dolichopodidae)』、『*New species of Diostracus* from Yunnan, China (Diptera: Dolichopodidae)』であった。これらは中国や台湾における調査で得た標本に基づき、おもに新種記載を行ったものである。

文部科学省の科学研究費補助金(科研費)の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として、2007年8月4日から8月11日の間イギリスで、2007年12月2日から12月17日の間ニュージーランドで調査を行った。これらの地域に固有な種(未記載を含む)を多数採集できた。その他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

**主任学芸員 ロビン ジェームス スミス (Robin James Smith)**

略歴 1999年英国レスター大学地質学部大学院博士課程修了、古生物学博士。2000年から2002年日本学術振興会特別研究員として金沢大学、2002年から2003年英国学士院研究員として英国グリニッチ大学、2003年から2004年英国学士院研究員として英国自然史博物館、2004年COE研究員として金沢大学にて研究に従事。2004年12月より現職。

専門分野 2007年度まで 国際湖沼学

2008年度から 浮遊生物学

研究テーマ カイミジンコ(Ostracods)の分類と発達

以下の4つのプロジェクトに焦点をあわせて研究を進めた。(1) Darwinulid カイミジンコの個体発生 - これは Darwinulid 科では初めての個体発生についての詳しい記述であり、ほかの科のカイミジンコとの関係についての重要な情報である。この論文は現在査読されている。(2) 琵琶湖のカイミジンコの動物相プロジェクト - 収集は終了しこのプロジェクトの最初の論文が学術誌に提出された。(3) 白亜紀と現在のカイミジンコの放射光による分析 - これはドイツ、フランス、イギリスの研究者と行った大きなプロジェクトである。2008年2月2日~6日にフランス・グルノーブルのヨーロッパ放射光施設を利用し、内部構造を見るために1億年前のカイミジンコ化石をスキャンした。(4) 日本の地下水に生息するカイミジンコ - これは塚越哲教授(静岡大学)が主導するプロジェクトである。滋賀県でのサンプルの収集を開始し、まだ記述されていない種を既にいくつか発見している。これらの種の分類作業が現在進行中である。静岡でサンプル収集のためフィールドワークを行った。

事業に関する活動 - 英語版ホームページの維持と更新。博物館に来館する外国人グループへの説明やガイドの調整。JICA 外国人研修員のための博物館学コース運営の手伝い。2007年度 JASSO(カイミジンコ学会)の主催。2007年9月にフランクフルトで行われたヨーロッパカイミジンコ学会では琵琶湖博物館を代表して発表した。その他博物館に関する様々な業務を行った。

#### 主任技師 磯田 能年 (いそだ たかね)

略歴 2000 年京都大学農学部卒業、2002 年京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻修士課程修了、2004 年同博士後期課程中退、同年滋賀県職員（水産技術吏員）採用、滋賀県水産試験場を経て、2008 年 4 月より現職。

専門分野 水産学

研究テーマ ニゴロブナの初期生態について

湖岸のヨシ帯の減少や外来魚による食害などにより、ニゴロブナやホンモロコなどの漁業対象種が激減し、現在の滋賀県の水産業は危機的な状況にある。このような状況の中で、水産試験場在職時には、漁業対象種の増殖に関する試験研究に携わってきた。特にニゴロブナに関する研究に関わり、遺伝的多様性の研究、ゆりかご水田の調査、造成ヨシ帯の機能評価などの研究を行ってきた。ニゴロブナの初期生態、特に稚魚期から冬期までの行動等についてはまだまだ不明なことも多く、水田地帯での仔稚魚の行動を中心に明らかにし、ニゴロブナの資源回復につながる知見を蓄積したい。これまで、水産行政の中で水産の振興を考えてきたが、琵琶湖博物館において新たな視点で琵琶湖漁業の復興に役立ちたいと考えている。

#### 学芸技師 楊 平 (よう へい)

略歴 2008 年筑波大学大学院人文社会科学研究科博士課程修了、博士（社会学）取得。2007 年 9 月より現職。

専門分野 環境社会学

研究テーマ 集水域における自然利用と生活とのかかわりに関する環境社会学的研究

2007 年 9 月に学芸技師として採用されてからも、筑波大学大学院人文社会学研究科に在籍時から引き続いて、「自然利用と生活との関わり」についての環境社会学的研究を行う。中国・太湖湖岸の集落における水利用との比較を念頭において、琵琶湖の集水域農村における自然利用と管理のあり方について分析を進めた。

2008 年度は、2007 年度の調査結果をとりまとめ、これまでの「中国・太湖」の研究との比較や、研究成果の公開と発信に取り組みたい。

#### ◇博物館学研究担当

##### 専門学芸員 秋山 廣光 (あきやま ひろみつ)

略歴 1974 年日本大学農獣医学部水産学科卒業、同年滋賀県立琵琶湖文化館を経て、1996 年より現職。

専門分野 2007 年度まで 水族病理学

2008 年度から 資料保存学

研究テーマ 博物館における写真活用と QOL の向上

一昨年の佐川美術館で行われたキッズミュージアムの活動以来、美術館、博物館連携事業を通して映像、中でも写真（静止画、銀塩写真）の生い立ちまでさかのぼり研究する必要に迫られました。その中で、針穴写真と日光写真、フォトグラムという原初的な画像形成手段が芸術性と科学技術性を兼ね揃え、学習に利用できることを得ました。しかし、その延長線として、写真療法、フォトセラピーという新たな分野に足を踏み入れる結果となりました。折しも、2 月に第一回フォトセラピー学会が開催されたため、この分野での研究、活動内容を調べる事が出来ました。奇しくも、類似した名称の写真療法家協会が 4 月に発足したため、その活動内容も併せて研究することが出来ました。

当初の思惑としては、博物館活動の発展を考え、近年模索されている回想法について、何らかの手がかりを求めていたところでした。琵琶湖博物館には、昭和 20-30 年代の琵琶湖とその周囲で暮らす人々の写真資料が沢山集められています。これらを回想法という視点で活用できないか、調査するのが目的でした。

写真の本質について、フランスの数理学者ロラン・バルトがその著書の中に記したように、撮ること、撮られること、眺めることの実践と志向であると考え、写真療法はまさしくその実践を通して行われるものであることが分かります。回想法で利用可能な古写真は、写真の本質の一部を使うことでしかなく、フォトセラピーとも写真療法とも別なものであることが分かりました。しかし、写真が何らかの形で人の記憶や身体の記憶と関連し



回想という機能に役立つことも事実です。又、回想法としてではなく写真療法として博物館活動に利用可能な分野であることも分かりました。療法と言えるほど効果のある写真撮影とその活動を博物館にどのように活かすかは、同時に博物館と資料の持つ精神治療的效果（ミュージアムセラピー）についての活動に発展するものと考えています。

#### 主任学芸員 楠岡 泰（くすおか やすし）

略歴 1985年東京都立大学理学研究科博士課程単位取得、東京都立大学理学博士取得、日本学術振興会特別研究員を経て、1991年滋賀県教育委員会事務局文化部文化施設開設準備室に勤務、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 微生物生態学

2008年度から 地域連携学

研究テーマ 繊毛虫の生態

2007年度は総合研究「湖沼-水田環境系の解明-ニゴロブナを媒体として-」の一環として水田に放流されたニゴロブナの消化管内容物を調べ、フナが最初にミジンコ類を食べ尽くし、後にユスリカなどの底生動物を捕食することを明らかにした。総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」では中国から繊毛虫の分類学者を招待し、一緒に琵琶湖で繊毛虫の調査を行った。その結果、1種の新種および、9種の琵琶湖未記録種を見つけることができた。

博物館の事業としては企画調整課で広報担当として、広報対応や情報の発信を行った。JICA博物館学集中コースの担当として、8カ国10人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートを行った。

2月にタイの国立Mahidol Wittayanusorn School から招待され、学校や大学の教育関係者に対して、琵琶湖博物館が行っている学校や地域との連携事業について講義をし、生徒に対しては陸水学的調査の仕方やプランクトン観察の実習および講義を行った。

#### 主任学芸員 戸田 孝（とだ たかし）

略歴 1991年京都大学大学院理学研究科博士課程地球物理学専攻単位取得、同年科学技術庁防災科学技術研究所特別研究員（非常勤）、1992年京都大学理学博士取得、同年滋賀県教育委員会事務局（仮称）琵琶湖博物館開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 地球物理学

2008年度から 博物館情報学

研究テーマ 人工衛星や航空機からの観測による琵琶湖の流動の実態解明

本年度の前半は、情報システム中枢機器の更新に伴う業務が主な担当事業であった。この業務は、分掌としては本来は副担当であるが、技術的な部分、特に過去の経緯に関わる部分については、実質的な担当者として主担当の全体業務を補佐した。

年度後半は、滋賀県博物館協議会の活動、および同協議会との共催で実施したギャラリー展示の企画運営が主な担当事業となった。これは、同協議会の創立25周年記念事業として展開したものであり、11月から全加盟館が参加するスタンプラリーといくつかの加盟館による地域別の巡回パネル展を行い、3月に琵琶湖博物館で全県総合展示を行ったものである。また、この事業を通して、博物館連携組織を介した展示活動に関する論考がまとまったので、2008年度前半のうちに論文公表を実現するべく、投稿手続きを進めている。

研究関連では、以前から博物館学分野の研究方針を確定するべく検討を進めてきたが、上述の論考を含む博物館連携に関する研究テーマや、学校との連携に関する研究テーマを、「機関連携」というキーワードで整理することによって、今後の見通しを固めつつある。

### 主任学芸員 芦谷 美奈子 (あしや みなこ)

略歴 1991年千葉大学理学研究科修士課程生態学専攻修了、理学修士、同年滋賀県教育委員会事務局文化施設開設準備室を経て、1996年より現職。

専門分野 2007年度まで 水生植物学  
2008年度から 博物館生態学

研究テーマ 琵琶湖の沈水植物の適応戦略、および展示の利用に関する研究

平成20(2008)年から、専門分野が博物館学の分野に変更となった。しかし、これからも琵琶湖の沈水植物の生態について調査研究していくつもりであり、特にイバラモなど花粉が水中媒介される植物群について深めていきたい。博物館学の分野では、これまで取り組んできた「企画展などにおける展示の利用およびその評価」についての研究成果をまとめると共に、展示交流の在り方など博物館全体に関するテーマにも挑戦したい。

### 主任学芸員 中藤 容子 (なかとう ようこ)

略歴 1996年京都大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻修了、文学修士、同年5月より現職。

専門分野 2007年度まで 民俗学  
2008年度から 資料活用学

研究テーマ 博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見

開館以来2007年度まで、民俗学部門担当の学芸職員として、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当してきました。伝統的な日本の暮らしを探究し、これからの社会に大いに役立てたいという見通しをもって、主に琵琶湖水系の漁撈・淡水魚食文化をテーマに調査研究した成果を資料整理、展示や交流活動の場で公表してきました。2005年度には本館収蔵民具資料整理の集大成として琵琶湖水系の漁労習俗資料の資料目録を刊行し、2006年度にはその資料データベースを本館インターネットページ上に公開。さらに2007年度に衣食住・生産生業資料の目録も刊行できました。

2008年度からは「資料活用学」という専門分野を担当します。2005年度以来、専門研究のテーマとして「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」を掲げ、博物館に収蔵する民具資料を活かしていかに社会貢献できるか試行錯誤をしてきました。はしかけグループ「近江はたおり探検隊」や「展示室を楽しくする会」の活動の中で、地域の人々とともに探究し、技を継承し、多様な人々とネットワークを作っていく新しい実践を進めています。さらに2008年1月からは「ミュージアムセラピー研究会」を立ち上げ、研究・教育を越えた新しい博物館の役割を模索し始めました。博物館の生活実験工房とその周辺の田畑・森林を使って、志を同じくする人々とともに四季折々の昔の暮らしを体験する場をつくっていかせたらと夢を描いています。

### 主査(教員) 中野 正俊 (なかの まさとし)

略歴 1988年大阪教育大学教育学部教育学科小学校教員養成課程理科教育学研究室卒業、滋賀県公立中・小学校教員、在職中 2000年滋賀大学大学院教育学研究科学校教育専攻修了、修士(教育学)、2006年より現職。

専門分野 2007年度まで 理科教育学  
2008年度から 学校連携学

研究テーマ 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究

2007年度は、県教委やその他市町教委と連携し、当館で行う教職員研修を企画、運営した。これについては、教員研修受け入れをさらに増やすため、次年度の初任教員全員に対し、研修会を当館で行えるよう県総合教育センターと折衝した。また、総合教育センター課題研究委員、びわ湖フローティングスクール運営協議会委員としての連携、環境学習支援センターとは、県環境学習のつどいを共同運営した。地域ワークショップ展開事業では、文化庁から「芸術拠点形成」支援金を、標本・展示物移動展示事業では、日本財団から「海と船の企画展」助成金を獲得し、野洲市内中学校ならびに湖北町内にある複数の小学校などへ児童生徒対象事業を実施した。また、これらの支援金によって、生涯学習としての視点から地域住民向けの展示会や体験学習を実施した。

一方、研究関連では、科研費（基盤研究C）対象研究を軸としながら、滋賀大学教育学部紀要に「環境配慮行動を規定する要因の検討」を投稿した。これは、環境学習によって、小・中学生の環境保全意識がどの程度高まり、またはどの心理因子が顕著で、あるいは関連があるかを検証する具体的な尺度が構成されなかった現状から切り込んだ。各地で行われたせっかくの取り組みが同じものさしで論じられなかった理由の一つでもあった。そこで、2007年度は、環境配慮行動を規定する児童生徒の心理的な因子個々の関係性を明らかにするとともに、環境学習を行うに当たって、指導者がどのような点に配慮し、児童生徒の環境保全に対する実行力を育成すべきかをさぐっていった。2008年度は、博物館のサテライト化を主眼とする実践的研究部門でも、理科教育学会全国大会や滋賀大学紀要での発表を考えている。

#### 主任主事（教員） 飯住 達也（いいずみ たつや）

略歴 1993年広島大学学校教育学部中学校教員養成課程理科教育専攻卒業、1995年広島大学大学院学校教育研究科理科教育専攻修了、教育学修士。1995年より近江八幡市立八幡西中学校、1999年より大津市立仰木中学校に勤務し、2008年4月より滋賀県教育委員会生涯学習課併任、琵琶湖博物館勤務。

専門分野 学校連携学

研究テーマ 琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発

大学での研究テーマは物性物理学。13年間の教員生活の中で、主に学級経営、生活指導、部活動指導などに取り組む。琵琶湖博物館では交流担当として学校・園の校外学習や一般団体の体験学習の受け入れなどを担当している。博物館は子どもが自発的な学びにより、概念転換をする機会にあふれているところである。学校・園の校外学習・環境学習などにおける体験活動や個人向け体験学習「琵琶湖博物館わくわく探検隊」でプログラムを実践しながら、多忙を極める現場教員の教育活動に博物館がいかに連携していくか、また直接体験が少なくなった子どもたちにどのような学習プログラムを提供していくか、考えている。

琵琶湖博物館 年報 12号

2007年度

平成20年（2008年）8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県下物町1091番地

電話 077-568-4811